キ對北支對南支對南方諸圈等ニ付テハ速カニ資金決濟ノ途ヲ開キ本邦ノ物資計畫乃至ハ船腹關係ニ於テ苟モ許サルベキ物資交流ノ余地ガ有ルナラバ決シテ之ヲ逸セザルコトニ努メネバナラヌ。

三、配給面

此ノ部面ニ於テハ直接ノ物價統制策トシテ今直チニ實施スベキ方策ガ多イ。

其ノ一ハ民生保持ノ爲ノ最小限度ノ要求ヲ充タス爲ノ生活必需品ノ配給デアル。

幸ヒニシテ生活必需品タル米、砂糖、食油等ハ凡テ我ガ方ノ掌握セル物資デアルカラ之等ヲ能フ限リ低位ニ且ツ安定セル價格ヲ以テ配給スル方策ヲ建ツベキデアル。就中米ハ民衆必需物資ノ價格ノ基礎トナルカラ其ノ低價格維持ハ頗ル有效デアルノミナラズ延イテハ奥地土配品ノ價格ニ迄影響スル。依而南方米軍票米、共ニ許スナラバ其ノ經理關係ニ於テ多少ノ損失ヲ忍ブトモ上海ニ於ケル安値配給ガ結局ニ於テ我ガ方ノ利得デアルト觀察スル。

其ノ二ハ當地生産機構ニ對スル原料品ノ配給デアル。倉庫ヲ管理シ他地域ヨリノ輸入權（若シ輸入ガ許サレルナラバ）ヲ掌握セル我ガ方トシテハ原料資材ノ配給ニ對シテモ絶對權ヲ保有スルト言ツテヨイ。依而其ノ重點主義ニ依ル配給ト適正値段ニ依ル配給トヲ考慮スベキデアル。既ニ原料資材配給ノ恩惠ヲ與ヘタ以上ハ華人生産者ニ對シテモ其ノ生産品ノ價格及ビ販路ニ對シ發言權ヲ確保スルコトトナルカラ進ンデハ其ノ活用ヲ計ラネバナラヌ。

原料資材トシテハ石炭ハ勿論之ヲ加ヘルベキデアルガ電力瓦斯水道等モ同ジ範疇ニ屬スルモノト考ヘテヨイ。

此ノ關係ニ於テ一言スベキコトハ米、石炭等ニ於テ或ル場合採算割ヲ忍ンデモ安値配給ヲスル方ガ大局的ニ見テ有利デアルト同樣ニ電力瓦斯等ニ於テ其ノ配給會社ガ敵性商社ナル場合ニハ當分ノ間赤字ヲ忍ンデ安値配給ヲスルコトヲ考慮スベキデアル。敵性會社ガ當分ノ間其ノ資産ヲ食ツテ行クコトハ差支ヘナイ筈デアル。

以上ハ上海地區ニ於ケル配給ノ問題デアルガ對奥地關係ニ於テハ全然別箇ノ考慮ヲ必要トスル。即チ上海ト奥地トノ經濟ハ隔絶シ物價ハ遊離シタ以上奥地ニ配給スベキ物資ノ價格ハ上海價格ト離レ專ラ奥地農民ノ購買意思ヲ刺戟シ彼等ノ生産品ノ出廻リヲ促進セシムル意圖ノ下ニ決定サレネバナラヌ。斯クノ如キ配給ヲ爲スニ付テハ現在ノ奥地販賣機構ヲ大イニ擴充シナケレバナラズ其ノ經理ニ於テハ奥地買付品ノ價格ト組合セテ大キナ調整組織ヲ作ラネバナラナイデアラウ。

右ノ新機構ハ當然當地ノ生産機構ヲモ或ル程度包含スル必要ガアルカラ差シ當リ紡績、煙草等ノ大會社ヲ必要ナル範圍此ノ傘下ニ收メネバナラヌ（北支ノ紡績ハ既ニ此ノ狀態ニ入ツテキル）。

四、通貨面

通貨面ニ於テハ二ツノ基本方策ガアル。

其ノ一ハ新券ノ價値ヲ絶對的ニ軍票ニ**リンク**スルコトデアツテ既ニ當局ノ施策ハ此ノ方向ニ向ツテキルガ尙例ヘバ軍票物資ヲ軍票儲備券ノ自由ナル二本建トスル等ノ施策ニ進ミ一層强化ノ余地ガアル。

其ノ二ハ新券ノ回收ヲ適當ニ行フコトデアル。

其ノ爲ニハ差シ當リ金塊ノ賣却ヲ提唱シ度イガ進ンデハ公社債ノ發行本邦有力商社株式ノ華人ヘノ開放等ノ途

ニ進ムベキデアル。(上海地區ニ於テハ今後必ラズシモ新券ノ**イフレーション**アリトハ考ヘラレヌ)。

以上各部面ニ分ケ爲スベキ施策ノ基本的方向ヲ述ベタガ通常考ヘラルル公定價格ノ實施思惑取引ノ取締買溜ノ抑制等ノ方策ハ我ガ方ノ行政能力ノ現狀ヨリ見テ實ハ言フベクシテ行ハレズ下手ニ之ヲ强行スレバ生產增强ノ目的ニ反スルノミナラズ却ツテ物資ノ隱匿離散ヲ結果シテ其ノ弊害ノ恐ルベキモノガアルト思ハレルカラ之等ハ懸ケ聲ノ程度ニ止メテ置イテ深入リセザルコトヲ得策ト考ヘル。

最後ニ物價統制トイフ困難ナル政策ヲ實施スルニ付テハ各機關ノ緊密ナル連絡ト統一調和アル實施ヲ必要トスルコト言フ迄モナイカラ我ガ方各機關ノ連絡ニ付テ考慮サルベキモクデアルコトヲ附言スル。

三、工部局價格統制概要

(昭和十七年七月十三日事務局起案)

目次

(一)上海ニ於ケル物價ノ趨勢
(二)價格統制ノ沿革
(三)價格統制ノ現狀

(一)上海ニ於ケル物價ノ趨勢

從來工部局ガ實施シ來レル物資統制ノ全發展ハ一ニ係ツテ上海ニ於ケル極メ特徵的ナ物價ノ暴騰ニアリ。從ツテ物價統制ノ問題ハ、先ヅ統制ノ對象トナルベキ物價ノ趨勢ヲ一應把握セザルベカラズ。

上海ニ於ケル物價ノ趨勢ハ、昭和十一年以後現在迄一貫シテ上向線ヲ示セルガ就中ソノ中主要ナル發展段階ハ支那事變ノ上海波及(昭和十二年八月)、第二次歐洲大戰ノ勃發(昭和十四年九月)、大東亞戰爭ノ勃發(昭和十六年十二月)等ニシテ、イヅレモ上海ヲ繞ル世界的ノ大戰爭ガ直接間接ニ深刻ナル影響ヲ與ヘタリ。卸賣物價竝小賣物價(生計費指數)ニ就キテ、各々昭和十一年ヲ一〇〇トスル指數ヲ表示スレバ左ノ如シ。

	卸賣物價指數	小賣物價指數
昭和一一年平均	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇
同　一二年〃	一一八・九九	一一八・一五
同　一三年〃	一四一・五七	一五二・九〇
同　一四年〃	二二六・一八	二〇三・二五
同　一五年〃	四七五・八六	四三八・二二
同　一六年〃	一、〇〇八・八七	八七一・八九
〃　一月	六〇九・〇二	五九七・一九
〃　二月	六五七・六〇	六〇二・二九
〃　三月	七一五・八〇	六七九・九九

昭和一六年	四月	八〇三・九三	一八八
〃	五月	八五四・四五	七三二・七九
〃	六月	八六〇・〇六	七五七・九六
〃	七月	九〇三・五八	八〇〇・三二
〃	八月	一、〇〇八・〇九	八八五・五五
〃	九月	一、一二九・六四	九五九・〇四
〃	十月	一、二五四・四五	一、〇〇一・八八
〃	一一月	一、六五九・六五	一、一七四・七〇
〃	一二月	一、六五〇・二二	一、一九四・二五
昭和一七年	一月	一、六三二・八一	一、三一五・〇五
〃	二月	一、七三〇・一七	一、四六八・九三
〃	三月	一、九七八・六五	一、七八一・六〇
〃	四月	二、三八四・八九	二、二一一・六七
〃	五月	二、五七五・〇六	二、六六三・二一

（備考）卸賣物價指數ハ財政部稅則委員會『上海物價月報』、小賣物價ハ工部局工業社會部「華人勞働者生計費指數」ニヨル。

右ノ兩指數ハ、同一ノ時期ヲ基準トナスモ、調査ノ對象竝方法同ジカラズ、從ツテ、兩指數ヲ直チニ比較對照ナスハ妥當ナラズ。併シ上海ニ於ケル物價ノ趨勢ヲ示ス一應ノ資料トシテコレヲ見ル時、兩指數ノ間ニ若干ノ經庭アレドモソレハ單ニ騰貴ノ時間ノ遲速ヲ示スモノニ外ナラズ、イヅレモ前記諸戰爭ヲ直接間接ノ契機トシテ相前後シテ急激ナル騰貴ヲ示セリ。

尙念ノタメニ、前記各指數ノ分類別ニヨリソノ騰貴狀況ヲ點檢スルニ、卸賣物價ニ於テハ金屬化學原料ノ騰貴ガ特ニ甚シク、糧食ハ第三位ナリ。生計費指數ニ於テハ糧食ノ騰貴ガ首位ヲ占メタリ。各類別指數左ノ如シ。

卸賣物價指數

總指數	二、五六九・六七	總指數	二、六六三・二一
糧食	二、八〇〇・二七	糧食	二、九一一・一五
其他食物	二、〇七四・一九	住居	二、一二三・一五
紡織品及其他原料	二、一一一・一七	衣服	二、四八八・九四
金屬	五、一一〇・九五	雜	二、二五〇・九〇
燃料	二、三四九・八九		
建築材料	二、五四六・五六		
化學原料	四、一七七・七八		
雜類	二、六四五・四五		

生計費指數

（備考）卸賣物價指數ハ昭和十七年四月、生計費指數ハ同五月ナリ。

(二)價格統制ノ沿革

工部局ノ物價統制ハ、前述ノ如キ物價暴騰ニ對應シ、昭和十五年三月初メテコレニ着手、爾後物價騰貴ノ發展ニ伴ヒソノ手段、方法共ニ强化セラレテ現在ニ到レリ。而シテ、統制强化ノ發展段階ニ從ヒコレヲ四期ニ區別スルヲ至當トスベシ。即チ、昭和十五年三月工部局ガ物價統制ニ着手セシ以後昭和十六年十一月土地章程附則第五十三條ノ實施ニ到ル迄ノ時期ヲ第一期トシ、第二期ハ右附則ノ實施以後十二月八日大東亞戰爭勃發迄ノ時期、第三期ハ大東亞戰爭勃發ヨリ本年三月通貨改革着手迄ノ時期、第四期ハ通貨改革着手ヨリ現在ニ到ル迄ノ時期ナリ。以下項ヲ分チテ工部局ノ物價統制沿革ノ概要ヲ述ブルベシ。

一、第一期（土地章程附則第五十三條制定以前）

工部部ガ物價問題ニ對シ特別ノ關心ヲ拂フニ到リシハ昭和十五年(一九四〇年)三月以來ノコトナリ。即チソノ前年夏以來法幣ノ下落著シク、同年末以後翌年春ニカケ物價暴騰ノ勢ガ次第ニ表面化スルニ到リシタメ、工部局ハ同年三月十三日附告示ヲ以テ、食品其他ハ必需品ヲ貯匿シ獨占スル者竝ニ之ヲ投機ノ具ニ供シ暴利ヲ貪ル者アル時ニ法ニヨリ處罰スル旨公示セリ(布告、通常治安維持ニ關スル公示事項ニ限リ用ヒラルルヲ例トス)。布告ノ全文左ノ如シ。

共同租界內ニ於テ食料品及ビ其他ノ日用品ノ賣惜ミ及ビ買占ヲ爲シ、或ハ右商品ヲ投機ノ具ニ供シ暴利ヲ貪ル者アリ。右行爲ハ、特定食料品及ビ其他ノ日用品ノ價格ヲ現在ノ如ク暴騰セシムル原因ナリ。斯ル行爲ハ共同租界ノ安寧秩序及ビ治安保持ニ反スルモノナリ。

因テ右ニ該當スル行爲ヲ爲ス者ハ凡ベテ法律ノ定ムルトコロニ依リ處罰ス。

コレ工部局ガ價格統制ニ關スル措置ヲ講ジタル端初ナリ。次デ四月十三日附告示第五二三三號ヲ以テ工部局ガ發表シタル品目表及今後發表スルコトアルベキ品目表ニヨリ指定シタル物資(基本物資表ト稱ス)ノ販賣ニ從事スル者ニ對シ左ノ各條ノ嚴守ヲ命ジ、違反者ハ凡ベテ處罰スルコトトセリ。告示ノ全文左ノ如シ。

左記**リスト**若クハ工部局ノ發行スル**リスト**(以後日用品**リスト**ト稱ス)ニ記載セル食料品及ビ其他ノ日用品ヲ販賣スル者ニシテ左ノ規定ニ違反スル場合ハ凡ベテ法律ノ定ムルトコロニ依リ處罰ス。

一、基本物資表中ニ記載スル商品ヲ販賣スル時ハ、工部局ノ指示ニ從ヒ華語、英語若クハ日本語ヲ以テ價格表ヲ作リ、之ヲ商品臺、飾窓或ハ營業用場所ノ外側ニ外部ヨリ讀ミ易キヨウ明瞭ニ揭示スベシ

二、基本物資表ニ記載スル商品ヲ販賣スル時ソノ商品全部ニ一・二吋以上ノ大キサノ數字ヲ以テ一**ポンド**、一打、一個其他ニ對スル價格ヲ記載セル値札ヲ付スベシ

三、工部局ノ指示アル時ハ、商品、手持數量、仕入數量賣上數量全部ニツキ正確ナル帳簿ヲ備フベシ

四、工部局係員ハ本告示ノ目的ノタメ營業場所ニ立入ルコトヲ得ルモノトス

暴利ヲ貪ルタメノ操作、思惑ヲ行ヒ前各條ノ一ニ違背スル事實アル時ハ證明書ヲ添ヘ最寄警利署マデ屆出ズルカ又ハ文書ヲ以テ福州路一八五號警視總監マデ屆出ズベシ。但シ食品市察內ニ發生セル場合ニ限リ該市場內ノ衛生監督マデ屆出ズルカ又ハ文書ヲ以テ漢口路二二三號衛生局マデ屆出ズベシ。

而シテ、右ノ告示ト同時ニ各種肉類及同加工品、魚類、鳥肉及鷄卵、果實類、野菜類、雜食料品類、牛乳・バター・食パン類、石鹸、米、石炭及燃料類等ノ生活必需物資ヲ基本物資表ニ發表セリ。

工部局ハ以上ノ工作ト竝行シテ四月下旬以後五月ニ於ケル物價暴騰ニ際シ生活必需品販賣者ニ注意ヲ與ヘ、又五月三日附告示第五二五一號ヲ以テ法幣ノ變動ヲ利用シテ不法ニ物價ヲ騰貴セシムルガ如キ行爲ヲ禁止セリ。告示ノ全文左ノ如シ。

日用品販賣業者ニシテ法幣價値ノ變動ヲ利用シテ其ノ商品ノ價格ヲ不法ニ値上ゲスル者ニ對シテハ必要ナル取締ヲ行フ

工部局ガ實施セル以上ノ措置ハ、華人商社ニ對シテノミ强制力ヲ有スルモ外人商社ハ治外法權ニヨリ工部局ノ統制ノ埒外ニアリ、更ニ基本物資表ニ指定セラレタル生活必需品ニ於テモ公定價格制度ナキ等ノタメ、價格統制ノ效果見ルベキモノナカリキ。即チ、先ニ揭ゲタル卸賣物價指數表竝生計費指數ニ見ラルル如キ著シキ物價暴騰ヲ現出スルニ到レリ。但シ、米ノ價格統制ニ關シテハ、翌昭和十六年五月以後工部局ガ直接外米ノ輸入或ハ配給ヲ實施シ、市場價格ヲ牽制シタルタメ一應ソノ騰貴ヲ抑制スルコトニ成功セリ。然ルニ同年十月大東亞戰勃發ノ危機ニ刺戟セラレテ法幣大暴落ガ起ルヤ停止狀態ニアリシ米價竝ノ其他物價モ一齊ニ暴騰シ、價格統制ハ緊急ヲ要スル事態トナレリ。

二、第二期（土地章程附則第五十三條制定以後大東亞戰爭勃發迄）

茲ニ於テ工部局事務當局ハ十月十八日ノ市參事會特別會議ニ對スル議題トシテ、十月十六日附ヲ以テ價格統制ニ必要ナル土地章程附則草案ニ關スル事務總長兼總務局長名ノ「メモランダム」ヲ作成シ之ヲ各市參事會員ニ送達シタルガ、ソノ趣旨ヲ要約スレバ左ノ如シ。

一、事態ハ急迫化シ或種物資ハ既ニ供給不足ガ起リ、他種物資ハ近キ將來ニ供給不足ノ起ル虞レアル爲既ニ不足ガ起リタルト同樣ノ狀態ニアリ、至急價格統制ノ非常措置ヲ講ズル必要アルコト

二、右ニ關シ華人ニ對シテハ特區法院ヲ通ジテ價格統制政策ヲ實施スルニ適當ナル法律及ビ規則アリ、治外法權ノ諸法院ニ關シテハ章程附則ノ通過ヲ得ル必要アルモ明カニ大多數市民ノ支持スベキ章程附則ガ領事團ニ依リテ承認セラルルナランニハ治外法權ノ諸法院モ之ヲ敢テ無效ト宣スルハアルマジキコト

三、多クノ場合輸入商及卸賣ハ小賣商ニ對シ正當ナル價格ヲ附スルニ拘ラズ小賣商ガ一般大衆ニ對シ全ク不正當ナル價格ヲ附スルハ衆目ノ一致スルトコロナルニ鑑ミ、價格統制ハ先ヅ最モ重要ナル輸入品ノ小賣價格ノ統制ヨリ着手スベキコト

四、工部局ハ隨時工部局告示ニ依リ若干商品ヲ必需品ト指定シ且ツ隨時該商品ノ最高價格ヲ定メ、最高價格ヲ越ユル價格ヲ以テ該商品ヲ販賣シタル場合之ヲ章程附則ノ規定ニ依ル犯罪トスルコト

尙「メモダム」ノ末尾ニ新タニ制定スベキ土地章程附則ノ草案ヲ附シタリ。

十月十八日ノ市參事會特別會議ハ事務局ノ提案ヲ審議シタル結果事務局提案ヲ原則的ニ承認シ、附則草案修正ノ爲小委員會ヲ設ケテ之ニ附託シタリ。十月二十日ノ特別會議ニ於テ右小委員會ノ修正草案ノ審議ヲナシタル上該草案ヲ可決セリ。土地章程附則ノ制定ハ條約國領事團ノ承認ヲ得テ初メテ其ノ效力ヲ生ズルモノナルヲ以テ市參

事會ハ即時領事團ニ對シ所定ノ手續ヲ取リ、ソノ承認ヲ經テ十一月四日附告示第五五七五號ニヨリ土地章程附則ヲ公布セリ。同第五十三條ノ全文左ノ如シ。

價格統制品トシテ工部局告示ヲ以テ隨時指定スル物品ノ小賣商ハ凡テ個人會社ノ別ナク、工部局ガ該物品ノ手持又ハ保管數量ノ記帳若クハ該物品ノ販賣ニ關シ告示ヲ以テ隨時定ムル規定ヲ遵守スルコトヲ要ス。本條ノ規定ニヨリ工部局ノ公布スル規則ニ違背スル者アル時ハ個人會社ノ別ナク左ノ各項ノ一若ハソノ雙方ヲ適用スルコトアルベシ。

(イ)土地章程第十七條ノ規定ニヨル處罰(註)若ハ該個人若ハ會社ノ所屬スル國ノ法律ニヨリ正當ト認メラルル其他ノ處罰。

(ロ)該個人若ハ會社ノ營業許可證ノ一時停止若ハ取消。

(註)土地章程第十七條ノ規定左ノ如シ。

本章程違反ニ關シ、租界當局ヨリ報告ヲ受理シ、又ハ中國地方官廳ヨリ通知ニ接シタル外國領事ハ、ソノ管轄下ニ在ル事項ナル限リ總テノ場合ニ於テ違反者ヲ召喚シ、有罪ナラバ略式裁判ニ依リ銀三〇〇弗ヲ越エザル罰金、又ハソノ他適當ト認ムル方法ニ依リ處罰スルコトヲ得。若シ上海ニ自國領事ヲ有セザル外國人ガ本章程ニ違反セル場合ハ、章程ノ尊嚴維持並ニ違反者處罰ノタメ市參事會ハ領事團ノ一名又ハ一名以上ノ領事ヲ通ジ、支那當局ニ起訴スルヲ得。

工部局ハ右附則ノ制定ニヨリ租界內ニ於ル凡テノ個人及商社ニ對シテ價格統制ニ必要ナル措置ヲ取リ得ルコトトナレリ。工部局ハ右措置ノ後先ヅ十一月九日附告示ヲ以テ外米ノ最高價格ヲ一市石一三〇元ニ公定シ(當時外米市場價格ハ一市石一八〇元乃至一九〇元ニ達シタリ)、同時ニ消費者ガ小賣商ヨリ購入スルコトヲ許可セラレタル一定數量ヲ越ヘタル外米ノ移動ヲ禁止セリ。コレガ租界ニ於テ小賣價格ニ對スル最高價格公定制度ヲ實施シタル嚆矢ナリ。次デ同十六日附告示第五五九六號ニヨリ第一次小賣價格統制品目表ヲ發表同十八日ヨリ實施、コレニ前後シテ小賣價格統制實施ニ必要ナル各種ノ措置ヲ講ジ、又小賣價格統制品目表ハ爾後逐次追加セラタリ。工部局ハ物價統制上必要ナル應急的措置ヲ實施スルト同時ニ、他方ニ於テ右措置ニ照應スル裏附物資ノ供給確保ニ關シ必要ナル措置ヲ講ジタリ。即チ、十一月初旬市參事會議長**リデール**及市參事會員**マクマレン**兩氏ガ香港ニ出發シ、法幣安定資金委員會ト協議シタル結果、米、小麥粉、石炭、食用油等ノ重要物資輸入ニ必要ナル爲替資金、即チ、**オフイシヤルレート**ニヨル爲替ノ割當取得ニ成功セリ。當時傳フルトコロニ依レバ工部局ガ爲替割當ヲ取得タル資金總額ハ月額約五百萬米**ドル**ノ巨額ニ達シ、毎月米四十萬袋、石炭五萬**トン**、小麥粉二十萬袋、ソノ他砂糖及食用油等上海ニ於ケル所要額ノ輸入計畫ヲ樹立セリ。而シテ、兩氏歸滬ノ後直チニ右物資ノ輸入配給ノタメニ輸入商並製造業者ノ各協會組織ニ着手シ、同時ニ工部局內ニ輸入業者ト協力シテ小賣價格ヲ統制スル委員會、工部局石炭統制委員會及ビ船腹調達ノタメノ船腹委員會等、物資ノ輸入配給ニ必要ナル諸委員會ヲ設置シ周到ナル用意ノ下ニ着々ト物價統制ノ準備ヲ進メタリ。

斯クテ、工部局ハ附則第五十三條實施後一船商品ニ對シ最高價格ヲ決定シタルガ、之ガ勵行取締ノタメ以下ノ如キ各種措置ヲ實施セリ。

一、小賣價格統制ニ指定セラレタル物品ノ販賣ニハ凡テ値札ヲ付シ一・二吋以上ノ文字ニテ一**ポンド**、一打一箇其ノ他ノ價格ヲ明記セシム（十一月十九日附告示第五六〇五號）。

二、小賣價格統制品ヲ小賣スル者ハ凡テ商品仕入簿、買上簿及手持商品簿等ヲ備ヘ、所定事項ヲソレゾレ記入セシム（十一月十九日附告示第五六〇六號及翌昭和十七年四月一日附告示第五八四七號）。

三、價格統制品ヲ販賣スル小賣店營業許可證發行條件ヲ改メ、『手持品アルニ拘ラズ價格統制品トシテ工部局ガ告示ニヨリ隨時指定スル物品ノ小賣ニ應ゼザル營業主ニ對シテハソノ許可ヲ取消シ該商品ヲ沒收スルコトアルベシ』ノ一項ヲ加ヘタリ（十一月十九日附告示第五六〇七號）。

四、小賣商價ニシテ小賣價格統制品ヲ販賣シタル時ハ領收書ヲ發行セシム（十一月二十七日告示第五六二一號及翌昭和十七年三月十七日附告示第五八一五號）。

以上。一連ノ準備ハ、ソノ後約一ケ月ニシテ勃發シタル大東亞戰爭ノタメ實際ニハ殆ンド實行ニ到ラズ、從ツテ何等ノ功果ヲモ齎シ得ザリシガ、茲ニ當時ニ於ケル工部局ノ價格統制ニ對スル手段體系トソノ準備トヲ見出シ得ベシ。又當時工部局ノ價格統制ニ對シ、統制ガ華人市民ノ生活必需品ヨリモ專ラ高級ノ輸入商品ニ偏スルトノ批難尠カラザリシガ、ソノ手段體系ノ然ラシムルトコロニシテ、蓋シ當然ノ歸結ナリシ所以ヲ知ルヲ得ベシ。

三、第三期（大東亞戰爭勃發以後通貨改革措置着手迄）

十二月八日、大東亞戰爭ガ勃發シ、工部局ガ準備シタル價格統制ハ、裏付商品ノ輸入杜絶ニヨリ計畫ハ全ク實行不可能トナレリ。茲ニ於テ、工部局ハ最惡ノ事態ニ備ヘテ準備セル第二段ノ緊急措置ヲ實施セリ。

大東亞戰爭勃發後、工部局ハ十二月十日、先ヅ上海放送局ノ**マイク**ヲ通ジテ左ノ如ク物價統制ノ强硬方針ヲ放送セリ。

『日米英開戰以來民衆ガ物資ノ買溜ヲ開始シタルニ乘ジ惡德商人達ハ賣惜ミニヨリ盛ニ價格騰貴ヲ煽リ、公定價格ヲ無視シテ販賣ヲ行フ者アリ、現在ノ統制品ハ殆ンド輸入品ノミナルガ、日米英戰爭勃發ニヨリ輸入ガ杜絶シタル現在、現地製品ニ對シテモ統制ヲ行フニ決シ、近ク最高小賣價格ヲ發表スルコトトナレリ。當局ハ日本當局ト協力シ今後益々物價ノ統制ヲ嚴重ニ行ヒ、違反者ニ對シテハ特ニ嚴罰ニ處スル方針ナリ。』

右方針ノ發表ト同日、工部局ハ布告ヲ以テ輸入小麥粉ノ最高價格ヲ決定シ、同時ニ卸賣業者及小賣業者ガ小麥粉ノ在荷アルニモ拘ラズ豫メ定メラレタル小賣販賣規定量ノ販賣ヲ拒ミ竝小麥粉ノ租界外搬出及租界內移動等ヲ禁止セリ。而シテ、右違反者ニ對シテハ工部局ノ營業許可取消、工部局ノ供與スル便宜ヲ取上ゲタル上租界外追放等ノ處罰ヲ以テ取締ニ臨ムコトヲ公示セリ。次デ翌十一日、布告ヲ以テ『一九四一年十二月十二日金曜日以降共同租界內在荷米ノ所有者ハ工部局發行荷渡指圖書ト引換ニ直ニソノ在荷ヲ引渡スコト』、即チ、凡テノ在荷米ニ對シ、必要ニ應ジ强制買上ノ措置ヲ實施スルコトトセリ。爾後小麥粉、玉蜀黍、麩、一部ノ貴重藥品等ノ必需物資ニ對シテ米ト同樣ノ措置ヲ漸次擴大實施セリ。斯クテ、工部局ハ輸入ガ杜絶シタル重要物資ノ供給ニ關シ、既ニ輸入セラレタル**ストツク**物資ヲ徵用シ、夫レ夫レ所定價格ヲ以テ一般市民ニ配給ナシ、價格ノ暴騰ヲ抑制セリ。

右ノ外、一般物價統制ニ對スル措置トシテハ、前記告示第五五九六號（十一月十六日）、同五六一一號（十一月二

十二日）ニ引續キ、十二月四日附告示第五六二七號、昭和十七年一月五日告示第五七三七號ニヨリ通計約八百種類ニ上ル商品ニ對シテ夫レ夫レ最高價格ヲ公定實施シ、ソノ外必要ニ應ジ特定商品、或ハ原料品竝ソノ製品ヲ含ム數種ノ商品ニ對シテ夫レ夫レ最高公定價格ヲ公定實施セリ。

大東亞戰爭以後價格統制ノ擴大强化ニ伴ヒ、違反者ニ對スル取締リヲ一層嚴重ニシ、十二月十日、前記警告ヲ發シタル後、ソノ徹底ヲ期スルタメ二月二十七日附告示第五七九八號ヲ以テ價格統制違反者處罰ノ適用範圍ヲ擴大シ、違反行爲ヲナシタル者ノミナラズ、ソノ幫助者及違反行爲ヲナサントシタル者ニ對シテモソレゾレ處罰スル規定ヲ新ニ設ケタリ。同告示ノ全文左ノ如シ。

工部局ノ諸緊急規則ニ違反シタル者、違反行爲ヲ幫助シタル者若ハ違反行爲ヲ行ハントシタル者ニハ左ノ各號ノ一若ハ若干ヲ適スルコトアルベシ

一、本人ノ所有スル營業許可證ノ停止若ハ取消

二、一定期間營業場ノ閉鎖

三、工部局ノ諸物價統制課ノ便宜供與拒否

四、一定金額以下ニ相當スル物資ノ沒收

但シ、以上ノ適用ヲ受ケズシテ實施委員會ノ相當ト認ムル金額ヲ納付スルコトヲ得

必需物資ノ公定價格實施ニ關聯シ、米及小麥粉ニ對シテハ特ニ最高運搬料金ヲ設ケ、車輛所有者ニシテ公定料金ニヨル運搬ヲ肯ンゼザル者アル時ハ其ノ車輛ノ沒收ヲ規定セリ（十二月十九日附告示第五六七七號）。蓋シ、米及小麥粉ノ運搬ハ工部局指定米小賣店及小麥粉消費者ノ負擔ニ依ルモノナルヲ以テ、運賃ノ騰貴ニヨリ最高小賣價格嚴守ノ困難化ヲ豫メ防除センガタメナリ。

尙、大東亞戰勃發後右ノ如キ價格統制ノ高度化ニ伴ヒ、違反取締ノ法的基礎トナルベキ土地章程附則第五十三條中一部改正ヲ行ヒ、價格統制ノ對象ヲ擴大シ價格統制品トシテ工部局告示ヲ以テ隨時指定スル『物品ノ小賣商』トアリタルヲ『物品ヲ仕入シ販賣シ若クハ貯藏スル者』全部ニ適用スルコトトナレリ（二月二十八日附告示第五八〇三號）。コレニヨリ工部局ノ價格統制ハ豫メ工部局ガ最高公定價格ヲ指定シタル商品ヲ扱フ者全體ニ及シ、一應投機、思惑、買占、賣惜等ノ行爲ヲ行フ餘地ナカラシメタリ。

四、第四期（通貨改革措置實施ヨリ現在迄）

大東亞戰爭勃發後工部局ガ實施シタル價格統制ニ關スル强硬措置ト一方敵產物資處理ニ關スル軍當局ノ措置ト相俟チテ、一般物價騰貴ノ勢稍緩和セラレテ若干小康狀態ヲ得タリ（物價指數參照）。然ルニソノ後本年三月通貨改革ニ關スル措置實施以後舊法幣ノ暴落甚シク、物價ハ再ビ一層猛烈ナル騰貴ヲ開始セリ。茲ニ於テ工部局ハ通貨改革ニ關スル措置ニ協力ナスト同時ニ、一面物價統制ニ關スル新タナル措置ヲ實施シ、現在ニ到レリ。

先ヅ、大東亞戰後ニ於ケル通貨改革ノ經緯ヲ見ルニ、本年三月九日軍票ノ對法幣レートヲ儲備券建一本ニ限定シ、次デ同二十三日從來中央儲備銀行ガ實施シ來リシ舊法幣對儲備券ノバー交換ヲ中止スルニ到レリ。而シテ、同三十日儲備券ノ舊法幣リンク切離シノ措置ガ斷行セラレタリ。斯クテ通貨改革ノ第一段階ヲ終リ、次デソノ仕上ゲ工作トシテ本年五月三十一日舊法幣回收ニ關スル國民政府ノ條例ガ發布セラレ、六月八日以降同二十四日迄

ノ十七日間ニ亘リ、舊法幣二對儲備券一ノ割合ヲ以テ舊法幣ノ回收ガ實施セラレ、其ノ後流通禁止ノ措置ヲ見ルニ到レリ。

斯ル通貨改革措置ニ對應シ、工部局ガ實施シタル措置ヲ列擧スレバ以下ノ如シ。

二月二十四日附告示第五七八八號ヲ以テ同日以降工部局ニ納入スベキ滯納金ハ今後ノ諸納入金ヲ現金納入スル場合ニハ儲備券ニ限リ收入スル旨ヲ公示セリ（三月二十八日附告示第五八三三號ニヨリ中央儲備銀行拂出現金小切手ノ納入ヲ認ム）。次デ三月十八日附告示第五八一六號ヲ以テ小麥粉及小麥粉製品價格ヲ一括シテ改正（値上）シタル際、儲備券建價格ヲ實施セリ。ソノ後四月十四日附告示第五八五三號ヲ以テ外米、玉蜀黍等工部局ガ直接配給スル商品ノ建値ニ關シ、儲備券ヲ基準トシ同時ニ市中レートニヨル舊法幣換算額、即チ價格ノ二本建ヲ採用シタリシガ、六月二日附告示第五九三二號ヲ以テ國民政府ノ通貨改革統制ニ呼應シ、六月七日以降儲備券建一本ニ統一スルニ到レリ。一般商品ノ建値ニ關シテハ、六月十五日附告示第五九四八號ヲ以テ、曩ニ發シタル一般物價統制ニ關スル告示第五五九六號、五六一一號五六二七號、及五七三七號ヲ取消シ、六月十七日以降共同租界內ニテ販賣セラルル一切ノ物品ノ小賣價格ヲ凡テ儲備券建トナスベキコトヲ公示セリ。而シテ該儲備券建ノ價格ハ、本年五月二十六日乃至二十八日平均ノ舊法幣建價格ノ五割ヲ超ユコルトヲ得ズ、又今後工部局ノ許可ヲ得ズシテ右限度ヲ超エテ値上ヲ行フコトヲ禁止セリ。

以上。通貨改革ニ關スル措置着手以後、工部局ガコレニ對應シテ特ニ物價統制ノタメニ實施シタル對策措置ヲ列擧スレバ左ノ如シ。

大東亞戰爭勃發後、特ニ本年三月以後物價騰貴ノ勢猛烈ヲ極メ、曩ニ告示第五五九六號、五六一一號、五六二七號及五七三七號ニヨリ定メタル約八百種類ノ最高價格ハ殆ンド有名無實ノ狀態トナリタルメ、工部局ハ四月十三日附告示第五八五二號ニヨリ、右價格ハ工部局ノ許可ヲ得タル後ニ非ザレバ其價格ヲ引上ルコトヲ得ザルコト、竝ニ既ニ許可ナクシテ價格ヲ引上タル者ハ四月十七日限リ工部局ニ許可申請ノ手續ヲ行ハシメ、コレニ違反シタル者ハ處罰セラルルコトヲ公示セリ。ソノ後前述ノ如ク六月十五日附告示五九四八號ヲ以テ右告示（告示第五五九六號、五六一一號、五六二七號及五七三七號）ヲ一括取消シ、五月二十六日乃至二十八日平均ノ舊法幣建價格ノ五割ヲ最高價格トスベキコトヲ定メタリ。當時ノ物價ハ昨年十一月乃至十二月ノ價格ニ比シ約三倍ニ騰貴セリト見ラルルヲ以テ、本措置ニヨル最高價格ノ更新ハ事實上ソノ引上ゲヲ公認シタルモノナリ。併シ乍ラ、當時公定價格制度ハ工部局ガ直接供給ナス以外ノ商品ニ對シテハ殆ンド有名無實ノ存在ニ過ギズ、又猛烈ニ騰貴スル一般物價ニ對シコレヲ一應抑制スル措置トシテ蓋シ已ムヲ得ザリシモノナリ。尙六月三十日附告示ヲ以テ、六月二十六日又ハソノ以前ニ小賣價格ヲ儲備券建ニ改メタルモノニ對シテモ、同日以後工部局ノ許可ナクシテ値上ヲ行フコトヲ禁止セリ。

以上ノ外ニ、物價統制强化ノ措置トシテ、投機抑制ノタメ六月二十五日附告示第五九六五號ニヨリ、共同租界內ニヨリテ中華民國ノ法律ニ服スベキ個人又ハ法人ニシテ中華民國政府ノ交易所法ニ違反シタル者、即チ、許可ナクシテ商品、證券、庫荷證券又ハ荷渡指圖書ノ思惑賣買ヲ行ヒタル者ヲ嚴罰ニ處シ、又中華民國ノ法律適用ヲ受ケザル者ニ對シテモ適切ナル措置ヲ講ズベキコトヲ公示セリ。尙六月三十日附告示第五九八四號ヲ以テ、共同租

界内ニ於テ販賣スル一切ノ商品ニ對シ、從來最高價格ヲ指定セラレタル特定ノ商品ト同樣一ポンド當リ、一打當リ又ハ一個當リ儲備券建正札ヲ附サシメ、正札ノ大キサハ一字一・二吋以下ナルコトヲ得ズトシ、又同日附告示第五九八五號ヲ以テ、共同租界内ニ於物品販賣ニ從事スル個人又ハ法人ニシテ商品ノ販賣ヲ拒ミ又ハ工部局ノ許可ナクシテ販賣ニ供セザル者アル時ハ土地章程附則第五十三條又ハ告示第五七九八號ノ規定ニヨリ處罰スルコトトセリ。斯クテ、公定價格ノ表示、即チ、一定ノ標準ニヨル正札制、賣惜ミ禁止等ノ措置ガ租界内ノ全商品ニ對シテ實施セラルルコトトナレリ。

(三)價格統制ノ現狀

一、價格統制實施機構

工部局ノ價格統制實施機構ハ、昨年十二月初メ罐詰食品委員會ノ設置ニヨリ價格統制ニ關スル事務ヲ開始、同委員會ハ價格統制品目表ニ關スル告示第五五九六號、同五六一一號及同五七三七號ニ基キ違反者處理ヲ掌管セリ。次デ十二月中ノ第三回委員會ニ於テ緊急規定施行委員會ト改稱シ、價格統制ニ關スル事務ヲ繼承セリ。ソノ後同委員會ハ四月二十四日附ヲ以テ解消シ、現在ノ物價統制委員會ガコレニ代レリ。

現在ノ物價統制委員會ノ構成左ノ如シ。

委員長(市參事會員)　工部局　R・フオン・デア・クローネ(瑞西)
委員(〃)　同　A・グラーテ(獨逸)
同　飯塚鐵藏(日本)
同　玉宣平(中國)
同(衛生局長)　J・Hヂョルダン(英國)
同　Hベダーセン(丁抹)
同　公董局　M・Aサドック(佛國)
同　M・Hブーフアンデン(同)
同(滬西警察署長)　市政府　潘達(中國)
同(市政府食糧管理局)　同　歐華彬(同)
同(〃　同)　同　蔡仁(同)
幹事　工部局　W・H・ウエー(英國)
同　平野修(日本)

而シテ、共同租界内ニ於ケル價格統制ノ實施ニ關シテハ、右委員會ノ實施機關トシテ總務局内ニ價格統制事務室ヲ設置シ、コレガ運營ニ當レリ。

價格統制事務室ノ機能及ソノ組織左ノ如シ。

價格統制事務室ノ機能

一、價格統制ニ關スル事項

第二款　物資及物價

(イ)日用品中ノ重要物資ノ配給狀況、移動及闇取引ノ取締、ストツク登錄及割當配給制ノ實施
(ロ)價格統制ニ關スル規定ノ取締及施行、特ニ六月十五日以後ニ於テハ告示第五九四八號（舊法幣建物價ノ儲備券建ヘノ切替）ニ關スル事項
二、麥粉及米ニ關スル輸送料金ノ取締及施行
三、諸稅ニ關スル規定施行
(イ)物品小賣稅二%ノ徵收及納付ニ關スル事項
(ロ)宿泊飲食稅一〇%ノ徵收及納付ニ關スル事項
四、ソノ他ノ事項
(イ)調査及統計事務
(ロ)法務及宣傳事務
物價統制事務室ノ組織
現在ノ組織ハ、調査部、施行部二部ヨリ成リ、調査部ハ前記一、ノイ、ロ、二、及三、ヲ擔當シ、ソノ結果ヲ施行部ニ移譲ス。施行部ハ一ノロ二、三及四、ノ凡ベテノ事項ヲ擔當ス。現在ノ事務室ノ構成左ノ如シ（六月末改組）。

事務室責任者
調査部

責任者	（法務員）	一名
檢査員	外國人調査員	二名
同	主査	一名
同	男	四二名
同	女	一〇名
事務員	書記	二名
同		一名

施行部

責任者	（法務員）	一名
審問係	（法務員）	二名
事務員	主任	一名
同	書記	五名
同	タイスピト	四名

尙警察機構ガ側面ヨリコノ事務ノタメニ協力ナシツツアルコハ改メテ指摘スル迄モナキコトナリ。
統制違反行爲ニ對スル起訴手續
施行部又ハ警察部ニヨリ摘發セラレタル凡ベテノ違反行爲ニ對シ、刑事裁判所コレヲ起訴スルモノトス。

起訴手續ハ、調査部ガ當該責任者指揮ニヨリ各商店ニツキ各事項ノ調査ヲナシ、其ノ結果ニ關シ作成セル調書ニ基キ、法律知識ヲ有スル調査部責任者ガ違反行爲ノ疑ヒアル者ニ對シ審問ノ爲召喚ノ決定ヲナス、斯ル場合施行部又ハ價格統制部ノ其他ノ係ノ請求及ビ請求ナキ場合ト雖モ必要ト認メタルトキハ再調査ヲ行フコト屢々ナリ。施行部ハ調査部ノ調書ニ依リ違反ノ疑ヒアル者ニ對シテ施行部責任者ノ指揮ニヨリ召喚シ、法律知識ヲ有スル部員ヲシテ審問セシム。處罰ハ土地章程附則第五十三條ニ基キ、各告示、特ニ告示第五七九八號ノ規定スルトコロニ依リコレヲ課ス。コノ場合個々ノ事件ニツキ違反ノ程度、營業ノ狀態及ビ當時ノ狀況等ニツキ充分審査ヲ遂ゲタル後決定ヲナシ居レリ。而シテ、違反者ノ證言ハ違反者ノ理解スル國語ヲ以テ記述シ判決前ニ違反者之ニ署名セシムルモノトス。重大ナル違反ノ場合ハ關係書類ト共ニ當該委員會ニ送附シ、ソノ決定ヲ俟ツコトトシ、重大ナラザル違反ニ對シテハ價格統制事務室ノ決定ニ依リ訓戒、又ハ輕キ罰ヲ課ス方法ニヨレリ。

二、價格統制實施狀況

現在迄ノ價格統制事務室ノ活動ヲ要約スレバ、左ノ如シ。

一、麥粉及麥粉製品ノ配給及使用ニ對スル嚴重ナル取締、就中麥粉及同製品ノ用途、需要者、價格、**ストツク**及闇取引ニ關スル調査竝再調査

二、**バター、マーガリン**、輸入鑵詰牛乳ノ配給及工部局ノ規定ヲ以テ統制スル日用品ノ價格ニ關スル取締

六月中旬以來告示第五九四八號ノ施行ニヨリ價格統制ノ施行範圍ガ著シク擴大セラレ、共同租界內ニ於ケル殆ンド凡ベテノ商品ニ對シ小賣價格ノ取締ニ當リツツアリ。

現在施行ニ關スル實際活動ハ、共同租界ヲ六區域ニ區分シ、更ニコレヲ四〇區ニ細分シ、夫レ夫レ調査員ガ出張シテ調査ニ當リ、經濟警察ノ機能ヲ遂行シツツアリ、而シテ、調査課ハ毎日百件以上ノ召喚狀ヲ發シ、施行課ニ於テ略同數ノ審問ヲ行ヒ居レリ。

尙目下告示第五九四八號ニ基ク物價取締ニ關シ、コレニ應ズルタメニ本事務室ノ組織編成中ナリ(註)。

本年一月一日以降六月二十七日迄ノ約六月間竝最近ニ於ケル價格統制施行ニ關スル主要ナル統計ヲ列擧スレバ左ノ如シ。

調査竝違反件數

	調査件數	價格違反	賣惜ミ
六月　七——一三日	九三六	一五	—
同　一四——二〇日	一、〇〇八	二九九	一
同　二一——二七日	一、一七三	六六一	二
小　計	三、一一七	九七五	三
一月一日——六月二七日	二四、七六二	四、三三七	二一

違反處理件數竝罰金額

召喚狀ヲ發送シタルモノ	自六月七日至同一四日	一〇五	自六月一四日至同二〇日	一三七	自六月二一日至同二七日
理由書提出ヲ命ジタルモノ		一三		一四	二〇三
第二款　物資及物價					一三〇
小　計					三九五
					自一月一日至六月二七日
					三、〇四六
					二、七九一

上海再編成案

理由書ヲ提出シタルモノ	一二三	一三三	二五九	二七二	二五九
召喚ニ應ゼザリシモノ	九	一〇	二三	三	二三
警告ヲ發シタルモノ	五一	九一	二一〇	六八	一三三
罰金	六二	四〇	一四一	四〇	一二六九
閉店	一	二	一〇	一八	七二
没收	一	一	三	三	八
罰金額（單位元）	二〇,一四〇.〇〇	一五,六八〇.〇〇	四一,一〇〇.〇〇	七六,七一〇.〇〇	二〇,一五六.八五
罰金納入額（同）	二,四四〇.〇〇	二,九〇〇.〇〇	二,九〇八.五五	三六,四二〇.八五	一四,六六一.八五

（註）價格統制事務室（八月中旬物資統制部ニ改編セラレタリ。

第二款　運輸

第一項　上海港港務行政機構再編成措置(案)

一、上海港港務行政機構再編成措置要領—第一案—

(一)方　針

大東亞戰爭ニヨル情勢ノ變化ニ即應シ、我ガ方ノ指導下ニ於テ上海港行政ノ圓滑ナル遂行ヲ期スルタメ、行政機構ヲ關稅徵收機關ヨリ分離シテ獨立セシメ、以テ其ノ獨自性ヲ確立シ、港灣行政全般ニ對スル統制力强化ヲ期スルモノトス。

(二)措　置　要　領

一、現在ノ海關機構ヲ改組シ、中國交通部ノ管下ニ上海港政局(假稱)ヲ設ケ海關本來ノ業務以外ノ一切ノ港政ヲ

統轄セシム(註)

港政局ニ關スル事項ニ限リ中央ニ日本官吏ノ顧問ヲ置ク。

(註)上海港政局ガ統轄スル事項ハ現在ノ海關海事部管下ノ事項及津浦局事項ノ全部ヲ繼承シ、新ニ碼頭ノ稅制及港稅ノ徵收ヲナス。コノ結果海關ハ單ニ關稅ノ徵收機關トシテ存置ス。

二、上海港政局ニ左ノ五部並ニ諮問委員會ヲ置ク。

港務部

海事部

津浦部

碼頭部

經理部

諮問委員會

三、上海港政局ガ統轄スル事業及權限左ノ如シ。

(イ)港則ノ立法、改廢、港灣發展計畫ノ立案企劃並實施

(ロ)水路ノ浚渫、整備、航路標識設置、護岸、繫船岸ポンツンノ新設並改修、浮標ノ設置及改廢、埋立及河岸官有地ノ處分

(ハ)水上警察及檢疫

(ニ)水先機關ノ經營

(ホ)港ニ關スル稅金及料金ノ徵收

(ヘ)碼頭ノ一元的統制

四、諮問委員會(假稱)ハ立法並港灣計畫等港灣行政ノ重要事項ニ關シ港政局長ノ諮問ニ應ジテ企劃立案ヲナシ、又港政局長ハ右重要事項ニ關シテハ諮問委員會ノ決定ヲ經ズシテ實施スコルトヲ得ザルモノトス。即チ諮問委員會ハ實質的ニ港政局ニ對スル我ガ方ノ指導監督機關トス。

諮問委員會ノ構成左ノ如シ。

(イ)上海總商會會頭(中國)又ハ其指名人

(ロ)上海日本商工會議所會頭又ハ其指名人

(ハ)上海碼頭倉庫經營者代表(中、日各一名)

(ニ)鐵道代表

(ホ)水先機關代表

(ヘ)沿岸航路船舶會社代表(中、日若干名)

(ト)遠洋航路船舶會社代表(差當リ日一名、將來ハ第三國人ヲ加フルモ可)

(テ)萬國商業會議所會頭

五、上海港政局ノ財源

(イ)噸稅(現在海關收入トナリ居ルモ同局ニ移管ス)
(ロ)浮標使用料(右同)
(ハ)貨物ニ對スル埠頭稅(現在ハ共同租界公部局、佛租界公董局、市政府ノ收入トナリ居レルモ同局ニ移管ス)
(ニ)吳淞錨地使用料
(ホ)碼頭倉庫經營者ガ船舶ニ對シ課徵スル埠頭料ノ一定料ノサーチヤージヲ港政局ニテ徵收(新設)
(ヘ)現在ノ滯浦局財源トシテ徵收シ居ルモノヲ其儘港政局ニ移管ス
(ト)埋立地ノ賣上代金

備考

港政機構再編成ニ關スル水先機關ノ改組、碼頭倉庫問題等ニ關シテハ、本措置案方針ニ則リ別途コレヲ調査立案スルモノトス。

二、說明

(一)上海港々務行政機構ノ現狀

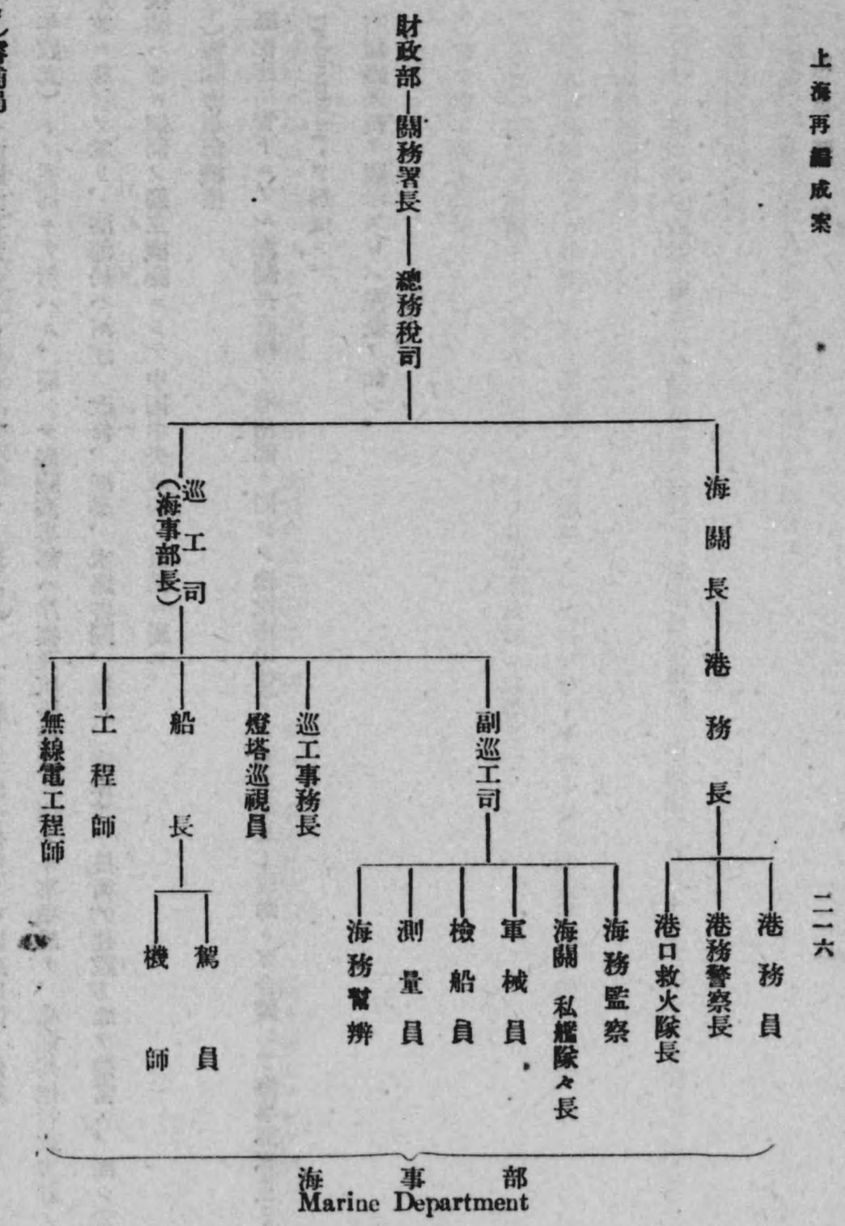
一、機構

上海港ノ行政ハ海關海事部 Marine Department ト滯浦局(北京駐劄列國公使團ト中國政府間ノ條約ニ基キ一九一二年設立)トノ共同ニテ行ハル。而シテ海關海事部ハ浮標及航路標識ニ關スル事項即チ、港則其他行政方針ノ決定並ニ施行ヲ掌リ、滯浦局ハ河江ノ改修、浚渫、水路啓開、埋立、護岸等ノ技術的建設方面ヲ擔當ス。而シテ兩機關ハ各々個別ノ獨立機關ニシテ中國中央政府ノ直轄ニ屬ス。

(イ)海關海事部機構

總稅務司管下ニアル海關長直轄ノ港務部ト同ジク總稅務司管下ノ巡工司及工程師トガ合體シテ海事部Marine Department ヲ形成ス。

右組織系統ヲ圖示スレバ左表ノ如シ。



(ロ)澤浦局

改修局ト諸問局ヨリ成ル。

(A)改修局

三名ノ左記中國官吏ヨリ成ル。

外交部特別書記官 Special Secretary of the Ministry of Foreign Affairs

上海海關長 Shanghai Commissioner of Customs

上海港務長 Shanghai Harbor Master

(但シ事務遂行ノ爲書記長技師及事務長ヲ置ク)

(B)諮問局 Consultative Board

左記六名ノ議員ヲ以テ組織ス。

(1)左ノ方法ニヨリ選任シタル五名ノ議員

上海ニ出入スル船舶ニ付最大噸數ヲ有スル五ケ國ノ北京駐劄公使ハ、各自任意ノ方法ニ依リ、自國ノ議員一名ヲ選任シ、在上海當該國總領事ヨリ其選任ヲ改修局ニ通知スベシ。議員ノ變更アリタルトキ亦同ジ。

現在ハ日本(郵船)、諾威(W・W)、佛(M・M)、英(P・L・O)、米(A・P・L)

(2)支那總商會ノ選任シタル一名ノ議員

諮問局ハ改修局ニ對シ意見ノ提出並ニ改修事務ノ監視ヲナシ不滿足ナルトキハ領事委員會ニ報告政治的解決ニ愬フ。

濬浦局ハ其成立上、海關トハ全ク別個ノ獨立機關ナレドモ其內實的性格ハ海關ノ內部機關ノ如キ樣相ヲ呈ス。之同局ノ實權ガ海關長及其配下タル港務長ニヨリテ握ラレ居ル結果ナリ。只僅ニ濬浦局ガ海關ノ絕對的支配ヨリ脫シ居ルハ諸問局ノ存在ニヨル。諸問局ハ其議員構成ヨリ見ルトキハ國際性ヲ有シ、改修局ノ施策其他ニ不滿アル場合ハ各國領事團ノ政治的解決ニ迄發展セシムル權限ヲ有スル處ニ濬浦局ノ獨立機關トシテノ面目ガ漸ク救ハレ居ルト見ルヲ得ベシ。

二、港ニ關スル諸稅

(イ)海關收入ノ諸稅

(1)噸稅(港稅 Port Dues 燈臺稅Light Dues ヲ含ム)

(2)浮標使用料(明細省略)

(ロ)貨物ニ對スル碼頭稅(工部局・公董局・市政府ノ收入、但シ海關ニ於テ徵收)

1% of Import Duty

1% of 5% ad. Val.

S. $30. per S. $1,000. on treasure from abroad

(ハ)濬浦局財源トシテノ稅

1. Conservancy Tax of 3% on Shanghai Manufacturers Customs Dues

2. 1½ per melle on duty free goods

3. 0.045% on Treasure, on Importation only

濬浦局財源ニハ右ノ外ニ官有地ノ拂下代價及中國政府ヨリ支出スベキ年據金四十六萬兩、別ニ浚渫請負ヨリ來ル利益等モアル筈ナリ。

三、上海港ノ特異性

(イ)港狀ノ不統一

上海港ハ張家灘 Chang Chia Tang Creek ヨリ黃浦江口ニ至ル全長一二八、〇〇〇呎(約二一哩)ヲ港域トナスモ其間ニ在ル碼頭倉庫繫船岸其他ノ施設ハ元來一定ノ港灣計畫ニヨル秩序アル經營ニ基キシモノニアラズシテ各國船會社其他ガ當局ノ許可ヲ得自己權益ノ增大ヲ計リタル結果ノ集積ガ現在ノ上海港ヲ成セルモノニシテ言ハバ自然發達ノ過程ヲ辿リタルニ外ナラズ、從ツテ國家目的ヨリ施策サレタル形跡極メテ少ク施設ノ亂雜不統一ハ本港ノ一大特色ヲナス。

(ロ)實權ノ他國人掌握

稅關並ニ港務行政ニ就テハ中華民國ハ自主權ヲ有スルモ其實權ハ從來他國人(事變前ハ英國、事變後ハ日本)ニ掌握サル。

(ハ)施設ノ私營

碼頭及倉庫ノ如キ繫船設備ヲ純然タル民間ノ私企業ニ委ス(招商局碼頭、舊虬江碼頭、鐵道棧橋及砲臺棧橋ハ例外)。

(ニ)噸　税

噸税ガ港税 Port Dues ト燈臺税 Light Dues ヲ包含スルモ一特色ナリ。

(ホ)船舶負擔埠頭料 Wharfage

碼頭倉庫ガ私營ナルガ爲ニ船舶ノ支拂フ埠頭料 Wharfage ガ碼頭經營者ノ收入ニ歸ス。此料率ハ同業者ノ協定率ナルモ海事部其他公機關ノ監督ヲ受クルコトトシ。

(ヘ)水上警察權ノ海關掌握

水上警察官ハ海關ノ役人ニシ業務長ノ指揮下ニ屬ス。

(ト)碼頭倉庫經營者ガ港費ヲ負擔シ居ラザルコト

碼頭倉庫ヲ民間ガ私營シ船舶埠頭料及倉敷料其他ノ收入ヲ得乍ラ税關又ハ濬浦局ニ何等ノ公課ヲ納ムルコトナシ。

之ニ對スル經營者側ノ理由トシテ擧グベキ主ナルモノハ左ノ如シ。

(1)船舶會社ト碼頭倉庫會社ガ同一ナルコト、即船舶會社ハ噸税ノ形ニ於テ港費ヲ負擔スル故碼頭會社ハ別ニ何等ノ公課負擔ヲ要セズトスル理由

(2)碼頭ニ一定ノ水深ヲ保有スル爲ニ年ニ一回乃至數回ノ浚渫ヲ要シ此費用莫大ナリトスル理由

(チ)水路啓開浚渫工事ノ不統一

水路ハ濬浦局ガ啓開浚渫シ碼頭前面ハ其經營者ガ浚渫ス。

(二)上海港港務行政機構ノ再編成理念並ニ方針

一、大東亞戰爭ニヨル情勢ノ變化ニ即應セシムルコト

(イ)英米系碼頭倉庫及船渠等ガ日本側ノ支配ニ歸シタル結果從來ノ日本側碼頭及事變後ニ於ケル日本側支配ニ歸シタル中國碼頭ヲ合スレバ全上海港ノ大半ノ繫船施設ハ我ガ方ノ掌握ニ歸シタルヲ以テ港灣行政ノ主力ハ我ガ方ニ於テ把握スベキ使命ヲ有スルニ至レルコト、從ツテ將來英米勢力ノ復活ヲ完封スルコト。

(ロ)船會社ハ其國際的海運競爭ノ爲從來ハ自己專用碼頭ノ所有ヲ絕對的要件トセルモ大東亞戰ノ結果英米碼頭ハ皆無トナリタルヲ以テ日本ノ船會社ニ取リテ專用碼頭ノ所有ハ其絕對的必要性ガ喪失セルコト。

(ハ)大東亞戰爭終結後ニ於テハ東洋ノ軍事的警備ニ對スル責任ハ吾海陸軍ニ歸スベシ。故ニ上海港(獨リ上海ニ限ラズ東洋ノ主要港灣)ハ必要ノ場合即時吾軍事的使用ニ充分役立樣其能力及施設ノ充實ヲ計ル要アリ。

二、港灣收入ヲ中國ノ借款返還ノ財源タラシメザルコト

港灣施設ノ大半ヲ日本側ガ掌握スル以上之ヨリ得ル噸税收入ノ如キモ之ヲ國際借款財源トナラヌ樣施策スルノ要アリ。

三、上海港行政機構ハ特殊獨ノ獨立體カ又ハ高度ノ獨立性ヲ有スルモノトセザルベカラス

世界ノ港灣ハ國又ハ公共團體或ハ其他ノ公機關ノ經營ニ屬スルモノ多シ。乍然上海ノ如ク一國ノ港灣施設ノ大半ヲ他國(日本)ガ有スル如キ港ニ於テハ特殊ノ獨立ノ組織ヲ以テ經營スルヲ妥當トスベシ。尤モ港ニ對スル中國主

權ノ尊重スベキコトハ勿論ナルモ、サレバトテ大上海市政府ノ經營ニテハ不適當ナリ。又租界行政主體タル工部局ノ經營ニテモ不適當ナルヲ以テ之ガ經營主體ハ特別ナルモノトスルヲ可トス。

四、港灣行政機構ヲ稅關ヨリ離脫セシメ獨自性ヲ有スル機關トス

稅務司ガ海關ト港務行政ヲ兼ヌル如キ機構ヲ作リタル者ハ英國ナリ（支那ガ港灣行政ニ暗カリシニ付ケ込ミシモノナルベシ）。而シテ英國ハ「英國ノ中國ニ對スル貿易ガ最高額ヲ維持スル間ハ總稅務司ニ英國人ニ任命ス」トノ鐵則ニヨリ代々自國人ヲ總稅司ニ據エ稅務ト港務トヲ一手ニ掌握シ以テ支那政府ニ對スル一大勢力ヲ形成セリト言フモ過言ニアラザルベシ。港灣行政全般ヲ統轄スルニ足ル眞ニ强力ナル統制力ヲ有スル機構ヲ確立スルタメニハ、先ヅ行政機構ヲ海關ノ從屬的狀態ヨリ離脫セシメ以テ其ノ獨立性ヲ確立セザルベカラズ。

五、港務行政機構ノ財源ヲ確保スルコト

港灣ノ發達、殊ニ黃浦江及江口附近ノ浚渫ヲ絕エズ行ハザレバ水路ヲ維持シ得ザル上海港ノ經營當局トシテハ充分財源ヲ確保スルヲ要ス。

六、港務行政機構ハ公私繫船施設ノ一元的統制力ヲ確保スルノ要アリ

從來碼頭倉庫ハ私營ノモノ多シ。其建設ニ就テハ現在港務長ノ許可制トナリ居ルモ施設ノ改善其他ニ關シテハ港務長ノ統制又ハ監督權ナシ。從ツテ所有者ガ採算合ハザレバ施設碼頭ノ浚渫ヲモ怠ル場合アリ。公共性ヲ有スル碼頭ハ港全體ノ能率維持及向上ノ見地ニ於テ一元的監督統制ヲ必要トス。殊ニ今後上海市ノ發達ニ伴フ大港灣計畫等ヲ企畫スル場合ヲ考フルトキハ是非共此統制力ヲ確保セザルベカラズ。

七、港灣補助機關ノ統轄

港務行政機構ハ水先案內機關、檢疫機關、給水設備、船舶通過信號機關等ノ補助的機關ヲ統轄シ、コレ等諸機關ハ經濟上ノ閑繁ニヨリ其機能低下又ハ障碍ヲ來サザル樣經營シ得ル組織ガ必要ナリ。

三、上海港港務行政機構再編成措置要領—第二案—

（一）方針

一、東亞共榮圈內ニ於ル中支乃至上海ノ占ムベキ經濟的地位ニ即應セル上海港々灣計畫ノ樹立及實施並ニ港灣施設ノ統制ヲ擔當スベク上海港港政局（假稱）ヲ設置ス。

二、港政局ハ從來ノ淸浦局ニ於ル如キ國際性ヲ排除シ中國籍ノ機關タルベキモ高度ノ獨立性ヲ有シ國民政府ハ特定事項ニ關シテノミ監督權ヲ有ス。

三、東亞共榮圈內ニ於ル帝國政治力經濟力浸透基地トシテノ上海港ノ重要性ニ鑑ミ我ガ方ハ極力右港政局ノ實質ヲ把握ス。

四、港政局ハ上海港ニ於ル唯一ノ港政主體タルベク可及的宏範ナル權限及管轄區域ヲ有シ上海港內海運補助機關ヲモ統轄ス。

五、右ニ伴ヒ上海港ニ關シ海關ノ現ニ有スル權限ハ總括的ニ港政局ヘ移管セラルベク濬浦局水先協會ハ發展的解消ヲ遂グ。

六、港政局會計ハ中央政府國庫トハ分離シソノ收入ノ一般政務費ニ流用サルルヲ防グト共ニ一定ノ收入源ヲ確保ス。

(二)措置要領

上海港政局ハ國民政府法律ニ基ク特殊公法人ニシテ右法律ニヨリ國民政府ヨリ一定ノ監督ヲ受クルト共ニ上海港々政ニ關シ宏範ナル權限ノ委任ヲ受ケ以下ノ如キ內容ヲ有スルモノトス。

一、構成

(一)港政局委員會ハ左ノ委員ヨリ構成セラレ交通部代表ヲ以テ委員長トス(左ノ六名ハ無給トス)

交通部一名、財政部代表一名(上海海關長)

內政部代表一名(上海特別市政府市長)

在上海貿易業、航運業(內水沿岸遠洋及水先)、碼頭業及鐵道等代表各若干名(各業種別ニ港政局ニ對スル稅納入高ノ最高ナル國籍ノ代表者ヲソノ國ノ任意ニ決定スル方法ニヨリ選出ス)

(二)右委員ハ港政局委員會ノ一員ニシテ副委員長タルベキ有給ノ事務局長ヲ選任ス。

(三)事務局長ハ港政局委員會ノ同意ヲ經テ總務部長、港務部長、技師長、秘書長ヲ任命罷免シ、且右以外ノ港政局職員ニ關シテハ專管的人事權ヲ有ス。

(四)港政局委員會ハ大綱決定機關トシ實際上ノ計畫樹立、業務實施ハ事務局長、總務部長、港務部長、技師長、秘書長等ノ少數幹部ニ集中ス。

(五)右幹部殊ニ事務局長ノ選任ニ際シテハ帝國側ノ推薦ニ俟ツ。

(六)港政局事務局構造左ノ如シ。

(イ)總務部　計畫樹立、調査等

(ロ)港務部　港灣統制、船舶取締等

(ハ)技術部　技術問題、浚渫、施設構築等

(ニ)秘書課　會計、人事、庶務等

二、管轄區域

(一)黃浦江及ソノ支流、クリーク

(二)楊子江河口ヨリ黃浦江河口ニ至ル區域

(三)上海港灣計畫樹立ノ爲法律ニヨリ指定セラレタル又ハ港政局ノ獲得セル土地

三、權限左ノ如シ

(一)上海港灣計畫ノ樹立及實施並ニ右ニ伴フ規則制定權及命令處分權。

(二)水路、港灣荷役施設機關及補助航運施設機關等ノ建設維持運營及右ニ關スル私設施設ノ建設維持運營ニ關ス

ル一元的統制權。

(三)船舶出入港取締ソノ他港務行政。

(四)港則ノ制定改廢權。

(五)水上警察權。

(六)右各種權限實施ニ必要ナル土地及施設ノ購買公用徵收及賣却處分權。

(七)港政局收入ノ徵集支出並ニ起債權。

(八)港政局機構決定權。

四、監　督

(一)港政局ハ港灣計畫及事業計畫ノ決定ニ際シ國民政府ノ認可ヲ受ク。

(二)港政局ハ毎年度末年度事業及會計報告ヲ國民政府ニ提出ス。

五、會　計

(一)港政局ノ收入源左ノ通

(1)船舶課金　(2)貨物課金　(3)碼頭倉庫業者ニ對スル課金　(4)繫留浮標公共碼頭倉庫等港政局所有施設ノ使用料　(5)港政局土地處處分代價　(6)ソノ他

(二)港政局ハ毎年豫算ヲ計上ス。

(三)港政局ハ一定ノ事業目的ノ爲起債權ヲ有ス。

第二項　ジヤンク動員ニ關スル措置要領(案)

(昭和十七年七月十日提出)

一、ジヤンク動員ニ關スル措置要領

(一)方　針

現在ノ事態ニ對應スル中支輸送力ノ增强補完ハ主トシテジヤンクノ動員利用ニ俟タザルベカラズ。即チ、沿岸航路ニ就航中ノ汽船ガ他ニ轉用サルル場合ヲ豫想シ、一部ハ內河ニ就航中ノ汽船及汽帆船ヲ沿岸ニ轉用スルト共ニ外洋及內河ニ對シ夫レ夫レジヤンクヲ以テ輸送力ノ增强補完ヲ圖ルコトヲ要ス。

コレガタメ事變以來敵側ニ逃避シ統制圈外ニ散逸セルジヤンクヲシテ我ガ方ノ統制下ニ結集セシメ、更ニ從來我ガ方ノ統制下ニアリシジヤンクノ統制機構ヲ再編成シ併セテ軍事並一般貨物ノ輸送力ヲ增强セシムルノ着意ノ下ニ外洋並內河ニ對シテ夫レ夫レ次ノ如ク措置スルモノトス。

(二)措置要領

一、外洋ジヤンクニ對スル措置

一、外洋ジヤンクノ同業幫並同郷幫ノ有力者ヲ誘引シ、ソノ支配下ニアルジヤンクヲ我ガ方ノ統制下ニ於テ運航セシムルモノトス。差當リ動員可能ノ見込アル隻數約二百隻、二萬トン程度ナリ。

二、内河航路ニ就航セル機帆船ノ一部ヲ外洋ニ轉用シ、同船ヲシテ外洋ニ於ケルジヤンクノ指導船トシテ就航セシムルモノトス。

三、我ガ方ニ獲得シタル外洋ジヤンクノ統制ノタメ、現在ノ中支ジヤンク協會ヲ改組シテ中支外洋ジヤンク協會(假稱)ヲ設立シ、左ノ機能ヲ遂行セシムルモノトス。

(イ)航行許可證ノ發給

(ロ)配船統制

(ハ)船體保險並積荷保險

(ニ)乘組員ノ保護施設

(ホ)運賃ノ共同計算

而シテ、中支ニ於ケル外洋ジヤンクノ運航ハ上海ヲ中心トシテ青島、厦門間ノ貨物輸送ヲ擔當セシムル如ク配船ヲナスモノトス。

四、ジヤンクノ修理工場ヲ上海、寧波、舟山島、定海等ノ數ケ所ニ設置シ、華人船大工ヲ結集セシメテコレ等修理工場ニ配屬セシムルモノトス。

二、内河ジヤンクニ對スル措置

一、内河ニ於ケルジヤンク統制ヲ一層强化スルタメ現在ノ蘇浙皖民船公會ヲ改組シテ各種船幫ヲ動員シテ幫別ノ中支民船業同業公會(假稱)ヲ結成セシメ、左ノ機能ヲ遂行セシムルモノトス。

(イ)航行許可證發給ノ代行業務

(ロ)配　船

(ハ)運賃協定

(ニ)傭船料協定

(ホ)船體保險

(ヘ)貨物保證保險

(ト)船員ニ對スル保護共濟施設

本同業公會ハ主トシテ三〇トン級及ビソレ以上ノ民船ノ動員ニ重點ヲ置キ、機帆船(大治、無湖間礦石輸送ニ從事セルモノ)並大形ジヤンクノ外洋轉用ニ伴フ輸送力補完及ソノ增强ノタメ運營スルモノトス。

二、別ニ一〇トン級前後ノ民船動員ノタメ民船運輸合作社ヲ結成セシメ主トシテ農民ノ季節的出稼、自家農産物ノ販運、難民ヲ利用スル小運送等ニ從事セシムルモノトス。

三、上海內河輪船會社及ビ中支民船業同業公會ニ所屬スル造船・修理工場ノ新設竝擴充ヲ行ヒ、更ニ各地ニ散在セル船廠（支那側小工場）ヲソノ下ニ從屬セシメテ下請工場トナシ、造船竝船體修理ノ能率增强ヲ圖ルモノトス。

三、外洋竝內河ニ共通スル措置

一、中支全體ヲ通ズル輸送計劃ニ基キ、前記中支外洋**ジヤンク**協會竝中支民船業同業公會ヲシテ配船統制ヲ鞏固ナルモノニシ輸送能率ノ高度化ヲ企圖スルモノトス。

二、**ジヤンク**ノ造船竝修理ニ必要ナル資材、即チ、桐油、木材、竹、釘、**パテ**、帆布、麻繩等ヲ適正價格ヲ以テ供給シ、コレガ配給ニ關シテハ外洋內河夫レ夫レノ統制ニ當ル協會ヲシテコレニ當ラシムルモノトス。

三、船員竝船大工ニ對シ、輸送計劃ニ照應シ所要ノ技術指導ヲ與ヘ、又協會ノ船員保護施設ト相呼應シテ組織的訓練ヲ實施スルモノトス。

四、物資移動制限取締ニ協力スルタメ協會ヲ通ジテ所要ノ聯絡ヲナシ、コレガ輸送力ニ及ボス影響ヲ最少限ニ喰止メ、以テ輸送ノ能率化ヲ圖ルモノトス。

五、**ジヤンク**ニヨル輸送促進ノタメ、國民政府ニ對シ**ジヤンク**輸送貨物ニ對スル轉口稅撤廢ヲ折衝スルモノトス。

二、說明

(一)外洋**ジヤンク**ノ動員

現在支沿岸航路ニ就航中ノ汽船ハ總計四十一隻、約十一萬二千**トン**ナリ。ソノ內譯左ノ如シ。

東亞海運船腹	三一隻	八七、八三八（載貨）重**トン**
大連汽船其他	一〇〃	二五、〇〇〇　〃
計	四一〃	一一二、八三八　〃

但シ、右ノ內現在盤谷、西貢方面ニ廻航中ノモノ約一萬**トン**アリ、結局現在實際ニ支那沿岸ニ就航中ノモノハ約十萬三千**トン**見當ト推算セラル。

假リニコレ等ノ船腹ヲ全部他ノ用途ニ轉航セシメタル場合ヲ豫想シ、右船腹ヲ內河船及**ジヤンク**ヲ以テ代替セシムルトスレバ、現在長江筋就航中ノ河航船（汽船及機帆船）ヨリ沿岸ニ轉用ナシ得ル船腹ハ三五隻、一萬九千二百三十**トン**アリ。ソノ內譯左ノ如シ。

東亞海運船	七隻	一四、一二〇（載貨）重**トン**
社外機帆船	二八〃	五、一一〇〃　〃

計　三五〃　一九、二三〇〃　〃

右ノ船腹ヲ差引キタル殘リノ約八萬四千トンヲジヤンク船ヲ以テ代替スル場合ハ、ジヤンクノ運航效率ハ汽船ノ約四割程度ナルヲ以テ右トン數ノ約二倍半、即チ約二十一萬トンヲ要スル計算ナリ。

一、ジヤンク動員見込數

外洋ジヤンクニ對スル我ガ方ノ統制ハ、從來中支ジヤンク協會ヲシテ實施シ來レリ。同協會ノ統制ハ軍作戰ニ依ル沿岸封鎖ノタメ、交通遮斷ニ協力スルヲ主目的トシ、ソノ事業モ單ニ登錄、納稅等極メテ消極的ナル範圍ニ限ラレタリ。而シテ、同協會ノ統制ハ舟山島ニ對シテハ及バズ該地方航行ノジヤンクノ大部分ハ舟山島自治委員會ノ交通部パスヲ所持シ中支ジヤンク協會ノ統制外ニアリタリ。從ツテ、我ガ方ガ外洋ジヤンクニ對シ統制ヲ及シ得ル對象ハ、中支ジヤンク協會加入ノジヤンク一萬六千餘隻二十一萬トン、更ニソノ外ニ前記舟山島自治委員會交通部登錄ノジヤンクガコレニ加リソノ實數ハ右ノ數字以上ナリ。右ノ中支ジヤンク協會所屬船中動員ノ對象トナルベキ五十トン以上ノ大型船ハ左ノ如シ。

五十トン以上百トン未滿ノモノ	五三七隻
百トン以上ノモノ	一四七〃
計	六八四〃

併シ乍ラ、現在中支ニ於ケルジヤンクノ動向ハ、事變以來行ハレタル密輸取締ノタメ、特ニソノ基礎トナル物資移動制限强化ノタメ右登錄ジヤンクモ漸次温州、福州方面ノ敵地ニ遁避スルモノ續出スルノ狀況ナリ。更ニ同業幫、同鄉幫等ノ有力者モ皇軍進駐後逃晦シタルモノ多數ニ上レリ。

今、中支ニ於ケルジヤンクヲ我ガ方ノ統制下ニ引入レルタメニハ、先ヅ同業幫、同鄉幫ノ有力者ト提携シ得ルカ否カノ如何ニ懸リ居レリ。現在ジヤンク界ニ於テ注目スベキ人物ハ滸浦鎭ノ趙倍芝ナリ。同氏ハ船民約一萬人ヲ支配シ、揚子江下流及絡東方面ヨリ海州方面迄ヲソノ勢力下ニ置キ、輩下ノジヤンクハ五十トン以上約三百隻ニ及ブモノノ如シ。其ノ外ニ舟山島定海ノ載、上海在住ノ徐鐵珊等十指ニ餘ル狀態ナルガ、コレ等有力者ノ協力下ニアルジヤンクハ海上貨物船トシテ適性ヲ有スル百トン(載貨重量)以上ノ大型船ハ約百隻ナリ。更ニ敵地ニ遁避セル同型船ヲ誘致セバ約百隻ヲ獲得シ得ル見込ナリ。右合計約二百隻、二萬トンノ動員可能ナリ。

但シ、事變前中支一帶ニ就航シタル大型ジヤンクハ少クトモ約五百隻、五萬トン前後ト見ラルルヲ以テ、現在敵地ニ逃避中ノ船腹ノ誘引工作ニ成功スルナラバ右ノ外ニ三百隻、約三萬トン獲得シ得ル見込ナリ。尙各種幫ニ對スル誘引工作竝ソノ折衝ハ、幫ノ崩壞過程ノ進展狀況各地方竝或ハ業種別ニヨリ一樣ナラズコレガ對策指置ハソノ對象ニヨリ對處スルコトヲ要ス(コノ點ニ關シテハ內河ノ場合ニ於テモ同樣ナリ)。

二、ジヤンクノ運航統制機構

現在ジヤンク界ニ於ケル幫組織ハ、靑幫ノ有力者ヲ始メソレ等ノ大部分ハ表面ヨリ姿ヲ晦シ、同業幫ノ組織ハ勿論同鄉幫等モ既ニ殆ンド潰滅ニ瀕セル狀態ナリ。然シ乍ラ、同業幫竝同鄉幫ノ有力者等ハ日本側ヨリノ何等カノ呼ビカケヲ期待シ、又ジヤンクニ對シ直接取締關係ヲ有スル軍當局トノ間ニ確乎タル連繫ヲ欲シ、幫組織ノ再建ヲ待望シ居レリ。

ジヤンク船民ノ幇組織ハ事變前マデハ融資ソノ他ノ方法ニヨリ搾取ヲ行フト同時ニ一面ジヤンク運營上必要ナル組織ナリシガ、事變勃發後ハ打續ク不況ノタメ前述ノ如ク崩壞ニ瀕シ、ソノタメ最近ハ、從來ヨリ邦人ノ操縱シ來リタル砂利運搬ジヤンク（舟山瓜焦島上海間輸送——江南實業公司、中發公司、中村組、松村組）及鹽運搬ジヤンク（舟山島岱山間輸送——裕民鹽業公司）等ノ船民操縱ハ余程樂トナレリ。

ジヤンクノ動員竝ソノ統制ハ、現在ニ於テモ幇組織ヲ無視シテ行フコトハ不可能ナルノミナラズ、寧ロ現在ノ幇組織ノ動向ヲトラヘテコレヲ適當ニ利用スルコトニヨリソノ功果ヲ期シ得ベキハ既ニ各方面ニ於テ一致シタル見解ナリ。

併シ乍ラ、現在我ガ方ニ於テ企圖スルジヤンク統制ハジヤンクヲシテ單ナル運賃稼行船トシテ運航セシムルニアリ。從ツテ、海洋ジヤンクノ大半ガ永年ニ亘リ貿易船乃至密輸船トシテ商業的投機的利潤ヲ享受シ來レル慣行ヲ酌酌スルノ要アリ、ソノタメジヤンクノ結集統制機構ハ大樣左ノ如キ諸點ニ對シテ夫レ夫レノ考慮ガ必要ナルベシ。

（イ）新タニ設置スル中支外洋ジヤンク協會（假稱）ニ現在中支ジヤンク協會ノ主要業務タル航行許可證ノ發給（軍事務ノ代行）ヲ歸屬セシメ、以テ强權的ニジヤンクノ運航ヲ統制セシム。

（ロ）拔荷、荷痛ミ、濡荷等ノ取締リ及荷主ノ損害ニ對スル補償ニ必要ナル保險制度ヲ確立シ、コレガ遂行ニ必要ナル資金ヲ用意シ、其ノ他荷主ヲシテジヤンク利用ニ協力セシムルタメニ必要ナル手段ヲ講ズル事。

（ハ）船體及船員ノ保險制度確立。

（ニ）船民ニ對シ輸送奬勵金制度ヲ設ケ、且ツ生計費ニ對スル前貸制度ソノ他金融ノ便益供與ヲ圖ルノ要アリ。

（ホ）運航補助金竝保賃共同計算制度ノ運營。

三、ジヤンク輸送ノ範圍

ジヤンクノ運航ハ、乘組員ガ就航航路竝運搬貨物ノ種類等ノ變更ヲ極度ニ嫌ヒ（同業幇、同鄉幇等ノ組織ト密接ナル關聯ヲ有ス）、關係地方ニ執着スルモノナルヲ以テ、中支ニ於ケルジヤンク輸送ノ範圍ハ、コレヲ中支ニ限定スルコトヲ要ス。尙北支及南支ニ於ケルジヤンクモ略々同樣ト見ラルルヲ以テ、支那沿岸ノジヤンク輸送ハ、航行區域ヲ靑島、廈門ニヨリ北支、中支、南支ニ三分シ、中支ノジヤンクハ靑島、廈門間ヲ運航シ、ソレ以外ヘノ荷物ハ廈門、靑島ニ於テ積替ヘヲ行フ方法ニヨルヲ適當トスベシ。

四、ジヤンクノ修理及造船施設

海洋ジヤンクハ、船體ノ構造上常ニ小修理ヲ必要トシ、又尠クトモ一年一回ハ必ズコレヲ行フ必要アリ、更ニ三年目ニ一回ノ大修理ヲ必要トスルモノナリ。然ルニ大部分ノジヤンクハ事變以事殆ンド修理ヲ行ヒ居ラザルタメ、今、ジヤンクノ動員ヲナスモ大修理ヲ實施セザル限リ直チニ使用ナスコト不可能ナルモノ尠カラズ。

修理ニハ防水防腐劑トシテ桐油ヲ始メトシ、ソノ外ニ木材、竹、釘、パテ、帆布、麻繩等ヲ相當多量要シ、コレガ供給ノタメ特別ノ考慮ヲ必要トス。但シ、單ナル修理ノタメニハ特別ノ施設ヲ必要トセズ。又造船設備モ差シタル設備ヲ要セズ、各地ニ分散セル華人船大工ヲ上海、寧波、舟山島、定海等數ケ所ニ結集セシメ、マス・プロダクシヨンヲナストセバ、資材ノ置場トシテノ倉庫雨天作業場等ヲ設備スル程度ニテ好ク、機械設備ヲ以テスル

トシテモ極メテ簡單ナルモノニテ十分ナリ。

(二)內河民船ノ動員

一、內河民船ノ動員可能範圍

內河ニ於ケル民船ノ數ハ十萬五千七百二十九隻、九十九萬八千四百十五トンナリ。トン數級別區別左ノ如シ。

屯數級別	隻數	%	屯數	%
一〇以下	八三、九四四	七九・〇	四一九、七二〇	四二・〇
一一—三〇	一八、三三〇	一七・〇	三八六、六〇〇	三八・八
三一—八〇	三、四二五	三・二	一八八、三七五	一八・八
八一—一〇〇	一三	〇・八	一、一七〇	〇・四
一〇一以上	一七		二、五五〇	
	一〇五、七二九	一〇〇・〇	九九八、四一五	一〇〇・〇

右ノ中貨物輸送船トシテ動員ノ對象トナルハ主トシテ三〇トン以上ノ中型船竝大型船ナリ。即チ、三〇トン以上三、四二五隻、トン數一八八、三七五トン及八〇トン以上ノ三〇隻、三、七二〇トンガ施策ノ對象ヲナスモノナリ。

二、動員民船ノ結集方策

一、動員民船ノ結集

民船ノ動員ハ外洋ノ場合ト同樣各種船幫ヲ基礎トシテ對策ヲ講ズベキモノナリ。而シテ、民船ヲ動員ノ目的ニヨリ大體ニ於テ三〇トン以上ト以下ニ區分シ、更ニ八〇トン以上ノ民船ノ中外洋ノ航行ニ耐ヘ得ル構造ヲ有シ且ツ幫ノ關係外洋ニ轉用可能ナルモノハ之ヲ沿岸航路ニ振向ケ、內河ニ於ケル輸送力補完・擴充ヲ主トシテ三〇トン以上八〇トン以下ノ民船ヲ以テ之ニ充當シ得ル如ク結集セシムルコト肝要ナリ。三〇トン以下ノ民船ハ大運送ノタメニ用フルコトハ適セザルモ、ソノ數多ク之ヲ未統制ノ狀態ニ放置ナストキハ三〇トン以上ノ民船ノ動員ニモ障害ヲ及スヲ以テ別ニ之ヲ組織シ、右ノ如キ弊害ヲ除去シ同時ニ輸送組織ノ末端的任務ヲ課シ輸送力增强ノ一環タラシムルモノトス。

二、民船業組織ノ再編成

(一)『中支民船同業協會』ノ結成

蘇浙皖民船公會ガ實施シ來レル從來ノ機能、即チ、航行許可證發給代行業務ヲ前提トスル民船ノ統制ハ、既ニ一應ノ成果ヲ收メ限界ニ達シタルヲ以テ、新情勢ニ即應スルタメ各種船幫ヲ結集シテ幫別ノ『中支民船同業協會』ヲ結成シ、從來ノ業務ノ外ニ配船機構ノ確立ヲ目標トシテ左ノ業務ヲ遂行セシメ以テ緊急ノ軍事輸送及一般民需貨物輸送ノ圓滑化ヲ計ルヲ以テ目的トス。

(イ)配　船

(ロ)運賃協定

(ハ)傭船料協定
(ニ)船體保險
(ホ)貨物保證保險
(ヘ)船員ノ保護施設

該同業協會ハ、傭船手數料ヲ主要財源トシ、別ニ關係當局ヨリ補助金ノ交附ヲ受ケ、從來、民船業主ヨリ徵集セル積載トン當リ軍票一五錢ノ會費ヲ輕減シ、主トシテ荷主及ビ運輸會社ヨリ配船手數料トシテ之ヲ徵收セシム。

本公會ハ三〇トン級及ビソレ以上ノ民船ニ重キヲ置キ、零細ナル一〇トン級前後ノ民船等主ハ、準會員トシテ會費ノ徵收ヲ免除スルモノトス。尚ホ幇別同業協會ノ上部組織ヲ結成シ、各下級協會ノ運營統一ヲ計ルモノトス。

(備考)(1)從來ハ、配船機構ヲ支那側運輸公司、駁運公司、船行等ニ運營セシメ來レルモ、此等ノ公司及ビ行家ハ小規模分散的ニシテ配船ノ圓滑ヲ期シ得ズ、特ニ駁運公司ノ如キハ運輸會社ヨリ支給スル傭船料ノ一、二割ヲ徵收シ、更ニ民船業主トノ間ニ中間斡旋人ヲ二、三介在セシムルタメ、民船業主ノ手取額ハ著シク削減サルル現狀ナリ。尚船體ノ破損ハ民船業主ノ負擔トナリ居レリ。拔荷等ノ損失補償ハ右公司ノ資力乏シキタメ實行サレ居ラズ。

(2)本公會ガ、幇別ノ同業公會ヨリナルハ、未加入民船ノ誘致、及ビ合理的配船ノ達成ヲ目標トスルモノニシテ、茲ニ云フ幇ハ、船幇トシテ總稱サルル煤炭幇、肥料幇、木板幇、沙石幇、柴草幇等ノ同業幇ヲ指ス。此等ノ幇ハ、夫レ夫レ同鄉幇ヨリナリ、同時ニ此等ヲ一貫シテ靑幇組織ガ結成サレ居ルモ、ソノ中同鄉幇ト交錯セル同業幇ガ決定的勢力ヲ持ツガ故ニ、靑幇組織ハ之ヲ結集スル**ルート**ノ一ニ過ギザル點ニ注意ヲ要ス。民船ニ於ル靑幇組織ハ民船業主ニアラズシテ、主トシテ下級船夫ノ間ニ行ハレ居ルモノノ如シ。尤モ事變以來幇組織ノ崩壞ガ急速ニ進展シタルタメ、ソノ現狀ハ地方別並幇別ニヨリ可成リ著シキ相違ガ見ラル。

(二)『民船運輸合作社』ノ結成

一〇トン級前後ノ民船ハ、主トシテ農民ノ季節的出稼、自家農產物ノ販運、難民ノ小運送等ヨリナリ、當面ノ輸送力補究・擴充ノ主要對象トナラザル爲、別ニ此等民船業主救濟ノ目的ヲ以テ運輸合作社ヲ結成シ、地方的輸送ノ需要ニ應ズルモノトス。

(三)輸送力補完ノ緊急處置

揚子江ニ於ケル大治――無湖間ノ鑛石輸送ニ於ケル機帆船ノ外洋ヘノ轉用、及江北大運河ニ於ケル北支石炭輸送ノ擴大ニ照應スル津浦線及ビ中支間沿岸船舶ノ節約ノタメ、民船輸送ヲ以テ代行セシムル場合、民船ノ動員可能ノ範圍左ノ如シ。

(イ)大治――蕪湖航路

安慶及蕪湖ノ公會ニ於テ調達可能ノ三一トン以上ノ民船左ノ如シ。

隻數一五一隻、積載トン數九〇〇一トン、尙ホ此ノ外ニ、彭澤、大通ノ分會ニ於テ若干隻、漢口ニ於ケル公會(蘇浙皖民船公會トハ別ノ機關)ニテ相當大量ノ徵達可能ノ見込。

(ロ)淮南炭輸送船ノ代替

淮南炭ノ裕溪口積取量ハ現在月五万、三〇〇〇瓲ナルガ此ノ中裕溪口南京、裕溪口鎭江揚州間ノ輸送ハ現在民船ヲ使用シ一ケ月二七、一〇〇〇噸ノ輸送ヲ行ヒツツアリ。爾餘ノ安慶、漢口、九江、及ビ上海揚月二五、四〇〇〇噸ハ現在機帆船及ビ汽船(河航船及ビ海洋船ヲ含ム)ヲ以テ輸送ニ當リ居レルガ、之レヲ民船ニ代替シ以テ之ヲ機帆船及ビ海洋船(約四九隻、二〇、〇〇〇總噸數一八、三〇〇重量噸)ヲ外洋航路ニ轉用スル事可能ナリ。

(ハ)江北大運河ニヨル北支炭ノ輸送強化

コノルートニヨル北支炭ノ輸送ニ對シ、昭和十六年以來內河汽船ガ運航ヲ試タルモ、軍當局竝官民間ニ十分ナル了解ヲ得ルニ至ラズ、僅カ五百トンノ試驗輸送ヲ見タルノミニテ現在ニ至ル迄未ダ輸送ノ實現ヲ見ルニ到ラザルハ詢ニ遺憾ナリ。コレニ對スル內河汽船ノ現輸送能力ハ目下ノ所極メテ限定サレタル狀態ニアルガ、前記民船動員對策ニヨリ、又新船ノ建造ニヨリ、輸送力ヲココニ集中スルナラバ一ケ年約三萬トンノ輸送可能ナリ。コレガタメ各當局間ノ大乘的見地ニ立ツ妥協ニヨリ航行許可ノ實現ガ切ニ希望セラル。

三、內河汽船ノ輸送力擴充

前記『中支民船同業公會』ノ配船統制ト相俟チテ社內ニ於ケル配船(曳船、艀)ノ一元的統制ヲ强化シ、輸送力ノ擴充强化ニ資ス。之ガタメニハ社內機構ノ改善、人的配置ノ整備等改善ヲ要スル點尠カラザルモ、特ニ業務ノ運營ニ當ル社員ノ再教育、訓練ガ緊急ノ要務タリ。ソノ外水路ノ浚渫ニヨリ輸送力增大ヲ期シ得ベシ。

四、造船・修理工場ノ設置・擴充

上海內河輪船會社及『中支民船業同業公會』ノ既設工場以外ニ新設擴充シ、更ニ各地ニ散在セル船廠(支那側小工場)ヲ其ノ下ニ從屬セシメテ下請工場トナシ、一船民船ノ三年一回ノ大修理、年一回ノ小修理並ニ新規造船ヲ行ハシム。船體修理及ビ造船ニ必要ナル資料、卽チ、桐油、用材、釘、パテ等ハ右ノ二系統ヲ通ジテ豐富ニ割當配給スルコトヲ要ス。右ノ二系統ハ、此ノ外ニ造船、修理ニ關スル資金ヲモ注文主ニ融通スルコト。而シテ、修理・造船工場ノ配置ハ、軍竝一般ノ需要、資材ノ供給等ソノ立地條件ニ卽應スル如ク設置地點ヲ選定セザルベカラス。

(備考)現在內河汽船ノ修理工場設置豫定地點トシテ蕪湖ガ撰定サレアルモ、コレハ寧ロ鎭江ガヨリ適當ナル立地條件ヲ有スルト思料セラル。

民船ノ現有輸送力保持ノ爲ニハ、當面修理ニ重點ヲ置キ、應急處理ヲ講ズルコト肝要ナリ。

(備考)過去四年間、大部分ノ民船ハ大小修理ヲ施シ居ラズ、茲一二年間現狀ノ儘ニ放置シタル場合ニハ航行不能乃至ハ載貨減量ニ陷ルモノ續出シ、民船輸送力ニ甚大ナル影響ヲ與フルベシ。尙コレガ直接ノ原因ハ戰時ニヨル土產資材獲得ノ困難ニ因ルモノニシテ、間接的ニハ船主又ハ被傭船主ノ減收、融資ノ梗塞ト修理費ノ昂騰トニ因ルノナリ。

(三)輸送力擴充强化ニ關スル其ノ他ノ措置

一、ジヤンク統制機構ノ確立

ジヤンクヲ輸送力補完・擴充ノタメニ動員ナスハ、ジヤンクガ傳統的ニ歷史的社會的ニ卽應シ發達シタル機能トハ一應別個ノ用途ニ振向ケルモノシテ、茲ニ重大ナル社會的ノ困難ガ存在スル所以ナリ。コノ困難ノ克服ハ、新タナル情勢ニ適應スルジヤンクノ統制機構ノ確立以外ニ方法ナシ。コレガタメニハジヤンク固有ノ社會的經濟的條件ニ適應スル對策施設ヲ講ズルト同時ニ、一方ニ於テソノ上部機構トシテ中支全體ヲ統制スル堂固ナル運輸統制機構ノ確立ニ俟ザルベカラズ。即チ、前述ノ如キジヤンク統制機構ヲシテ中支全體ノ運輸統制機構ニ從屬セシメ、一元的機構ニヨル統制力ヲ下部末端組織ニ迄透徹セシムルコト肝要ナリ。換言スレバ、ジヤンク動員ハ統制機構ノ確立、統制力ノ把握・透徹ニアリト言フモ不可ナシ。コノ問題ハ究局スルトコロ新ラシキ船員指導者養成、船員ノ教育訓練ニ迄徹底セザルベカラズ。

二、物資移動制限取締機關ノ統一、手續ノ簡略化

密輸取締ノ目的ヲ有スル物資移動制限ガジヤンク輸送ニ對シ輸送力ヲ減殺シツツアルハ、極メテ顯著ナル事實ナリ。今、ジヤンクヲシテ輸送力補完・增强ノタメニソノ機能ヲ最高度ニ發揚セシムルニハ、右取締規定ガ重大ナル障害トナルハ明ラカナリ。物資移動制限ニ關スル全面的檢討ハ茲ニ於テナス問題ニアラザルモ、取締機關ノ統一竝ソノ手續ノ簡略化等ニヨリ輸送力ノ增大ヲ計ラザルベカラズ。ジヤンク動員ノ主旨ヨリスルモ、コノ點ノ改善ナキ限リ動員ニヨリ取得シタル輸送力ノ大部分ガ減殺サルル結果ヲ招來シ、何等ノ功果ヲモ齎サザルベシ。

三、ジヤンク輸送貨物ニ對スル轉口稅免除

舊國民政府ニ於テハ開港地非開港地間ノ貨物運輸ニ對シ、ジヤンク輸送ニヨル場合ハ外國權益ニヨリ運航セラルル汽船ニ對抗セシムル主旨ニヨリ轉口稅ヲ免除セリ。ソノタメジヤンク輸送ニヨル貨物ハ、若干時日ヲ多ク要スルモ汽船ニヨル場合ヨリモ數割低廉ナル運賃ニヨリ物資ヲ運送シ、同時ニジヤンク輸送業務モコレニヨリ繁榮セリ。現在ニ於テハソノ主旨ヲ異ニスルモ、ジヤンク輸送貨物ノ轉口稅ヲ免除スルコトニヨリジヤンク動員ヲ刺戟シ、同時ニ物資交流ノ促進ニ資スルヲ得ベシ。

(四)ジヤンク動員ニヨル輸送力增强ノ限界性

既ニ指摘シタル如ク、ジヤンクハソノ社會的經濟的環境ニ適應シテ獨特ノ發達ヲ遂ゲタルモノナリ。從ツテ、夫レ等ガ各々ノ社會的條件ニ適應シテ輸送スル總輸送力ハ驚クベキ厖大ナル量ニ達スルモ、コレヲ一定ノ輸送力補完增强ノタメニ動員シ、我ガ方ノ輸送力ヲ負擔セシムル場合ニハソノ運輸力ハ極メテ重大ナル制限ヲ蒙ルハ固ヨリ當然ナリ。コレハ我ガ方ノ强力ナル統制下ニ於テ運營ナスモ、船體ノ構造竝船員ノ社會的經濟的條件ノ制約ヲ悉ク除去スルハ至難ニシテ、寧ロソノ運營方法ヲ可能ナル限リソレ等ノ條件ニ適應セシムルニ如カズ。

コノ意味ニ於テ、輸送力增强ノタメニジヤンク動員ニ對シ過大ナル期待ヲカクルハ至當ナラズ。唯現在ノ狀況上コレヲモ利用動員セザルベカラザルヲ十分顧慮シ、且ツ、ジヤンク本來ノ機能ニ最モ近キ範圍ニ於テコレガ活用ヲ期スルモノナリ。若シ、動員竝運營方法共ニ正シクコレヲ利用スルヲ得バ、敵ノ抗戰力ヲ削除シ、逆ニコレニ

ヨリ我ガ方ノ軍事竝大陸經營ノ一手段タラシムルヲ得ベシ。要ハソノ特殊性竝ソノ利用ノ限界性ヲ正確ニ認識スルコト肝要ナリ。

第四款　企業

第四款　企　業

第一項　新敵産處理ニ關スル方針及措置要領(案)

(昭和十七年八月二十一日提出)

一、新敵産處理ニ關スル方針及措置要領

(一)方　針

上海及中支ニ於ケル新敵産ノ處理ニ當リテハ

(一)戰時中ニ於ケル之ガ徹底的活用ニヨリテ我ガ戰爭完遂ニ資セシムルト共ニ之ヲ通ジテ戰後ニ於ケル歐米勢力ノ拂拭竝我ガ方經濟實力ノ扶植確立ニ役立テシムルコトヲ根本眼目トスルコト

(二)新敵産ノ處理ハ舊敵産ノ處理ト區分シ前者ヲ日本ノ恒久取得竝直接經營トシ後者ノ一時管理竝委託經營若クハ合辦經營ニヨリ之ヲ區別シ以テ對支施策上ノ我ガ方立場ヲ明瞭ナラシムルコト

(三)右ニ基キ新敵產ニ關シテハ必ズシモ從來ノ戰時國際法ニハ拘泥セザルモ尙敵國ニ於ケル報復措置ノ口實ヲ與フルコトヲ避ケ且他ノ占據地域ノ處理ヲモ睨ミ合セ能フ限リ之ガ合理的取得ノ方法ヲ講ズルコト

(四)新敵產ハ政府ニ於テ之ヲ取得シ戰力培養竝戰後經營ノ兩目的ニ副ハシメンガ爲之ガ利用經營ニ當ル擔當者ヲシテ最大限ニ經營精神ヲ發揮シ其ノ積極的活用ヲ計ラシムル自的ヲ以テ新敵產ニ關スル其ノ所有權乃至處分權ヲ確保セシムル措置ヲ講ジ恒久的機構及組織ノ下ニ之ガ運營ヲ行フコト

(五)新敵產ヨリ得ル利益ハ國庫ノ收入トシ國債整理竝在支資金獲得ノ一助トナル樣處理スルコト

ヲ方針トシテ左ノ如ク措置スルモノトス。

(二)措置要領

一、新敵產ハ一面其ノ經營ヲ敵國人ニ委スヲ不適當ト認ムルト共ニ他面經濟活動ノ維持民生ノ保全ノ爲之ガ繼續運營ヲ必要トスル事情ヲ强調シ

(イ)有償ヲ以テ政府之ヲ强制徵收シ其ノ所有權ヲ取得シタル上之ヲ適宜處理スルコトトシ、右ノ爲政府ハ其ノ評價額ト同額ノ公債ヲ發行シ一先ヅ之ヲ適當ナル機關ニ供託スルコト

(ロ)又ハ其レニ至ル過渡的便法トシテ軍管理ノ儘之ヲ信託會社(後記)ニ信託シ其ノ處分ヲ軍ノ指示スル範圍內ニ於テ自由トシ、其ノ處分代金ヲ適當ナル機關ニ供託セシムルコト

(ハ)新敵產ノ所有者ガ敵國ニ居住スル敵國人又ハ上海乃至支那ニ居住スル敵國人若クハ支那人及第三國人タルノ別ニ從ヒ、戰爭終結マデ供託ヲ繼續スルカ、一定制限ノ下ニ供託ヲ解除シ該公債ヲ交付スルカ、或ハ新株式ノ交付ニヨリ供託公債ノ政府取戻ヲ行フ等將來ノ措置ニ相違アルベキコト

(ニ)右公債ノ元利支拂ハ戰後ノ敵國賠償金ヲ以テ之ニ充當スルコトトシ、敵國人ノ所有分ニ限リ事實上ハ無償ノ沒收トナスベキ建前ヲ堅持スルコト

二、新敵產ハ軍事上ノ必要ニ依リ軍ニ於テ直接管理セルモノヲ除キ之ヲ政府ニ移管シタル上上海振興株式會社(假稱)ヲ設立シ之ニ現物出資スルカ或ハ過渡的便法トシテ之ヲ軍管理ノ儘上海信託投資株式會社(假稱)ヲ設立シ之ニ敵產信託ヲ行フコト

三、上海振興株式會社又ハ上海信託投資株式會社ハ政府ノ出資財產又ハ軍ノ信託財產ノ出資又ハ信託ヲ受ケ其ノ中

(イ)特定企業財產ニ付テハ業種及數ニ應ジ且適當ニ取捨按配シ之ヲ現物出資トシテ更ニ一般民間資本ヲモ加ヘタル若干ノ日本籍株式會社ヲ設立シ

(ロ)他ノ企業財產ニ付テハ之ヲ既存ノ日本籍邦人企業ニ現物出資シ該企業ノ株式其他ノ持分ヲ取得シ

(ハ)不用企業財產ニ付テハ之ヲ『スラクツプ』トシテ利用シ得ルモノハ『スクラツプ』トシ斯ク利用シ得ザルモノハ戰賣處分ニ付シテ現金化ス

等ノ措置ヲ講ズルコト

四、上海振興株式會社又ハ上海信託投資株式會社ノ經營ニハ有能ナル民間人ヲ以テ之ニ當ラシメ政府又ハ軍新敵

産管理機關ハ其ノ選定シタル常任監査役ヲ置キテ業務ヲ監督セシムルコト

五、上記三、ノ(イ)掲記ノ株式會社ノ經營者ニハ業種ニ應ジ從來經驗ヲ有シ且信用確實ナル者ヲ選定シ事變後多數設立セラレタル國策會社ノ如キ人的資本的合作ヲ避ケテ經營ノ中心主體ヲ單一化シ以テ責任經營ヲ行ハシムルコト

六、右會社ニハ戰中時ハ專ラ戰力培養ノ方針ニテ經營セシメ營利ヲ第二義的トシ特ニ配當ノ如キモ無理ニ之ヲ行ハシメザルコト

但シ最初ヨリ缺損ヲ見越サルル事業ニ對シテハ別途施策ヲ講ズルコト

七、上記三、ノ(イ)及(ロ)掲記ノ敵産企業ニシテ同種ノモノ多數アル場合ハ併立不可ナルモノヲ除キ能フ限リ原狀ニ於ケル單位ノ儘現物出資ニヨル新會社ヲ設立スルカ或ハ邦人企業ニ現物出資スルコトトシ獨占ニヨル企業能率ノ低下ヲ避ケ競爭心ヲ刺戟セシムルコト

八、敵産企業ニシテ其ノ株式ノ一部ヲ華人ガ所有スル場合ハ敵國人ノ持分ノミヲ我ガ方ニテ肩代リスル建前トシ後日華人側持分ヲ甦生セシムル爲他ノ事情ヲモ併セ考慮シ在支事業法ヲ制定スルコト

(在支事業法ニ就テハ『金融ニ關スル措置要領(案)』ノ當該項參照)

九、經營上上海地區乃至中支一體化ノ必要アル企業ニ付テハ上記三、ノ(イ)掲記ノ株式會社設立ニ際シ既存同種企業ヲシテ上海地區乃至中支ニ於ケル其ノ保有設備ヲ之ニ現物出資セシムルカ或ハ上記三、ノ(イ)掲記ノ株式會社ヲシテ既存同種企業トノ間ニ技術的連繫ヲ協定セシムルコト。

一〇、事業ノ公共的性質上共同租界工部局及佛租界公董局及上海特別市政府等ノ市政機關ト特定ノ協定ヲ必要トスル企業ニ付テハ其ノ從來ノ慣行ヲ參酌シ新協定締結ニヨル合法的經營ヲ行ハシムルコト

一一、新敵産中經濟的意義ヲ有セザル文化施設其他ニ付テハ別途之ヲ施策スルコト

二、說　明

大東亞戰爭開始ト共ニ上海及中支ニ於ケル米、英、蘭、白等ノ敵國財産ハ皇軍ノ占領スル處トナリタリ。而シテ上海方面大日本帝國陸海軍各最高指揮官ハ本年三月二十日付布告ヲ以テ『在中支(武漢地區ヲ除ク)敵性企業中大東亞戰爭目的完遂ノタメソノ經營ヲ敵國人ニ委スヲ不適當ト認ムルモノハ昭和十六年十二月八日以降軍管理ト』スル旨布告シ、其ノ管理ノ次第ヲ宣明スル處アリタリ。コレ固ヨリ占領軍ノ權利ノ發動ニシテ、戰爭目的完遂ノ爲當然ノ處置ト言フベク、其ノ內容如何ニ就キテハ外部ヨリ是非スベキ限リニアラズ。茲ニ『敵産處理ニ關スル方針及措置要領(案)』ヲ起案シ軍官當局ノ參考資料シトテ提出スル所以ハ、所謂『敵性企業』ノ處理如何ハ上海再編成ノ問題ニ影響スル處極メテ大ニシテ、之ガ處理ノ方向ヲ前提スルコトナクシテ上海再編成ヲ論ズルハ全ク架空ノ論議トナルベキガ故ニ、斯カル立場ヨリスレバ敵産處理ノ方針竝ニ措置ハ如何アルベキカヲ討究スルノ要アリト思料シタレバナリ。仍テ本案ハ上記ノ如キ條件付ノ參考案ニ過ギザルコトヲ特ニ附言セントス。

『上海再編成ニ關スル基本方針(案)』ハ既ニ提出シタル處ナリ。卽チ、其ノ要領ヲ摘記スレバ上海ノ自然的立地條

件、豐富ナル經濟的遺產竝ニ特異ナル行政機構ヲ活用シテ大東亞戰爭完遂ノ爲戰力培養ニ資セシムルト共ニ、之ヲ通ジテ戰後經營ノ基礎ヲ確立スベシト言フニアリ。而シテ中支、特ニ上海ニ於ケル豐富ナル經濟的遺產ハ主トシテ歐米百年ノ蓄積セル處ニシテ、其ノ中米、英、蘭、白等ノ所謂『敵性企業』ガ主要部分ヲ占メ樞軸國中立國ノモノ極メテ尠シ。所謂『敵性企業』ヲ單ナル損耗破壞防止或ハ會計監督等ノ管理程度ニ止ムルコトナク、我ガ方必要ノ爲ニ積極的ニ動員シ我ガ現地生產增强ノ有力手段トシテ活用スルハ、我ガ方ガ上海ヲ戰力培養基地トシテ之ヲ利用スル爲ノ必須條件タリ。

惟フニ帝國ノ第一義的必要ハ大東亞戰爭ヲ最後迄戰ヒ拔キ米英ヲ先頭トスル歐米敵國ニ完勝スルニアリ。而シテ大東亞戰爭ノ前途ハ決シテ坦々タルモノト豫想スル能ハズ。時局ノ重大性ヲ思ヘバ第一義的必要ノ爲ニハ他ノ凡テノ必要ヲ之ニ從屬セシメザルベカラザルハ言フ迄モナシ。我ガ占領區域內ニアル敵性企業ニシテ我ガ戰力培養ニ役立ツモノアラバ、我ガ方必要ノ爲ニ之ヲ處理シ其ノ最大限ノ活用ヲ志向スルヲ要ス。固ヨリ其ノ際必ズシモ從來ノ戰時國際法ニハ拘泥スルヲ要セズトスルモ、尙ホ敵國ニ於ケル報復措置ノ口實ヲ與フルコトヲ避ケ且ツ他ノ占據地域ノ敵產處理ヲモ睨ミ合セ、能フ限リ之ガ合理的取得ノ方法ヲ講ズルコト肝要ナリ。

他方ニ於テ之ヲ我ガ戰後經營トノ關聯ニ於テ考察スレバ、戰後再ビ上海及長江流域ヲ歐米帝國主義ノ對支侵略ノ策源地タラシムルコトナク、我ガ方指導ニヨル大東亞共榮圈經濟ノ主要據地トシテ甦生セシムルノ要アルベク、其ノ最大ノ保障ハ我ガ方經濟實力ノ扶植確立ヲ措キテ他ニナシ。米、英、蘭、白等ノ新敵產ノ處理ハ重慶系舊敵產ノ處理ト區別シ、後者ヲ國民政府育成强化ノ爲ノ經濟的地盤ノ培養ニ資セシムルニ對シ、前者ヲ我ガ歐米勢力拂拭竝我ガ方經濟實力ノ扶植確立ノ爲ノ槓杆トスルハ賢明ナルベシ。固ヨリ國民政府ノ强化ハ卽チ歐米勢力ノ後退タルベシ、又タラザルベカラザル道理ナレドモ、現實問題トシテハ其處ニ時間的要素ヲ加味セザルヲ得ズ、且首記ノ第一義的必要ヲ併セ考慮スルコト亦肝要ナリトス。

斯クテ新敵產ハ政府ニ於テ之ヲ取得シ戰力培養及戰後經營ノ兩目的ニ副ハシメンガ爲恒久的機構及組織ノ下ニ之ガ運營ヲ行フコト必要ナリ。蓋シ斯ノ如キ法律的處分ヲナサズ、企業ノ管理、經營ノ委託ノ形式ヲ存續スルニ於テハ、受託者ハ法律的關係未確定ノ爲活潑ナル經營精神ヲ缺キ只管目前ノ損失ノミヲ恐レテ消極的經營ニ惰スノ嫌ヒ免レズ、敵產處理ノ第一目的タル我ガ戰力培養ノ點ニ於テスラ幾多ノ困難ト支障トヲ生ズレバナリ。寧ロ我ガ方必要ノ大局ニ立脚シ其ノ統一的活用ニ便スル恒久的機構及組織ヲ案出スベキモノトス。同時ニ厖大ナル新敵產ヨリ生ズベキ利益ハ國庫ノ收入トシ戰後ニ於ケル我ガ國債整理ノ一助トスルト共ニ併セテ我ガ方在支資金獲得ノ手段トスルヲ要アルベシ。

本案ハ右ノ方針ニ基キ措置要領ヲ起案シタルガ以下遂次說明スベシ。

(一)新敵產ノ合理的取得

新敵產取得ニ依ル敵國ノ報復措置ヲ避ケ且他ノ占據地域ニ於ケル敵產處理トノ均衡ヲモ考慮シ、上海及中支ニ於ケル新敵產ハ其ノ合理的取得ヲ第一ノ目標トスベキ處、右ノ爲新敵產ハ一面其ノ經營ヲ敵國人ニ委スヲ不適當ト認ムルト共ニ他面經濟活動ノ維持民生ノ保全ノ爲之ガ繼續運營ヲ必要トスル事情ヲ强調シ、(一)有償ヲ以テ政府

之ヲ强制徵收シ其ノ所有權ヲ取得シタル上之ヲ適宜處理スルコトトシ、右ノ爲政府ハ其ノ評價額ト同額ノ公債ヲ發行シ一先ヅ之ヲ適當ナル機關ニ供託スルコト、又ハ（二）其レニ至ル過渡的便法トシテ軍管理並ニ之ヲ信託會社（後記）ニ信託シ其ノ處分ヲ軍ノ指示スル範圍內ニ於テ自由トシ、其ノ處分代金ヲ適當ナル機關ニ供託セシムルコトヲ賢明ナリトス。而シテ新敵產ノ所有者ガ敵國ニ居住スル敵國人又ハ上海乃至支那ニ居住スル敵國人若クハ支那人及第三國人タルノ別ニ從ヒ、戰爭終結マデ供託ヲ繼續スルカ、一定制限ノ下ニ供託ヲ解除シ該公債ヲ交付スルカ、或ハ新株式ノ交付ニヨリ供託公債ノ政府取戻ヲ行フ等將來ノ措置ニ相違アルベキコト當然ナリ。之ニ依リ新敵產ハ敵國人ノ持分ノミ我ガ方ガ肩代リスルコトトナルモノナルガ、上記ノ公債ノ元利支拂ハ戰後ノ敵國賠償金ヲ以テ之ニ充當シ、敵國人ノ所有分ニ限リ事實上ハ無償浸收トナスベキ建前ヲ堅持スルコト肝要ナリ。

（二）新敵產ノ統一的運營

新敵產ノ統一的運營ノ爲、軍事上ノ必要ニ依リ軍ニ於テ直接管理セルモノヲ除ク他ノ凡テノ敵性企業ハ、（一）之ヲ政府ニ移管シタル上、（二）政府ハ上海振興株式會社（假稱）ヲ設立シ之ニ現物出資シ、（三）上海振興株式會社ハ政府ノ出資財產ヲ受ケ、之ヲ（四）特定企業財產、他ノ企業財產、不用財產ニ分ケテ夫レ夫レノ措置ヲ講ズルハ理想的ノ處理案ナリ。但シ、右ハ中央ノ方針未ダ決定セズ、他ノ地域ニ於ケル敵產處分トノ間ノ均衡モアリ、且立法上ノ諸手續モ必ズシモ簡易ナラザルベキ虞アルヲ以テ、一先ヅ暫定的ニ、（一）之ヲ軍管理ノ儘、（二）上海信託投資株式會社（假稱）ヲ設立シ之ニ敵產信託ヲ行ヒ、（三）上海信託投資株式會社ハ軍ノ信託財產ノ信託ヲ受ケ、之ヲ（四）特定企業財產、他ノ企業財產不用財產、ニ分チテ夫レ夫レノ措置ヲ講ジ、第一案實施ノ實際的前提ヲ形成スルモ亦可ナルベシ。兩案ヲ通ジ其ノ經營ニハ有能ナル民間人ヲ以テ之ニ當ラシメ、政府又ハ軍新敵產管理機構ハ其ノ選定シタル常任監査役ヲ置キテ業務ヲ監督セシムルニ止マルコト肝要ナリ。

右ハ三月二十日付陸海軍各最高指揮官布告ノ『軍管理企業ハ軍事上ノ要度ニ應ジ陸海軍部隊直接コレヲ管理シマタハ陸海軍最高指揮官ノ指定スル者ニソノ經營ヲ委託シ若ハ管理人管理官等ヲ設置シテ管理ノ責ニ任ゼシム』ルノ施設ヲ更ニ一歩前進セシメ、廣汎ナル戰力培養並ニ戰後經營ノ目的ニ副ハンガ爲恒久的機構及組織ノ下ニ之ガ統一的運營ヲ行ハシムルノ趣旨ニ出デタリ。同時ニ之ニ依リテ非常時下繁文縟禮ノ弊ヲ避ケ事務ノ敏捷ヲ計リ、以テ可及的短期間ニ最高能率ヲ發揮セシメンコトヲモ期スルモノナリ。

上海振興株式會社（又ハ上海信託投資株式會社）ノ中支那振興株式會社ニ對スル關係ニ付テハ、兩者其ノ最初ノ取得財產ノ性質ヲ異ニシ出發點ヲ異ニスル結果、後者ガ國民政府ノ育成强化ヲ終局目標トシ前者ガ米英勢力拂拭、我ガ方經濟實力確立根本眼目トスル點ニ於テ相違アルモ、當面戰力增强ニ力ヲ致スベキ兩者共通ナルハ言フ迄モナク特ニ公共事業ハ其ノ一體的經營ノ必要上兩者ノ調整必要ナルベシ『公共事業ニ關スル措置要領（案）　參照』。

（三）新敵產經營ノ具體的方法

上海振興株式會社又ハ上海信託投資株式會社ハ政府又ハ軍ノ出資財產又ハ信託財產ヲ基礎トシテ之ガ經營ノ爲諸種ノ具體的方法ヲ講ゼザルベカラズ。

其ノ中特定企業財產、即チ碼頭、碼頭倉庫、電話、電力、瓦斯、水道電車、或種ノ工業（例ヘバ煙草製造業）又ハ不動產業等ノ如キ現在我ガ方ノ力ニテ經營スル必要アリ且將來共我ガ方ニテ把握スル必要アル基幹的事業ノ財產ニ付テハ、業種及數ニ應ジ且適當ニ取捨按配シ之ヲ現物出資トシテ更ニ一般民族資本ヲモ加ヘタル若干ノ日本籍株式會社ヲ設立スルヲ適當トスベシ。其ノ際右株式會社ノ經營者ニハ業種ニ應ジ從來經驗ヲ有シ且信用確實ナル者ヲ選定シ、事變後多數設立セラレタル國策會社ノ如キ人的資本的合作ヲ避ケテ經營ノ中心主體ヲ單一化シ、以テ責任經營ヲ行ハシムルコト肝要ナリ。加之、敵產企業ニシテ同種ノモノ多數アル場合ハ併立不可ナルモノヲ除キ能フ限リ原狀ニ於ケル單位タラシメ、獨占ニヨル企業能率ノ低下ヲ避ケ競爭心ノ刺戟ニヨル能率增進ヲ計ルノ工夫ヲ要ス。

次ニ右以外ノ企業財產ニシテ我ガ方生產增强其他ノ戰力培養手段トシテ役立テシムベキモノニ付テハ、之ヲ既存ノ日本籍邦人企業ニ現物出資シ其ノ代價トシテ該企業ノ株式其他ノ持分ヲ取得スルヲ適當トスベシ。所謂委託經營ノ形式下ニ活潑ナル企業精神ヲ缺キ消極的經營ニ墮セシムルコトナク、敵產ノ全部的占有ニヨリテ最大限ノ活用ヲ圖ラシムルコト肝要ナリ。

最後ニ不用企業財產ニ付テハ、之ヲ「スクラップ」トシテ利用シ得ルモノハ「スタラップ」トシ斯ク利用シ得ザルモノハ競賣處分ニ付シテ現金化スルノ要アルベシ。

以上ノ處理ヲ通ジテ上海振興株式會社又ハ上海信託投資株式會社ハ新敵產ヲ直屬事業、關係事業及ビ現金ノ三者ニ整理シ、第二段ノ施策ニ着手スベキモノトス。

（四）關係アル二、三ノ問題

第一ハ敵產企業ノ華人側持分ノ處理ノ問題ナリ。斯カル敵產企業ニ付テハ一應我ガ方ハ敵國人ノ持分ノミヲ肩代リスル建前トシ、華人側持分ハ後日事情吟味ノ上之ヲ甦生セシメヤル用意必要ナルベシ。但シ、日本側持分ハ日本人ノミ之ヲ所有シ且其ノ讓渡質入等ニ制限ヲ附シ以テ經營實權ノ喪失ヲ防グト共ニ、他ハ國籍ノ如何ニ拘ラズ之ヲ解放シ且其ノ自由賣買ヲ許スノ必要アルヲ以テ、之ヲ可能ナラシムル爲先ヅ在支事業法ノ制定ヲ要スベシ。在支事業法制定ノ要ハ他ニモ幾多ノ理由アレドモ、既ニ『金融ニ對スル措置要領（案）』ニ於テ詳說シタレバ茲ニハ再記セズ。

第二ハ技術聯繫ヲ必要トスル特殊企業處理ノ問題ナリ。公共事業中電話ノ如キハ上海ヲモ含メテ中支一體化ノ必要アルベク、電力、瓦斯、水道、電車等ノ如キハ租界內外ヲ問ハズ上海地區一體化ヲ能率的トスベシ。然ルニ既ニ華中電氣通信、華中水電、大上海瓦斯、上海都市公共汽車等ノ諸社ハ右事業ヲ營ムモノナリ。仍テ例ヘバ上海電力、上海瓦斯、上海水道、上海電車等ノ日本籍株式會社ヲ設立スル場合ハ、中支那振興會社ヲ通ジテ新敵產ヲ現物出資シ、且前揭既存企業ヲシテ上海地區內保有設備ヲ之ニ現物出資セシムルモ良ク、或ハ新設會社ニ之ヲ委任經營セシムルモ良ク、或ハ同種兩企業間ニ技術的連繫ヲ協定セシムルモ可ナルベシ。若シ實際上經營ノ人的構成ヲ兩者共通トセバ如上ノ問題ハ單ナル名目的問題ニ歸スベシ。

第三ハ所謂特許契約（**フランチャイズ**）ノ問題ナリ。公共事業ハ公共的性質上又土地道路橋梁等ノ使用ノ關係上市

政機關ト特許契約ヲ結ビ來レリ。今ヤ上海ノ市政機關ハ概ネ我ガ指導下ニ入リ之ガ財政援護ノ立場ヨリスルモ特許料ノ納付ハ必要タルベク、又特許契約ノ締結ヲ通ジテ其ノ合法性モ增大スベシ。

最後ニ不動產ニ關シテハ別ニ措置ヲ起案シタレバ參照セラレンコトヲ希望シ、文化施設其他ハ別途施策ノ要アル事ヲ附言ス。

〔參考資料〕

新敵產ニ關スル諸資料

目次

一、陸海軍最高指揮官布告(三月二十日)
二、軍管理企業監督規定(案)
三、軍直接管理工場ノ民間委託
四、委任軍管理工場事業場處理區分表
五、委任軍管理工場事業場處理區分表(第二次之部)
六、委任軍管理工場事業場處理區分表第(三次之部)
七、委任軍管理工場事業場處理區分表(第四次之部)
八、碼頭及倉庫
九、銀　行
十、保險會社
十一、敵產事務所用建物管理規定

一、陸海軍最高指揮官布告(三月二十日)

布告

在中支(武漢地區ヲ除ク)敵性企業中大東亞戰爭目的完遂ノタメソノ經營ヲ敵國人ニ委スヲ不適當ト認ムルモノハ昭和十六年十二月八日以降軍管理トシ左記ニヨリ上海方面大日本帝國陸海軍各最高指揮官コレヲ管理ス。

一、軍管理企業ハ軍事上ノ要度ニ應ジ陸海軍部隊直接コレヲ管理シマタハ陸海軍各最高指揮官ノ指定スル者ニソノ經營ヲ委託シ若ハ管理人管理官等ヲ設置シテ管理ノ責ニ任ゼシム。

二、軍管理企業中陸海軍部隊直接管理ニ屬スルモノ以外ノ管理事務ハ興亞院華中連絡部長官ヲシテコレヲ擔任セシム。

三、軍管理企業ノ原所有權者マタハ原經營權者ガ軍管理繼續中該企業ニ關シテ爲シタル法律行爲ハ特ニ陸海軍各最高指揮官ノ承認スルモノヲ除クノホカ凡テソノ效力ヲ認メズ。

四、軍管理企業ニ關シ債權債務ソノ他財產上ノ利害關係ヲ有スル者ハ昭和十七年四月三十日迄ニ受託者マタハ管理人等ニコレヲ通知スベシ。

五、軍管理企業ニ關シ昭和十六年十二月七日以前ニ成立セル債權債務ハ左記ニヨリ我方ニオイテ行使シマタハ履行、但我方ノ責ニ歸スベカラザル事由ニヨリ行使マハタ履行シ得ザルモノハコノ限リニアラズ。

イ、債權ハ受託者マタハ管理人ニオイテコレヲ行使ス。

ロ、債務ハ昭和十六年十二月八日現在ニオケル當該企業資產ノ範圍ニシテ、カツ爾後ノ經營ニ支障ナキ限度ニオイテ受託者マタハ管理人ニオイテコレヲ履行ス。

六、軍事上ソノ他特ニ必要アル場合ハ既ニ指定シタル軍管理ノ方法ヲ變更シマタハ軍管理企業財產ノ賣却ソノ他必要ナル處分ヲ命ズルコトアルベシ。

七、軍管理トスベキ企業ハ陸海軍各最高指揮官コレヲ指定ス。

八、昭和十六年十二月八日現在ニオイテ敵國籍タル企業マタハ敵國若ハ敵國人ヨリ投資ヲ受ケアル企業若ハ人的關係ニオイテ敵國人ニ支配セラルル企業ハ既ニ軍管理ノ宣告ヲ受ケアルモノヲ除キ昭和十七年四月二十日迄ニ興亞院華中連絡部長官ニ屆出ヅベシ。

昭和十七年三月二十日　　上海方面大日本帝國陸海軍各最高指揮官

二、軍管理企業監督規程案

(四月二十日、興亞院華中連絡部發表)

第一條　興亞院華中連絡部長官(以下長官ト稱ス)ノ行フ軍管理企業ノ監督ハ特ニ指示スルモノヲ除クノ外本規定ニ依ルモノトス。

第二條　本規定ニ於テ軍管理企業ト稱スルハ敵性企業中軍事上ノ必要ニ基キ軍ニ於テ直接管理若ハ經營シ又ハ第三者ヲシテ管理若ハ經營セシメ或ハ監理官又ハ管理人ヲ選任スル等軍ノ特別ナル處分ヲ爲シタル鑛山、工場、事業場、商社、碼頭、倉庫等ノ事業其他事業又ハ營業ノ目的ニ供セラルル土地建物、工作物等ニシテ長官ニ管

理事務ヲ委任セラレタルモノヲ謂フ。

第三條　規定ニ於テ經營者トハ委託經營企業ノ受託者、監理官若ハ管理人トシテ特ニ選任セラレタル者ヲ謂ヒ原經營者トハ被管理企業ノ軍管理開始直前ニ於ケル用益權利者又ハ其ノ代理人ヲ謂フ。

第四條　受託者トハ軍管理企業ノ經營ヲ委託セラレタル者ヲ謂フ。

第五條　監理官又ハ管理人トハ監理官又ハ管理人トシテ特ニ選任セラレタル者ヲ謂フ。

第六條　受託者ハ本規定ノ定ムル所ニ據リ自己ノ計算ニ於テ軍管理企業ノ管理經營ニ任ズルモノトス。

第七條　管理人ハ本規定ニ定ムル所ニ據リ軍管理企業自體ノ計算ニ於テ軍管理企業ノ管理經營ニ任ズルモノトス。

第八條　監理官ハ本規定ニ定ムル所ニ據リ軍管理企業ノ經營監督ニ任ズルモノトス。

第九條　經營者ハ委託又ハ管理命令ノ趣旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其ノ職務ヲ執行スルヲ要ス。

第十條　軍管理企業ノ原所有者又ハ原經營者ガ軍管理繼續中當該企業ニ對シテ爲シタル法律行爲ハ特ニ指示又ハ承認スルモノノ外其ノ効力ヲ認メズ。

第十一條　受託企業ト受託者固有ノ企業トハ其ノ經營ヲ各獨立シ行フベシ、同一人ニシテ數個ノ軍管理企業ヲ受託シタル場合ノ各各企業ノ經營ニ付亦同ジ。

第十二條　軍管理企業ト受託者又ハ管理人ノ固有企業トノ間ニ重要ナル計算關係者ハ取引關係ヲ爲サントスル場合ハ豫メ長官ノ認可ヲ受クベシ。

第十三條　軍管理企業中軍事上特ニ必要アル企業ニ對シテハ陸海軍各高指揮官必要事項ヲ命令シ又ハ陸海軍ヨリ別ニ監督官ヲ派遣セラルルコトアルベシ。

第十四條　軍管理企業ハ軍需ニ對シ他ニ優先シテ履行ヲ爲スコトヲ要シ且其ノ價格ハ軍ノ指示スル所ニ據ルベシ。

第十五條　經營者ハ管理ヲ命ゼラレタル日ヨリ一ケ月以內ニ事業又ハ營業ヲ開始スルヲ要ス止ムヲ得ザル事由ノ爲前記期間內ニ開始シ得ザルトキハ理由ヲ具シ長官ノ許可ヲ受クベシ。

第十六條　事業年度ハ每年四月及十月ニ始リ九月及三月ニ終ルモノトス。

第十七條　軍管理ノ開始ハ昭和十六年十二月八日トス。

第十八條　經營者ハ軍管理經營ヲ命ゼラレタル日ヨリ一ケ月以內ニ管理企業ニ屬スル左ノ二通ヲ長官ニ提出スベシ。

一、定款

二、國籍及所有權又ハ經營權ヲ證明スベキ書類寫

三、株主名簿及代表者ノ氏名國籍

四、國籍別從業員數

五、日華人以外ノ從業員ノ國籍氏名及地位並其ノ報酬、手當其ノ他ノ給與額

六、敷地建物配置圖竝ニ管理ヲ命ゼラレタル日ヨリ二週間以內ニ撮影セル敷地、建物及機械設備等ノ寫眞

第十九條　管理開始前ノ許算ハ管理開始前日ヲ以テ計算シ左ノ書類ト共ニ管理ヲ命ゼラレタル日ヨリ二ケ月以内ニ長官ニ報告スベシ。

一、財産目錄

二、貸借對照表

三、債權債務調書

四、物件目錄(樣式第一)

前項ノ財産目錄及貸借對照表ハ決算當日ニ於ケル帳簿價格ニ依ルモノトス。

第一項ノ書類ハ各四通ヲ調製シ原經營者ヲシテ確認セシメタル上各一通ヲ經營者及原經營者ニ於テ保管シ他ノ二通ヲ長官ニ提出スルモノトス。

第二十條　管理開始前ノ債權債務ハ受託者又ハ管理人ニ於テ原經營者ニ代リ之ヲ行使又ハ履行スベシ、但シ受託者又ハ管理人ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ依リ行使又ハ履行シ得ザルモノハ此ノ限ニアラズ。

前項ノ債務ハ昭和十六年十二月七日現在ノ管理資産ノ範圍内ニシテ且爾後ノ經營ニ支障ナキ限度ニ於テ之ヲ履行スルモノトス。

第二十一條　管理開始後ノ計算ハ樣式第二、第三ニ依リ獨立ニ之ヲ行スベシ。

第二十二條　經營者ハ經營上通常必要トスルモノノ外左ノ帳簿ヲ整備スルヲ要ス。

一、管理資産原簿

二、管理開始前ノ債權債務整理簿

三、免責勸定原簿

第二十三條　管理開始後ノ利益金ハ別途ヲ積立ツベシ、其ノ處分ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム。

第二十四條　特ニ命ズル場合ノ外軍管理企業ヲ對象トスル左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ。

一、合併又ハ解散

二、他ノ事業ニ對スル現物出資

三、事業又ハ營業ノ讓渡、賃貸若ハ經營ノ委託

四、其ノ他經營上通常必要トスル以外ノ財産權ノ處分

第二十五條　經營者ハ左ノ規定ヲ制定シ長官ノ許可ヲ受クベシ、之ヲ改廢セントスルトキ亦同ジ。

一、職制

二、職員ノ給與ニ關スル規定

三、公共事業ニアリテハ營業ニ關スル規定

第二十六條　經營者ハ左ノ書類ヲ作製シ每事業年度開始二ケ月前迄ニ長官ニ提出スベシ。

一、事業計畫

二、事業費豫算

三、營業收支豫算

四、資金計畫
五、資材計畫
六、生産計畫
七、配給計畫

第二十七條　軍管理企業ニ關スル左ノ事項ハ豫メ長官ノ認可ヲ受クベシ。

一、資本ノ投下又ハ回收
二、增資又ハ減資若ハ重要ナル資本構成ノ變更
三、役員ノ選任又ハ解任並役員ノ報酬手當、退職慰勞金等ノ決定又ハ變更
四、支配人、工場長、會計主任其ノ他之ニ準ズル重要職員並ニ日滿華人以外ノ職員ノ任免竝ニ報酬手當又ハ退職慰勞金ノ決定若ハ變更
五、株金ノ徵收、社債ノ發行又ハ重要ナル資金ノ借入
六、重要ナル契約ノ締結
七、重要ナル營業料金若ハ販賣價格ノ決定又ハ變更
八、操業度ノ變更又ハ二週間以上ニ及ブ操業ノ休止
九、管理開始前ノ重要ナル債務辨濟
十、決算並ニ利益金處分

十一、企業設備ノ變更又ハ轉用
十二、事業目的ノ變更
十三、抵當權又ハ質權ノ設定

第二十八條　受託者又ハ管理人ノ固有企業ニ關シ左ノ行爲アリタルトキハ速ニ長官ニ報告スベシ。

一、重要ナル定款ノ變更
二、增資又ハ減資若ハ重要ナル資本構成ノ變更
三、合併又ハ解散ノ決議
四、役員ノ選任又ハ解任
五、事業目的ノ變更
六、營業ノ讓渡又ハ經營ノ委託

第二十九條　經營者ハ每三ケ月末日ニ於ケル試算表ヲ作製シ其ノ期ノ事業支出、營業收支狀況及事業概況（樣式第四）ト共ニ翌月二十日迄ニ各三通ヲ長官ニ提出スベシ。

第三十條　左ノ事項ニ就テハ遲滯ナク長官ニ報告スベシ。

一、軍管理企業ニ關スル訴訟事件
二、經營者又ハ軍管理企業ニ關スル重大ナル事故
三、其ノ他特ニ重要ナル事項

三、軍直接管理十五工場ノ民間委託（三月三十日）

（軍管理工場名）	（受託者）
△上海方面陸海軍最高指揮官ヨリ委託	
愼昌洋行楊樹浦工場	東京芝浦電氣株式會社
美國永備公司	松下電氣株式會社
△上海方面陸軍最高指揮官ヨリ委託	
上海ドツク公司董家渡ドツク	株式會社玉造船所
黃浦機器造船所	同
モーラー造船所	同
オートバレス公司	華中豐田自動車工業株式會社
泰來汽車公司	同
沙利文糖菓公司	東洋製菓株式會社
平和洋行酒精工場	東亞釀造株式會社
華昌玻璃有限公司	中華實業株式會社
上海啤酒有限公司	大日本麥酒株式會社
上海機器製氷廠有限公司	日本水産株式會社
上海皮廠	株式會社華中製革公司
華懋工業製造廠	松華洋行
ビルスモーター公司	日産自動車株式會社

四、委任軍管理工場事業場處理區分表

（三月二十八日、興亞院華中連絡部發表）

指令番號	業種	使用目的	事業名	國籍	所在地	管理形態	管理人又ハ經營者
（一）	電話		上海電話會社	米	江西路	別ニ定ム	華中電氣通信股份有限公司
（二）	電話機器製造、修理	電話機器ノ修理、製造	中國電氣會社	同	ウエスト內	同	同
（三）	電氣		上海電力會社	同	南京路	委託經營	華中水電股份有限公司
（四）	同		滬西電力會社	同	同	同	同
（五）	水道		上海水道會社	英	江西路	同	同

(六)	ガス	上海ガス會社	英	虞洽卿路	委託經營	大上海ガス股份有限公司
(七)	電車	上海電車會社	同	北蘇州路	同	華中都市汽車股份有限公司
(八)	バス	中國公共汽車公司	米	コンノト路	管理人設置	同
(九)	鐵工業	機械製造	英	楊樹浦	委託經營	大陸鐵廠
(一〇)	同	代用燃料裝置	米	大西路	同	日本機械製作所
(一一)	電氣器具	電氣機器	英	河間路	委託經營	株式會社新華電氣工廠
(一二)	同	電球	米	勞勃生路	同	東京芝浦電氣株式會社
(一三)	自動車工業	自動車修理	同	佛租界	同	日產自動車株式會社
(一四)	同	同	同	大西路	同	華中豐田自動車工業株式會社
(一五)	同	同	同	佛租界	同	株式會社揚子公司
(一六)	製紙	製紙	同	楊樹浦海州路	管理人設置	王子製紙株式會社
(一七)	煙草	煙草製品販賣	英	九江路	同	株式會社丸三商工公司
(一八)	葉煙草	再乾燥	米	榆林路	管理人設置	中支葉煙草株式會社
(一九)	燐寸	マッチ	同	滬西白利南路	同	中支那振興株式會社
(二〇)	製材	製材	英	光復路	同	三井物產株式會社
(二一)	同	同	同	楊樹浦	同	同
(二二)	レコード蓄音器製作	レコード蓄音器製作	同	徐家匯路	同	日本ビクター蓄音器株式會社
(二三)	石鹸	石鹸	同	楊樹浦	委託經營	日本油脂身式會社
(二四)	石鹸	石鹸	米	小沙渡路	管理人設置	同
(二五)	油脂	ローソク	英	勞勃生路	委託經營	同
(二六)	製藥	製藥	米	安和寺路	管理人設置	同
(二七)	工業藥品	硫酸	英	小沙渡路	同	鐘ヶ淵紡績株式會社
(二八)	藥品	藥品	同	楊樹浦	同	東京芝浦電氣株式會社
(二九)	塗料	塗料	同	同	委託經營	大日本塗料株式會社
(三〇)	印刷インク	印刷インク	同	同	同	上海合同インク製造株式會社
(三一)	藥品	製藥	米	檳榔路	管理人設置	日本油脂株式會社

(三二)	被服洗濯	被服洗濯	カセイランドリー	英	平涼路	委託經營
(三三)	暗室寫眞機	暗室寫眞機	英美印花公司	英	華德路	管理人設置
(三四)	礦石	礦石分析	上海化檢室	同	南京路	委託經營
(三五)	麥酒	ビール	怡和啤酒有限公司(EWO)	同	宜昌路	同
(三六)	冷凍	冷凍製氷	培林洋行	同	楊樹浦	同
(三七)	同	同	怡和冷氣堆棧	同	同	同
(三八)	同	同	漢中有限公司	同	同	同
(三九)	同	同	英國製蛋公司	同	培開爾路	管理人設置
(四〇)	同	同	班達公司	同	楊樹浦	委託經營
(四一)	飲料水	飲料水	正廣和有限公司	同	同	管理人設置
(四二)	油脂	人造バターヂエブル物產公司	株式會社中國食油公司	同	同	同
(四三)	製菓	製菓	海寧洋行	米	沙涇港路	同
(四四)	紡績	當分閉鎖	怡和紗廠	英	楊樹浦	同
(四五)	同	當分閉鎖	怡和楊樹浦紗廠	英	威妥碼路	同
(四六)	同	同	怡和公益紗廠	同	勞勃生路	同
(四七)	紡績	當分閉鎖	綸昌紡織漂染印花有限公司	英	浦東	管理人設置
(四八)	同	同	德豐紡織公司	同	康腦脫路	同
(四九)	同	同	保豐紡織公司	米	延平路	同
(五〇)	同	同	合豐企業公司	同	康腦脫路	同
(五一)	同	同	安達紡織有限公司	英	靜安寺路	同
(五二)	同	同	永安紡織股份有最公司第三廠	米	麥根路	同
(五三)	毛絨	同	密豐絨線廠	英	楊樹浦	同
(五四)	同	同	上海毛絨紡織股份有限公司	同	楊樹浦	同
(五五)	同	同	英國羊毛產業公司(ブリチュシュウールインダストリ)	同	ウエトモア路	同
(五六)	同	同	ニコロス毛絨廠(ニコロスラングフアクトリー)	米	華德路	同
(五七)	ブレス	棉花ブレス	隆茂洋行	英	蒲東	委託經營
(五八)	同	同	怡和洋行ブレス工場	同	北蘇州路	同
(五九)	カタン糸	上カタン系仕	棉華線廠	同	楊樹浦	同

(六〇)	印刷	印刷	永寧公司	米	澳門路	管理人設置 華中印書局股份有限公司
有線電信			商太電信會社	米	エドワード路	別ニ定ム
同			大東電信會社	英	同	
同			大北電信會社	同	同	
煙草	煙草	英米トラスト		同	華德路韜朋路榆林浦東瀾泥渡路	別ニ定ム

(註)左記七工場ハ五月二十三日軍管理ヲ解除シ正常權利者タル華人ニ返還セラレタリ。

△解除工場(新軍管理工場)

(七)申新第二廠(紡績)
所在地　上海宜昌路
正常權利者　榮爾仁、童侶青

(八)申新第九廠(紡績)
所在地　上海澳門路
正常權利者　吳昆生、榮鴻三

(九)永安第三廠(紡績)
所在地　上海泰根路
正常權利者　郭順、郭棟活

(一〇)保豐紗廠(紡績)
所在地　上海延平路
正常權利者　唐星海、范谷泉

(一一)安達紗廠(紡績)
所在地　上海靜安寺路
正常權利者　劉明基、郭建英

(一二)德豐紗廠(紡績)
所在地　上海康腦脫路
正常權利者　謝範文、龔藤凡

(一三)合豐企業公司(紡績)
所在地　上海康腦脫路
正常權利者　榮一心、唐熊源

五、委任軍管理工場事業場處理區分表(第二次之部)

(五月二十八日、興亞院華中連絡部發表)

業種	使用目的	事業名	國籍	所在地	管理形態	經營者	管理區分	摘要
製鐵業	當分閉鎖	中華製鐵廠	英	華盛路三三〇號	管理人設置	日亞鋼業株式會社	興亞院	閉鎖管理
鐵工場	醫療機械工業	ホープ・クリプタル工場	同	韜朋路五九四號	同	上海醫療機械製作所	同	

第四款　企業

電球販賣業	中和燈泡公司	米	ロビンソン路一四〇號	管理人設置	東京芝浦電氣株式會社	興亞院
造機業	米商恒豐機器廠	同	浦東	同	三井造船株式會社	同
同	同	同	同	同	三菱重工業株式會社	同
投資	モーラー投資會社及仔會社	英	香上銀行ビル	同	三井造船株式會社	同
帽體	帽體	米	東百匯路一〇六〇弄四〇〇號	同	上海堀拔製帽廠	同
水道機器製造	水道具及其他ノ機器製造	英	揚州路四六四號	委託經營	上海機械工業廠	同
ピアノ製造	家屋使用	同	バイカル路九二七號	管理人設置	上海精密機械工藝社	同
製罐業	閉鎖	同	華德路六九一號	同	上海鐵工業組合	同
琺瑯鐵器製造	同	同	華德路二三五號	同	同	同
電器販賣業	清算	同	四川路四九	同	株式會社新華電器工廠	同
製材	當分閉鎖	米	湯恩路一一七號	同	三井物產株式會社	同
同	同	英	西光復路三號	同	同	同

染料詰替	當分閉鎖	恒信洋行	米	秦皇島路二四八號	管理人設置	維新化學工業株式會社
各種飲料水	飲料水	大美汽水公司	同	寧國路四一三弄五〇號	同	華中麥酒飲料水製造業者組合
食料油脂	バター	華昌公司	英	華德路二六六號	同	株式會社中國食油公司
牧場	乳牛牧場	可的牧場	同	霞飛路一五六七號	同	上海牛乳業組合
同	同	最高牧場	同	戈登路六四五號	同	同
同	同	模範牧場	同	地豐路八號	同	同
同	同	杏味牧場	同	開司會路四三〇號	同	同
製菓	製菓	義利洋行	同	愚園路一四八九號	同	明華產業株式會社
貿易・投資	安洋利行	バンド沙遜ビル	英	同	同	三菱商事株式會社
同	英國瑞記有限公司	四川路瑞記ビル	同	同	同	同
同	怡和洋行	同	同	同	同	三井物產株式會社

閉鎖管理	材料保有限度ニ操業	牛製品手持品ノミ製造セシム	近ク合同成立セル場合ハ上海乳業株式會社ヲシテ委託經營セシム	貿易ハ清算	同	同

製糸	怡和糸廠	英	四川路瑞記ビル	管理人設置	三井物産株式會社	興亞院	閉鎖管理		
航運	印度支那航業公司	同	同	同	同	同	清算		
機械	怡和機器有限公司	同	同	同	同	同	閉鎖管理		
貿易・投資・倉庫	卜内門洋碱洋行	同	四川路一三三號	同	同	同	中支那軍票交換用物資配給組合工業品部		
同	茂泰有限公司	同	漢口路一二五號	同	同	同	上海三菱倉庫株式會社		
倉庫	瑞豐運轉公司	米	圓明園路五三號	同	昇隆倉庫株式會社	同	同		
同	美泰貿易公司	同	圓明園路一四九號	同	上海倉庫信託株式會社	同	貿易ハ清算		
同	美勝實業公司	同	廣東路五一號	同	昇隆倉庫株式會社	同			
同	平治明公司	英	江西路二五九號	同	上海倉庫信託株式會社	同			
煙草倉庫	享茂洋行	同	江西路一二〇號	同	中華煙草株式會社	同	葉煙草倉庫		
同	美迪洋行	米	天主堂街二九號	同		同	同		
貿易海運	太古洋行	英	佛租界外灘二一三	同	東亞海運株式會社	同	清算		
映畫配給	コロンビヤ映畫會社	米	北蘇州路三四〇號	同	中華電影股份有限公司	同	會計監督官派遣無シ		
映畫配給	清算	同	同	同	同	同	清算	同	同
同	メトロ・ゴールドウイン・メイヤー會社	米	北蘇州路河濱大厦一三八—一四一號	管理人設置	中華電影股份有限公司	清算	會計監督官派遣無シ		
同	パラマウント映畫會社	同	博物院路一四二號三五號房子	同	同	同	同		
同	R・K・Oラジオ映畫會社	同	北蘇州路四〇四號	同	同	同	同		
同	二十世紀フオックス映畫會社	同	博物院路一四二號二五號房子	同	同	同	同		
同	ユナイテッド・アーチスト映畫會社	同	北蘇州路河濱大厦三五二號	同	同	同	同		
同	ユニヴアーサル映畫會社	同	北蘇州路河濱大厦一三六號	同	同	同	同		
同	ウオナー・ブラザース映畫會社	同	博物院路一四二號三六—三七號房	同	同	同	同		
映畫上映	亞州影院公司	同	麥邊路七二號	同	同	同	同		
同	遠東戲院公司	同	靜安寺路七四二號	同	同	同	同		
同	國光公司	同	江西路二六三號	同	同	同	同		
同	聯怡公司	同	愛多亞路五二三號	同	同	同	同		
映畫材料販賣	清算	同	圓明園路一八五號	同	同	同	同		

不動產信託及經營	英法產業公司	英	黃浦路一號	管理人設置	上海恒產股分有限公司	清算	會計監督官派遣無シ
同	安泰地產有限公司	同	同	同	同	同	同
同	祥茂洋行	同	同	同	同	同	同
同	業廣地產公司	同	仁記路一〇〇號	同	同	同	同
不動產經營	宏業地產公司	同	北京路一五九號	同	同	同	同
不動產信託及經營	普益地產公司	米	四川路一一〇號	米	同	同	同
不動產經營	哈同洋行	英	南京路二二一號	英	同	同	同
不動產信託及經營	昌業地產公司	同	蘇州路一七五號	同	同	同	同
同	中和產業有限公司	同	黃浦路サツスンハウス	同	同	同	同
同	遠東營業有限公司	同	同	同	同	同	同
同	愛爾德有限公司	同	同	同	同	同	同
同	上海地產有限公司	同	同	同	同	同	同
同	華懋洋行	同	同	同	同	同	同
同	漢彌登信託有限公司	同	同	同	同	同	同

不動產信託及經營	東方地產有限公司	英	黃浦路サツスンハウス	管理人設置	上海恒產股份有限公司	清算	會計監督官派遣無シ
同	國際投資有限公司	同	同	同	同	同	同
同	香港地產投資代理有限公司	同	同	同	同	同	同
同	三新地產有限公司	同	同	同	同	同	同
同	上海地產有限公司	同	同	同	同	同	同
同	通用地產有限公司	同	同	同	同	同	同
同	恒業地產公司	同	黃浦灘路一七號	同	同	同	同
同	中國營業公司	同	四川路二九〇號	同	同	同	同
同	益豐洋行	米	北京路八三號	同	同	同	同
同	義品放款公司	白	四川路三四六號	同	同	同	同
同	老沙遜洋行	英	四川路四九號	同	同	同	同
同	上海地產公司	米	黃浦路サツスンハウス	同	同	同	同
不動產經營	何世儉地產房屋經理處	英	九江路一五〇エスラビル五一八	同	同	同	同
競馬場經營	上海競馬倶樂部	同	靜安寺路三〇五號	同	同	同	同

クラブ經營	シロスクラブ	英	靜安寺路四四四號	管理人設置	上海恒產股份有限公司	清算	同
不動產信託	通和有限公司	同	北京路一〇〇號	同	中支那振興株式會社	同	同
同	泰利有限公司	同	江西路三九一號	同	同	同	同
同	高易公司	同	四川路四九號	同	同	同	同
同	德和洋行	同	九江路二〇號	同	同	同	同
同	魯義士洋行	白	九江路一一三大樓三一〇號	同	同	同	同
同	馬海洋行	英	北京路三九號	同	同	同	同
同	公和洋行	同	廣東路一七號	同	同	同	同
同	樊克令怡靈教教師	米	圓明園路一四九號	同	同	同	同
同	佑尼千律師公館	同	同	同	同	同	同
同	輪奐地產公司	英	福州路八九號	同	同	同	同
同	公平洋行	同	仁記路八一號	同	同	同	同
同	沙米洋行	同	圓明園路一四九號	同	同	同	同
同	滋中銀公司	米	九江路二〇號	同	同	同	同
同	義生地產公司	英	江西路二七八號	同	同	同	同
不動產信託	新康公司	英	九江路一五〇號	管理人設置	中支那振興株式會社	清算	同
自動車組立	中國汽車公司	米	靜安寺路七〇二號	委託經營	日本自動車株式會社	興亞院	
ホテル經營	キヤセイ・ホテル	英	黃浦灘路サツスンハウス	管理人設置	京都ホテル	同	(支配人大塚常吉)
同	同	同	江西路	同	華中鐵道股份有限公司	同	(支配人松崎紫朗)
同	同	同	メルシエル路	同	東亞海運株式會社	同	
同	同	同	南京路二三號	同	金谷ホテル	同	(支配人金谷正生)
研究所	醫藥研究	同	愛文義路	委託經營	同仁會華中衛生研究所	同	

六、委任軍管理工場事業場處理區分表(第三次之部)

(九月四日、興亞院華中連絡部發表)

業種	使用目的	事業名	國籍	所在地	管理形態	經營者	管理區分	摘要
醫療保護事業	診療	妓樓醫院	米	南京妓樓外一號	委託經營	同仁會華中支部長	興亞院	處理濟ミ

醫療保護事業	診療	仁濟醫院	英	上海山東路六號	同	同仁會華中支部長	興亞院
同	同	基督醫院	米	鎮江新馬路十三號	同	同	同
同	同	福音醫院	米	蘇州、齊門外洋經塘岸周家衡四號	同	同	現在閉鎖
同	同	普仁醫院	米	無錫域內中區二下塘	同	同	同
同	同	同仁醫院	同	上海、九江路二一九號及白利南路三七號	管理人設置	同	同
同	同	廣仁醫院	同	上海愛文義路四一號	同	同	同
同	同	上海西門婦孺醫院	同	上海、徐家匯路八五〇號	同	同	同
同	同	尚賢堂婦孺醫院	同	上海佛租界杜義路一一號及薩坡賽路一一一號	同	同	同
同	同	上海療養衛生院	米	上海羅別根路一五〇號及靶子路一七一號	同	同	同
同	同	恩杜堂施診所	同	蘇州養育巷一九四號	同	同	同
同	同	更生醫院	同	蘇州、閶門外大馬路錢萬里橋四〇一號	同	同	同
同	同	基督醫院	同	南通、西門內端平橋河五七號	同	同	同
醫療保護事業	診療	廣濟痲瘋醫院		杭州市外、松木場、寶石山	管理人設置	同仁會華中支部長	興亞院
同	同	民望醫院	米	懷遠、西門岡			
貿易並ニ機械修理	エレベーター修理	オチス、エレベーターコンパニーリミテツト	米	愛文義路九三五	同	東洋オチスエレベーター	同
百貨店	百貨店	上海惠羅公司	英	南京路九七	同	中支那物資通濟所組合	同
同	同	福利公司	英	靜安寺路一九〇及南京路	同	同	靜安寺路ノ建物ハ陸軍ニテ使用
倉庫	倉庫	安愼洋行	米	廣東路二〇	同	中支米穀配給組合	同
地產、船舶五金、紙トラック運輸	閉鎖	ウイロックコンパニー（會德豐有限公司）	英	佛租バンド二號	同	上海恒產股份有限公司	同
航運木材業	同	ロバートダラーコンパニー	米	廣東路五一ロバートダラービルデング	同	東亞海運株式會社	同
地產	同	江蘇地產公司	米	同	同	同	同
航運	同	アメリカンプレシデントライン美國總統輪船公司	同	同	同	大阪商船株式會社	同
社會事業財團	地產經營	レスター財團	英	バンド一	同	中支那振興株式會社	同

體育場	體育	西華體育場	英	管理人設置	上海恒產股份有限公司	興亞院	運動場ハ優先的ニ邦人ニ使用セシムルモノトス清算
貿易		紡織機器總經理處					
同		歐亞建設公司	同	北京路二	同	三菱商事株式會社	同
劇場	劇場	蘭心（ライシャムシヤーター）	同	佛租順化路	同	同	同
映畫上映	映畫上映	平安大戲院（アツツブタワンシヤター）	米	共租界靜安寺路一一九三號	同	中華電映股份有限公司	同
航運	清算	ジヤバチヤイナナビイゲーションコンパニー	蘭	バンド	同	東亞海運株式會社	同
貿易	同	英商信昌機器工程有限公司	英	博物院路八八	同	華中羊毛工業組合	同
豚毛加工	同	鉅美猪鬃廠	同	白利南路三二	同	株式會社岩井洋行	同
洋酒輸入	同	源和洋行	同	北京路二一	同	東方製氷株式會社	同
投資	同	モラー投資株式會社	同	香上銀行ビル	同	三井物產株式會社	同
投資	清算	エビダ寢臺株式會社	英	香上銀行ビル	管理人設置	三井物產株式會社	興亞院
同	同	モラー不動產株式會社	同	同	同	同	同
貿易	同	萬泰公司	同	圓明園路三四	同	東京芝浦電氣株式會社	同

七、委任軍管理工場事業場處理區分表（第四次之部）

業種	使用目的	企業者國籍	所在地	管理形態	經營者	摘要
新聞	清算	ノースチヤイナデリーニユース	英	黃浦路一七號	管理人設置	大陸新報社
同	同	チヤイナプレス	米	愛多亞路一六〇號	同	同
週間雜誌	同	フアイナンスアンドコレマース	英	四川路三二〇號	同	同盟通信社
同	同	チヤイナウイークリーレビユー	米	愛多亞路一六〇號	同	同
通信社	同	アソシエイテツドプレス	同	愛多亞路三四號	同	同
同	同	ユナイテツドプレス	同	愛多亞路九號	同	同

通信社	清算	ルーター	英	愛多亞路三四號	管理人設置	同盟通信社	
同	同	インターナショナルニュースサービス	米	江西路ハミルトンハウス三六二	同	同	
醫療保護事業	閉鎖	上海西門婦孺醫院	同	南市方斜路四二一號	同	同仁會華中支部	將來同仁會ニ於テ醫科大學ヲ開設スル場合ハ之ニ貸下グルモノトス
貿易	清算	バブコックウイルコックスコンパニー	英	黃浦路一號	同	三井物產株式會社	
倉庫	倉庫	アメリカンインダストリヤルコーポレーション	米	廣東路五號	同	昇隆倉庫株式會社	
倉庫	倉庫	美勝堆棧公司	同	廣東路五一號	同	同	
豚毛加工	清算	アジアコンパニー	瑞	白利南路二二號	同	岩井洋行	
地產	地產	台惟地產公司	英	江西路三二〇號	同	上海恒產股份有限公司	
家具製作	家具製作	美藝公司	同	靜安寺路八八七號	同	中支那物資通濟所組合	
家具倉庫	家具倉庫	上海清潔保管公司	同	膠州路三三三九號	同	同	
アルミニユウム延壓	アルミニユウム延壓	華鋁鋼精廠	瑞	眉州路六一〇號	同	住友アルミニウム株式會社	
工業學校	閉鎖	レスター工業學校	英	東熙華德路五〇五號	管理人設置	東亞同文會上海支部	將來東亞同文會上海支部ニ於テ東亞工業學院ヲ開設スル場合ハ之ニ貸下グルモノトス、尙上海居留民團ニ於テ夜間工業學校ヲ開設スル場合ハ施設ヲ利用セシムルモノトス

八、碼頭及倉庫

右ハ海軍港務部長管理ノ下ニ運營ハ民間委託ニテ、其ノ會計監督ハ興亞院華中連絡部ニ委託シタモノカ(?)

名稱	(舊名)	國籍	委託先
華順碼頭	(公和祥順順碼頭)	英	東亞海運
鴻升碼頭	(怡和瀾泥渡堆棧)	同	山下鑛業
亞興碼頭	(太古浦東堆棧)	同	上海倉庫信託
江東碼頭	(隆茂棧)	同	三菱倉庫
大和東碼頭	(公和祥浦東碼頭「イスート」)	同	日本郵船
大和西碼頭	(公和祥浦東碼頭「ウエスト」)	同	日本郵船

開灤浦東碼頭	(開灤鑛務局煤棧)	英	三菱商事
八州碼頭	(老太古碼頭)	同	大阪商船
華通碼頭	(太古華通碼頭)	同	東亞海運
羅斯福碼頭	(海軍管理ノモノノミ)	米	三菱倉庫
老沙遞碼頭		英	上海倉庫信託

九、銀行

陸海軍最高指揮官ヨリ一月八日付ヲ以テ軍措置トシテ爾今營業ヲ停止シ清算セシムル旨發表、清算ノ管理事務ハ左ノ如ク依囑セラル。

被管理銀行	支配人	管理銀行	支配人
ホンコン・エンド・シヤンハイ・バンキング・コーポレーション(英)	ヘンチマン	横濱正金銀行	岸浪義質
サツスーン・バンキングコーポレーション(英)	ミーガー	同	同
トーマスクツク・エンドサン(英)	グリーン	同	同
アメリカン・エキスプレス・コンパニー(米)	リツグス	同	同
アメリカン・オリエンタル・バンキング・コーポレーション(米)	セレツト	同	同
ファイナンスバンキング・コーポレーション(英)	ターナー	横濱正金銀行	岸浪義質
チヤイナ・ファイナンスコーポレーション(米)	ペーカー	同	同
バンク・ベルジユ・ブール・レトランジエ(白)	ストラートマンス	同	同
チヤータード銀行(英)	ホプキンス	三井銀行	神戸豪太郎
紐育ナシヨナル・シチイー銀行(米)	マツカイ	三菱銀行	小山內信
チエース銀行(米)	シユーマツカー	住友銀行	川口憲一
和蘭銀行(蘭)	シヤープ	臺灣銀行	岡本彌市
蘭印商業銀行(蘭)	リーム	同	同
アンダーライタース銀行(米)	ヘール	同	同
マーカンタイル銀行(英)	ハツクスター	朝鮮銀行	大草志一

十、保險會社

陸海軍最高司令官ヨリ四月十三日付ヲ以テ軍措置トシテ敵國系保險會社清算ヲ發表シ、清算事務ヲ左ノ如ク日本系關係會社ニ委囑セラル。

一、損害保險會社ノ部

番號	敵性保險會社名	本邦保險會社名
(一)	コンマーシヤル・ユニオン保險會社(英)	東京海上火災保險株式會社
	オーシヤン・アクシデント・ギヤランテイ保險會社(英)	同
	パラタイン保險會社(英)	同
	ユニオン・アシユアランス・ソサエテイ保險會社(英)	同
	ウエスト・オブ・スコツトランド保險會社(英)	同
	コロンビア・コオシユアリテイ保險會社(米)	同
(二)	ブリテイツシユ・トレイダース保險會社(英)	同
	ガーデイアン保險會社(英)	同
	ロー・ユニオン・アンド・ロツク保險會社(英)	同
	オリエント保險會社(英)	同
	ロンドン・アンド・ランカシア保險會社(英)	同
	ローヤル・エキスチエンジ保險會社(英)	同
	シー・保險會社(英)	同
	ブリテツシユ・アンド・フオーリン・マリン保險會社(英)	同
	スタンダード・マリン保險會社(英)	同
	モーター・ユニオン保險會社(英)	東京海上火災保險株式會社
	ブリテツシユ・アビエイシヨン保險會社(英)	同
	大古洋行(英)	同
(三)	リバープール・アンド・ロンドン・アンドグローブ保險會社(英)	同
	ローヤル保險會社(英)	同
	セントラル保險會社(英)	同
	ジヤツクール保險會社(英)	同
(四)	エンプロイヤース・ライアビリテイ保險會社(英)	同
	新沙遞(英)	同
(五)	ノース・ブリテイツシユ・マーカンタイル保險會社(英)	日産火災海上保險式株式會社
	レールウエイ・パツセンジヤーズ保險會社(英)	同
	ファインアード・アンド・ジエネラル保險會社(英)	同
	オーシヤン・マリン保險會社(英)	同
	ワールド・マリン・アンドジエネラル保險會社(英)	同
(六)	コールダー・マーシヤル會社(英)	同
	ノーザン保險會社(英)	同

	グレシヤム・フアイアー・アンド・アクシデント保險會社(英)	日産火災海上保險株式會社
	ユナイテツド・ブリテイツシユ・フアイアー保險會社(英)	同
(七)	チヤイナ・セキユリテイス會社(米)	同
	ナシヨナル・ユニオン・フアイヤー・保險會社(米)	同
(八)	ジエネラル・アクシデント・フアイヤー・アンド・ライフ保險會社(英)	同
(九)	フエニツクス保險會社(英)	帝國海上火災保險株式會社
	ユニオン・マリン・アンド・ジエネラル保險會社(英)	同
	ロンドン・ギヤランテイ・アンド・アクシデント保險會社(英)	同
(一〇)	ナシヨナル・ユニオン保險會社(英)	同
	インシユアランス、オフイス、オズオーストラリア(英)	同
	ブルーデンシヤル保險會社(英)	同
	スタンダード・オブ・アムステルダム	同
	コンチネンタル保險會社(米)	同
	イーグル・スター・保險會社(英)	同
	博望保險公司(英)	同
(一一)	ワールド・オークジアリイ保險會社(英)	同
	サウス・ブリテイツシユ保險會社(英)	三菱商事株式會社
	イースタン・ユーナイテツド保險會社(英)	同
(一二)	カントン保險會社(英)	同
	老沙遜(英)	大北火災海上運送保險株式會社
(一三)	スコツテイシユ・ユニオン・アンド・ナシヨナル保險會社(英)	同
	マリタイーム保險會社(英)	神戸海上火災保險株式會社
(一四)	クキーン保險會社(英)	同
	ローヤル保險會社(英)	同
	リバプール・ロンドン・アンド・グローブ保險會社(英)	神戸海上火災保險會社
	セントラル・イシシユアランス保險會社(英)	同
(一五)	ノーウイツチ・ユニオン・フアイヤー保險會社(英)	同
	ヨークシア保險會社(英)	同
(一六)	モーター・ユニオン保險會社(英)	同
	アレツクス・ヘンダーソン會社(英)	株式會社昭和海運公司
(一七)	サン保險會社(英)	住友海上火災保險株式會社
(一八)	揚子保險會社(英)	

ノース・チヤイナ保險會社(英)	二九六	住友海上火災保險株式會社
ユニオン保險會社(英)	同	同
(一九)リパブール・ロンドン・アンド・グローブ保險會社(英)	同	同
ロンドン保險會社(英)	同	同
スコツト・ヤーデイグ會社(英)	同	同
(二〇)エセツクス・アンド・サフオーク・イクイタブル保險會社(英)	同	同
アトラス保險會社(英)	同	同
マンチエスター保險會社(英)	同	同
ステイト保險會社(英)	同	同
保定水火保險公司(英)	同	同
(二一)リーガル・アンド・ジエネラル保險會社(英)	同	同
ロンドン・アンド・プロビンシアル・マリン保險會社(英)	同	同
ロード・トランスポート・アンド・ジエネラル保險會社(英)	同	同
エセツクス・アンド・サフオース・エクイタブル保險會社(英)	同	同
保豐保險公司(英)	同	同
(二二)ホーム・フアイアー保險會社(米)	國際運輸株式會社	國際運輸株式會社
ハリフアツクスフアイアー保險會社(米)	同	
ハートフオード・フアイヤー保險會社(米)	同	
ホーム・インデムニテイ保險會社(米)	同	
ニユー・ハンプシア保險會社(米)	同	
フエニツクス保險會社(米)	同	
セント・ポール・フアイアー保險會社(米)	同	
スプリングフキールドフアイアー・アンドマリン保險會社(米)	同	
ユナイテツド・ステイツ・フアイヤー保險會社(米)	同	
ウエストチエスター・フアイヤー保險會社(米)	同	
アメリカン保險會社(米)	同	
コンチネンタル保險會社(米)	同	
フアイヤー・アソシエイション・オブ・ヒラデルヒヤ(米)	同	
フイヒデリテイ・フエニツクス・フアイヤー保險會社(米)	同	
グレン・フオールズ保險會社(米)	同	
グレイト・アメリカン保險會社(米)	同	
アメカンフオリン保險會社(米)	同	

(二三)フイラデルフイアアライアンス保險會社(米)　同
ジュネラル・アクンデント・フアイヤー・アンド・ライフ保險會社(米)　同
ヒル保險會社(米)　同
(二四)スピールマン保險會社(英)　同
(二五)アライアンス保險會社(英)　同
バンカース・アンド・トレイダース保險會社(英)　三井物産株式會社
イースターン保險會社(英)　同
ホンコン・フアイヤー保險會社(英)　同
リバプール・アンド・ロンドン・アンドグローブ保險會社(英)　同
ニュージランド保險會社(英)　同
クキーンスランド保險會社(英)　同
カントン保險會社(英)　同
トリトン保險會社(英)　同
アトラス保險會社(英)　同
ブリテツシュ・アンド・チヤイニーズ保險會社(英)　同
怡和洋行(英)　同

(二六)ハノーバー・フアイヤー保險會社(米)　三井物産株式會社
フアイヤーメンズ保險會社(米)　同
ミルウオーキー・イメアニツクス保險會社(米)　同
ナショナル・ユニオン・フアイヤー保險會社(米)　同
エコノミカル保險會社(米)　同
美亞保險公司(米)　同
(二七)ユクイタブル・フアイヤー保險會社(米)　同
リデル・ブラザース商會(米)　同
(二八)ブリテツシュ・アメリカ保險會社(英)　日本海上火災保險株式會社
イーグル・スター保險會社(英)　同
ウエスターン保險會社(英)　同
ホーランド保險會社(英)　同
マグデブルグ・フアイヤー保險會社(英)　同
ノルド・ドイツチュ保險會社(英)　同
センチュリイ保險會社(英)　同
イーグル保險會社(英)　同

第四款　企業　日本海上火災保險株式會社

ムフアイヤー・インシユアランス・カンパニイ・オブアムステルダム ザーランド保險會社(英)	日本海上火災保險株式會社
上海保險行(英)	同
(二九)ノース・アメリカ保險會社(米)	同
オートモービル保險會社(米)	同
インデムニテイ保險會社(米)	同
ヒラデルヒア・フアイヤー・アンド・マリン保險會社(米)	同
インデムニテイ保險會社(米)	同
ナショナル・セキユリテイ・フアイヤー保險會社(米)	同
セントラル・フアイヤー保險會社(米)	同
ワールド・オークジユリアリイ保險會社(英)	同
(三〇)ステイト保險會社(英)	同
スタンダード・マリン保險會社(英)	同
ローヤル・エキスチエンジ保險會社(英)	同
ブルーク商會(英)	同
(三一)オートモービル保險會社(米)	同
金康保險行(英)	同
(三二)インペリアル・フアイヤー保險會社(英)	日本海上火災保險株式會社
エドワードHズラ商會(英)	同
(三三)ナショナル・ユニオン保險會社(英)	同
チユーヤン保險會社(英)	同
(三四)エンプロイヤーズ・ライアビリテイ保險會社(英)	朝日海上火災保險株式會社
カレドニアン保險會社(英)	同
マーチヤント・マリン保險會社(英)	同
(三五)ロンドン・アンド・スコテイツシユ保險會社(英)	千代田火災保險株式會社
ホーランド・チヤイナトレデング會社(英)	同
(三六)モーター・ユニオン保險會社(英)	東洋火災保險株式會社
怡德洋行(英)	同
(三七)チヤイナ・フアイヤー保險會社(英)	東京火災保險株式會社
コーポレイション・オブ・ロイドス・ロンドン(英)	同
モーター・ユニオン保險會社(英)	同
仁記洋行(英)	同
(三八)チヤイナ・アンダーライターズ保險會社(英)	日本火災保險株式會社

(三九)イースタン・アンダーライターズ保險會社(英)　帝國火災保險株式會社
(四〇)ジャワ海上火災保險會社(英)　帝國海上火災保險株式會社

二、生命保險會社ノ部

敵性保險會社名	本邦保險會社名
(一)ユナイテッド・ステイト・保險會社(米) (聯邦人壽保險公司)	三井生命保險株式會社
(二)インターナショナル保險會社(英) (英商四海保險公司)	同
(三)マヌファクチュアラーズ・ライフ保險會社(加) (宏利人壽保險公司)	同
(四)コンフェデレイション・ライフ保險會社(加) (合衆人壽保險公司)	同
(五)クラウン・ライフ保險會社(加) (代理店永康人壽保險公司)	第一生命保險相互會社
(六)オクシデンタル・ライフ保險會社(米) (永亨人壽保險公司)	千代田生命保險相互會社
(七)サン・ライフ保險會社(加) (永明人壽公司)	明治生命保險株式會社
(八)スタンダード・ライフ保險會社(英) (望賚保險公司)	第一徴兵保險株式會社
(九)ウエスト・コースト・ライフ保險會社(米) (舊金山人壽保險公司)	富國徴兵保險相互會社
(一〇)エイシア・ライフ保險會社(米) (友邦人壽保險公司)	日本生命保險株式會社

十一、敵產事務所用建物管理規定 (十一月九日大使館事務所發表)

第一條　新普通敵產處理委員長ハ普通敵產トシテ處理委託アリタル敵產事務所用建物(以下建物ト稱ス)ノ利用ヲ圓滑ナラシムルタメ一個或ハ數個ノ建物ニ對シ管理人ヲ設置スルコトヲ得。

第二條　本規定ニオイテ管理人トハ委託經營建物ノ受託者ヲイフ。

第三條　管理人ハ本規定ノ定ムル所ニ據リ自己ノ計算ニ於テ委託經營建物ノ管理經營ニ任ズルモノトス、但シ自己ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因ル損失ノ補償ニ付テハ別ニ之ヲ定ム。

第四條　管理人ハ委託ノ趣旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其ノ職務ヲ執行スルヲ要ス。

第五條　管理人ハ個々ノ建物ニ關シ其ノ經營ヲ各獨立シテ行ヒ固有財産及他ノ建物ノ會計ト分別シテ之ヲ管理スルヲ要ス。

第六條　管理人ハ管理ヲ命ゼラレタル日ヨリ十五日以内ニ其ノ經營ヲ開始スルモノトス。

第七條　事業年度ハ毎年四月及十月ニ始リ九月及三月ニ終ルモノトス。

第八條　管理人ハ管理ヲ命ゼラレタル日ヨリ一ケ月以内ニ委任經營建物ノ會計ニ關スル左記書類ヲ作成シ委員長ニ報告スベシ。

(一)管理開始當時ニオケル財産目錄

(二)物件目錄

(三)一ケ年管理費豫算

(四)建ノ總延坪ト貸付面積

第九條　管理人ハ經營上通常必要トスル帳簿ヲ整備シ其ノ會計ヲ明瞭ニスルヲ要ス。

第十條　管理開始後ノ利益金ハ別途之ヲ積立テルモノトス、其ノ處分ニ關スル左記事項ニ付テハ委員長ノ認可ヲ受クベシ。

(一)職員ノ給與、手當ニ關スル事項

(二)管理開始前ノ債權債務ニ關スル事項

(三)決算並ニ利益金處分ニ關スル事項

(四)改變、修繕ニ關スル事項

(五)設備ノ變更、轉用ニ關スル事項

(六)動産ノ移轉、轉用ニ關スル事項

(七)建物ノ利用、貸下ニ關スル事項

(八)其ノ他資産ノ增減ヲ來ス事項

第十二條　管理人ハ毎三ケ月末日ニ於ケル試算表ヲ作成シ其ノ期ノ經營收支狀況ト共ニ翌月二十日迄ニ各二通ヲ委員長ニ提出スベシ。

第十三條　管理人ハ管理終了シタルトキ遲滯ナク其ノ事業ヲ清算シ委員長ニ報告スベシ。

附　則

第十四條　本規定ハ昭和十七年十一月一日ヨリ之ヲ適用ス

敵産事務所用建物管理割當

建物名	管理人
一、香港上海銀行ビル	横浜正金銀行
二、匯豐ビル	横浜正金銀行
三、亞細亞石油ビル	丸善石油株式會社

四、ノースチヤイナ・デーリーニュース・ビル　大陸新報社
五、チヤータードバンク・ビル　台灣銀行
六、マーカンタイル・ビル　華興商業銀行
七、ロバートダラー・ビル　國際運輸株式會社
八、リザ・ビル　朝鮮銀行
九、ヤンツ・ビル　中支航運統制組合
十、ハント商會ビル　蘇浙皖民船總公會
I・C・Iビル（上海四川路一三三號所在）ニ付テハ別ニ管理人ヲ設ケズ直接中國放送協會ニ貸下グルモノトス。

第二項　敵國永租權ノ處理ニ關スル措置要領（案）

（昭和十七年七月一日提出）

一、敵國永租權ノ處理ニ關スル措置要領

（一）方針

新敵產處理基本方針（別ニ提出セル）ニ據ル。

但シ土地永租權ハ敵產ノ根源ニシテ、共同租界行政權ハ之ヲ基本トナシ且ツ從來ノ租界返還及ビ回收ノ場合ニモ茲ニ及ビタルモノナク、又我國ニ於テスラ之ガ完全回收ニハ約八十年ノ歲月ヲ要シタリ。此ノ如ク土地永租權ハ重大ニシテ根底深キモノナルガ故ニ、假令他ノ點ニ於テ讓ルトモ之ハ絕對的獲得ヲ期セザルヘカラズ。

右ノ方針ニ依リ敵國土地永租權ヲ處理スル場合ニ於テモ其ノ內容ノ複雜性ヨリ次ノ三措置案ヲ考慮シ得ルガ如

シ。

第一案

敵國人名義土地永租權ハ其ノ土地建物ガ敵國人ノ所有タルト或ハ支那人又ハ第三國人ノ所有タルトヲ問ハズ、凡テ之ヲ敵產トシテ處分ス。

但シ名義貸永租權ハ地券ヲ日本籍ニ、或ハ其ノ本國籍ニ書換ヘシムルコトニ依リ、單純ナル支那人及ビ第三國人ノ利益ヲ保護シ、且ツ上海ノ土地慣習ヲ尊重シ、以テ租界性格ノ急激ナル變革ヲ避クルト共ニ其ノ實權ヲ把握シ得ルガ如ク措置ス。

第二案

敵國人名義土地永租權ハ凡テ敵產トシテ處分ス。

但シ對支施策ノ見地ニ於テ、名義貸永租權ハ國民政府ノ要望ニ應ジ支那側ノ一方的宣言及ビ手續ニ依リ、之ガ抹消ヲ容認ス。

然シ土地執業證ヲ我ガ方信託會社ニ信託セシムルコトニ依リ土地ニ對スル實權ヲ我ガ方ガ把握シ得ルガ如ク措置ス。

第三案

敵國人名義永土地租權ハ凡テ敵產トシテ處分ス。

但シ名義貸永租權ノ處分ハ其ノ內容タル土地建物ノ處分ニアラズシテ名義貸ニ伴フ敵國名義人ノ權利義務ノミヲ敵產處分トシテ當然ニ其ノ儘我ガ方ニ繼承シ、當該土地建物ノ使用、收益等ハ從前ノ通リ所有者本人ノ權利ニ屬スルモノナルコトヲ宣言シ、以テ單純ナル支那人及ビ第三國人ノ利益ヲ保護シ、且ツ急激ナル變革ト支那人ノ疑懼ヲ避クルガ如ク措置ス。

(二)措置要領

第一案ノ場合

(一)土地永租權ノ敵產處理要領

一、新敵管產理委員會ハ敵國人土地永租權(土地及其定着物)ヲ〇〇信託會社(日本信託業法ニ據ル)ニ信託ス。

(イ)信託ノ

委託者ハ新敵產管理委員會

受託者ハ信託會社(日本信託業法ニ據ル)

受益者ハ新敵產管理委員會

(ロ)信託會社ハ

1日本內地ノ信託會社ヲ進出セシム

2中支那振興株式會社ニ信託業部ヲ新設ス

3中支振興ノ子會社ニ信託會社ヲ新設ス

4在上海ノ邦人敵產會社ヲ信託業法ニ據ル會社ニ變更ス

5新設ノ場合ニハ現物者本ヲ結集スル外支那民族資本ノ參加吸收ノ方法ヲ講ズ

二、新敵產管理委員會ハ敵產處分ヲ爲シタル旨ヲ敵國人土地永租權者ニ通告ス。

(イ)一筆每又ハ永租權者每ニ通告ス。

三、新敵產管理委員會ハ敵產處分ノ旨ヲ市政府土地局ニ通告ス。

(イ)敵產處理ノ必要上已ムヲ得ザル暫定的措置トシテ採ルコト並ニ敵產解除措置ニ依リ單純ナル支那人財產ノ保護及ビ土地執業證ヘノ換證ヲ容認シ、且ツ日華關係ノ發展ニ照應シ、次善ノ措置ニ出ズルコトヲ內示シ、本措置ヲ承諾且ツ協力セシム。

(ロ)土地局ハ通告ニ依リ土地臺帳ニ登錄ス。

四、新敵產管理委員會ハ敵產處分ノ旨ヲ工部局ニ通告ス。

(イ)工部局ハ之ニ依リ土地臺帳及ビ地稅徵收簿ニ記入シ、信託會社ヨリ地稅ヲ徵收ス。

五、信託會社ハ日本總領事館ニ信託ノ登記ヲナス。

(イ)總領事館ハ信託業法適用ノ措置ヲナス。

(ロ)總領事館ハ信託登記事務ヲ開設ス。

六、信託會社ハ信託事務ヲ斯業者ニ委託スルコトヲ得。

(イ)斯業者トハ

1現在ノ受託管理者

2適當ナル專門業者

(ロ)信託事務トハ不動產ノ使用收益即チ經營ヲ意味ス。

(二)土地永租權ノ敵產解除措置要領

一、新敵產管理委員會ニ對シ現所有者(非敵國人)ハ當該永租權ガ敵產處分ヲ受ケタルモ眞正ノ現權利者ハ自己ナルコトヲ立證シ敵產解除ヲ出願スルコトヲ得。

二、新敵產管理委員會ハ之ヲ受理審査シ正當ナリト認定シ得タル時ハ永租券ヲ日本籍指定日本人名義ニ書換ヘルカ或ハ敵ノ本國籍地券ニ書換ヘルコトヲ條件トシ敵產ノ解除ヲナス、同時ニ之ヲ信託會社、市政府土地局及敵國人永租權者ニ通告ス。

三、現所有者(非敵國人)ハ永租權名義人(敵國人)トノ間ニ信託契約(權柄單)ノ取消及永租權讓渡ニ關スル手續ヲナシ、日本人(指定)ト賣買契約及權柄單ヲ締結ス。

四、讓受人(日本人)ハ領事館ニ讓受登記ト新地券下附願ヲ申請ス。

信託會社ハ信託抹消ノ登記ヲナス。

五、領事館ハ市政府土地局ニ新永租地券ノ發給ノ手續ヲナス。

六、市政府土地局ハ右並ニ新敵產管理委員會ノ通告ヲ照合シ新永租地券ヲ發給ス。

七、領事館ハ新永租地券ニ據リ登記ヲ完了シ其ノ中一通ヲ申請者ニ交付スルト同時ニ之ヲ工部局ニ通告ス。

(イ)工部局ハ之ニ依リ土地臺帳及地稅徵收簿ヲ訂正シ新名義人ヨリ徵收ス。

八、日本人ハ新地券ト權柄單ヲ委託者(現所有者)ニ交付ス。

九、現所有者支那人ガ自國地券(土地執業證)ニ書換ヲ希望スル場合ニハ一、及二、ノ手續ヲ爲シタル後

(イ)權柄單ヲ取消シ

(ロ)市政府土地局ニ土地執業證發給ノ申請ヲナス

一〇、現所有者第三國人ガ本國籍永租券ニ書換ヲ希望スル場合ニハ一、及二、ノ手續ヲナシタル後

(イ)權柄單ヲ取消シ

(ロ)自國領事館ヘ新永租權下附ヲ出願ス。

第二案ノ場合

(一)土地永租權ノ敵產處理要領

第一案ノ場合ニ同シ。

(二)土地永租權ノ敵產解除措置要領

一、現所有者支那人ハ眞正ノ現權利者ナルコトヲ立證シ、市政府土地局ヲ經テ解除方ヲ出願スルコトヲ得。

二、新敵產管理委員會ハ正當ノ權利者ナルコトヲ市政府土地局確認シ且ツ單純ナル支那人ナルコトヲ認メ得タル時ハ、土地執業證ニ書換ユルコトヲ條件トシテ敵產ノ解除ヲナシ、之ヲ信託會社及ビ土地局ニ通告ス。

三、市政府土地局ハ當該永租權ノ無效ヲ宣言スルト共ニ土地執業證ヲ發給ス。

但シ、新敵產管理委員會ヲ經由ス。

四、新敵產管理委員會ハ土地執業證ヲ我ガ方ノ信託會社ニ信託ス。

五、我ガ方ノ信託會社ハ之ヲ帝國領事館ニ登錄シ、領事館ハ土地局ニ登記ス。

六、信託會社ハ信託證書ト土地執業證ヲ新敵產管理委員會ヲ經テ支那人ニ交附ス。

第三案ノ場合

一、軍ハ敵國永租權ヲ權承シ之ヲ我ガ方〇〇信託會社ニ信託シタル旨及ビ名義貸永租權ハ敵ノ土地建物其物ヲ敵產處分スルニアラザレバ其ノ所有者ハ從前通リ之ヲ使用收益シテ差支ナキコト但シ一定期間內ニ權柄單ノ書換ヲ爲スベキコトヲ布告ス。

二、現所有者支那人及第三國人ノ證憑書類ヲ添付シテ權柄單ノ書換ヲ〇〇信託會社ニ出願ス。

〇〇信託會社ハ之ヲ新敵產管理委員會ニ申請ス。

三、新敵產管理委員會ハ之ヲ審查シ單純且正當ノ權利者ト認定シ得タル時ハ當該永租權ヲ受託セル信託會社ト契約及ビ權柄單ノ書換ヲナサシメ、且ツ之ノミニ依ル權利ノ移轉及ビ讓渡ヲ容認ス。

四、市政府土地局ヲシテ敵國永租權ヲ日本籍且ツ當該信託會社名義ノ永租券ニ訂正セシム。

第一案ハ土地章程、土地慣習ヲ極力尊重シ、且ツ日本ノ法律ニ準據シ乍ラ支那人ニ不安ヲ起サシメズ、敵產處理ノ目的ヲ達成セントスルモノニシテ、最モ平凡ナル方法ト謂フ可シ。唯手續上市政府土地局トノ關係深ク、其ノ協力ヲ必要トスル爲メ、支那側ヲシテ國權恢復、租界回收等ノ主張ト國民政府育成强化ノ論ニ便乘シテ即時土地執業證ヘノ換證ヲ要求セシムル機會ヲ與フル惧アリ。

第二案ハ名義貸永租權ノ否認及ビ即時土地執業證ヘノ換證ハ理論的ニ正シク、又日華基本條約ノ精神上當然ナリトシテ之ヲ容認スルモノニテ、支那側ノ滿足ト協力トヲ獲チ得。然シ信託ノ方法ニ依リ土地永租權ノ名ヲ棄ツルモ實ヲ取リ且ツハ永租權ナキ奥地ニ於ケル邦人ノ土地問題ヲ之ニ依リ解決セントスルモノナリ。乍然我ガ方ヘ信託セシムル點ニ於テ支那側ノ同意ト協力ヲ要シ、且ツ所有者ハ信託ニ依リ使用、收益、處分ノ自由ヲ制限セラルルニ至リ支那人ノ經濟心理ニ反スルノ嫌アリ。

第三案ハ敵國權益ノ繼承ハ皇軍進駐當然ノ結果ナリトノ理念ニ基クモノナリ。而シテ日支國交調整上ノ見地ヨリスル土地永租權ノ返還等ハ聖戰完遂後若ハ東亞共榮圈內他地域トノ比重ヲ睨ミタル上徐ロニ愼重之ヲ決スベキモノトシテ問題ヲ他日ニ讓ルモノナリ。然シテ極力支那人ノ疑懼ヲ避ケ其ノ安心ト信賴ヲ獲得シテ敵產處理ノ目的ヲ達成セントスルモノナルモ、土地章程及ビ土地慣習法等ニハ添ヒ得ザルガ如シ。

上海ニ於ケル敵國權益ハ壹百年ニ及ブ敵ノ侵略ノ成果ニシテ、私有財產ハ敵ノ搾取ノ結晶ナリ。且ツ上海ノ政治力、經濟力、文化力ノ大半ヲ占ムルモノニテ其ノ比重ハ日本內地ニ於ケル敵國人財產或ハ敵國ニ於ケル日本人ノ財產トハ比較スベカラザル程重大ナリト謂フベシ。殊ニ敵國永租權土地ハ上海ニ於ケル全永租權土地ノ半ニ及ビ、共同租界內永租權土地ノ八割約二萬畝ニ當ル。內支那人ガ敵國人名義ヲ以テ永租權土地ヲ所有シ財產ノ安全ヲ計レル者ハ一萬ロット以上、面積約二萬七千畝ト稱セラル(全上海地區)。

敵國人ハ名義貸ニ依リ租界行政權ヲ把握スルト共ニ支人那ノ利益ヲ保護シ、且ツハ名義料並ニ家屋差配及金融等ノ利潤ヲ壟斷シ乍ラモ其ノ協力ヲ獲得シタリシモノナリ。上海ニ於ケル名義貸永租權ハ最モ安全確實ナル財產所有ノ形式トシテ又其ノ房地產ハ利益大ナル投機物トシテ盛大ニ取引セラレ、宣戰直前ニ於テスラ月額四千五萬元位ニ及ビタリ。

然ルニ昨年十二月軍布告ハ敵國人不動產ノ移轉ヲ禁止シ之ヲ凍結セリ。爾來已ニ半歲現實ハ軍布告ヲ無視シテ敵國永租權土地ノ取引ヲナスノヤムナキ場合アルガ如ク、每日ノ新聞紙ニハ其ノ賣買廣告ヲ見ル。之レ固ヨリ軍ノ威嚴ニ關スルコト甚大ナリト雖モ其ノ防止ハ困難ニシテ原來複雜ナル不動產ノ權利關係ヲ益々複雜怪奇トナラシメツツアリ。單ニ此ノ一點ニ於テモ處理方針ノ決定ト實施ノ急ヲ要スルハ切實ナリト謂フ可シ。

尙ホ應急ノ措置トシテ之等ノ取引ヲ屆出手續ニ依リ、現權柄單ヲ將來日本籍永租地券ニ基ク權柄單ニ書換ユルコトヲ條件トシテ正式且ツ簡便ニ容認センカ、社會ノ實需ニ適應シ、權利關係ノ複雜化ヲ防止シ、且ツ名義貸永租權ヲ獲得シ得ルノミナラズ、又以テ軍布告ノ威嚴ヲ保全シ得ベシ。

前記各項措置ノ何レヲ實施スル場合ト雖モ支那人ノ信託ヲ引受ケ、管理差配及ビ金融等ヲナスニ足ル用意我ガ方ニナキ場合ハ蕭龍點睛ヲ缺クモノニシテ目的ノ圓滿ナル達成ヲ阻害スベシ。此點ニ就テハ一般的敵產措置案及ビ金融措置案等ニ讓リ、茲ニハ

一、軍ヨリ敵國永租權卽不動產ノ信託ヲ受託スル信託會社(日本信託業法ニ據ル)

二、支那人及第三國人ニ名義貸ヲナシ且ツ其ノ不動產ノ差配管理及金融ヲ引受クル所謂敵產會社(會社法ニ據ル)

トハ夫レ夫レ別個ノ法人トシ且ツ組織形式ヲ異ニセシムルコトハ、土地永租權卽不動產ノ敵產處理上又其後ノ事業經營上ニ必要ニシテ且ツ便利ナラシムルコトヲ明記シ注意ヲ喚起スルニ止メントス。

〔參考資料〕

上海ニ於ケル土地永租權

（昭和十七年十一月事務局起稿）

目次

(一)土地永租權ノ基本觀念
一、總　說
二、土地永租權取得ノ根據
三、土地永租權取得ノ地域
四、上海港岸ノ埋立權
(二)租界外土地永租權取得ノ沿革
一、總　說
二、闡北ニ於ケル土地永租權
三、吳淞ニ於ケル土地永租權
四、租界內外ニヨル土地永租權ノ地位
(三)土地永租權ノ取得ト其登記
一、土地永租權法律行爲ノ準據法
二、土地永租權ノ取得
(イ)土地永租權ノ設定
(ロ)土地永租權ノ移轉

(二)土地永租權ノ分割移轉
三、抵當權設定ノ方法
四、土地永租權ノ登記

(一)土地永租權ノ基本觀念

一、總　說

土地所有權ハ國家組織並ニ一國ノ經濟組織ト密接ナ關係ヲ有シ現代國家ニ於テハ全然無條件ニ之ヲ外國人ニ認ムルモノハ殆ンドナイ。

支那ニ於テハ王土思想行ハレタル當時ハ土地ノ私有ハ觀念上存在シ得ナカツタガ近時法律思想ノ發達ニ伴ヒカカル舊來ノ觀念ハ打棄テ一九三〇年六月三十日ノ土地法第七條ヲ以テ支那人ノ土地私有ヲ認メルニ至ツタ。然シ外國人ノ土地所有ニ付テハ依然トシテ之ヲ定メズ原則トシテ禁止スルノ方針ニ出タルコトハ近代國家ノ例ニ從ヒタルモノトイハザルヲ得ナイ。然ラバ永租權トハ一體如何ナル權利デアリ又何ニ依ツテ認メラレタ權利デアラウカ。

二、土地永租權取得ノ根據ト其本質

現在條約國人ノ享有スル土地永租權ガ支那ノ國內法上ノ權利デナイコトハ前節ノ通リデアル。然ラバ何故ニ土地永租權ガ權利トシテ實在スルカト云フニ之ハ全ク各國ト支那トノ通商條約ニ於テ當該國人民ガ開港(市)場ニ於テ居住營業ノ自由ヲ認メラレ居ルニ據ルモノデアル(共同租界土地章程第二條參照)。一八四二年ノ英支南京條約ガ始メテ外國人ニ此權利ヲ與ヘタルコトハ周知サルルトコロデアル。

敍上ノ如キ條約上ノ規定ト支那國內法トノ調和ヲ計ル目的ヲ以テ實現シタノガ原所有者ニ對スル『每年ノ地代支拂ヲ條件トスル永租』デアル(一八四三年英支虎門塞追加條約第七條及ビ一八四四年ノ米支望廈條約第十七條)。

次デ一八四五年成立ノ上海英租界第一回土地章程ニ於テ外國人ノ土地取得ニ關スル規定ヲ設ケタガ、未ダ『永租』ノ文字ヲ使用セズ。後一九〇三年ノ米支通商關係擴張ニ關スル追加第三條ハ『適當ノ地域內ニ於テ家屋、事務所及土他建物ノ賃借又ハ購買及土地ノ賃借又ハ永代借地ヲ爲スコトヲ得ベク』ト規定シタ。

我國ニ就テ見レバ明治二十九年(一八九六年)ノ日清通商條約第四條ニ

『……又ハ其他一切合法ノ職業ニ從事シ……又其他ニ於テ外國人ノ使用及占有ノ爲既ニ選定シ若シクバ將來選定セラルベキ地域內ニ於テ家屋ヲ賃借、賣買シ地所ヲ賃借シ墓地病院ヲ建設スルコトヲ得』トアリ、故ニ今日ニ於テハ條約國人ノ土地永租權ハ條約上確認セラレタルモノトイハナケレバナラヌ。

一體租地ナル語ハ普通ノ字義カラ言ヘバ單純ナ借地ヲ意味シ決シテ土地所有權ノ如キ土地ニ總括的支配權ヲ意味シナイ事ハ明カダガ

一、支那ノ慣習法デハ租地權ハ所謂所有權ト異ナル所ナク

二、永租權トハ字ノ如ク永代借地權デアル、一般的觀念カラ永久ノ借地權ハアリ得ズ、其權利ノ存續ニハ必ズ期限アルヲ要シ所有權ノ如ク永久無限タルヲ得ナイト解ス可キデアル。然ニ上海地方ノ所謂永租權ハ原所有

者タル支那人ハ一旦ソノ土地ヲ條約國人ニ貸與即チ永租權設定後ハ土地ノ使用收益並ニ處分ニ付キ干渉ヲナスコトヲ得ザルノミナラズ買戻條件ヲ附セズ。

此等ノ理由カラ上海ニ於ケル土地永租權ハ單ニ權利主體ガ條約國人デアルト云フニ過ズ其實質上ノ効力ハ全ク支那人ノ土地所有權ト同一デアル。支那國政府ニ對スル一定ノ地租、所謂年租納付ノ義務以外ハ支那政府ノ課稅ヲ排除シ得ル點ニ付テハ却ツテ支那人ノ土地所有權ヨリモ强大ナリト謂フ可キデアラウ。

三、土地永租權取得ノ地域的制限

土地永租權ハ前述ノ通リ條約國ノ權利デアルカラ條約國人ノ開港(市)場ニ於ケル居住營業ノ自由ト一體ヲナシ相離ルベカラザル關係ニアル。而シテ此居住營業權ハ一ニ開港(市)場ニ於テノミ享受シ得ル權利デアルカラ永租權ノ取得モ亦自ラ此地域ニ制限サル可キデアル。

抑々支那ト各國トノ通商條約ニハ港口、口地方又ハ口岸、海口、進口、出口等ト云フガ如キ文字ヲ使用シテキルガ、此ロナル文字ハ原來 (Port) ノ意味デ船舶ノ出入碇泊スル港灣ヲ指シ、口岸トハ此港灣ニ沿フ一帶ノ地域ヲ稱スルモノデアル。而シテ支那ノ見解ニ從ヘバ條約開港(市)場ナルモノノ範圍ハ當該都市ノ全地域ニ亘ルモノデナク港灣水路ニ面シタ部分或ハ城內ヲ除イタ地域等一定ノ地域ニ限ルモノデ特ニ租界ノアル場合ニ於テハ租地地域ニ限ラル可キモノデアルト主張シ、條約國側ハ條約ノ趣旨ニ鑑ミ其地域ハ經濟上當該都市ニ屬スル地域タル以上ハ其城內タルト城外タルト水面ニ接シタル地域タルト又租界ノ內外ヲ問ハズ一切條約國人ノ居住營業ノ爲開放セラレタルモノデアルトノ見解ヲ保持シ來ツテキル。

然ルニ此通商口岸 (Open Port) 即チ開港揚トシテノ上海ノ地域如何ト云フコトニナルト其範圍ハ極メテ漠然タルモノデ條約其他ノ取極ニモ何等具體的ノ明示ガナイ。

元來開港(市)場內ニ於ル居住營業ノ自由ナルモノハ條約上ノ効果デアルガ、其權利ノ實體ハ私法的關係デナリ決シテ租界ニ於テ特定條約國ガ地域的行政權ヲ行使スル公法的關係ト同一視スヘキデナイ。從ツテ此意味カラ言ツテモ上海ニ於テ條約國人ガ永租權ヲ取得シ得ベキ地域ハ租界內ノミデナク租界ト經濟上密切ナ關係ニアル舊上海寶山二縣下ニ及ブベキハ當然ダト云ハネバナラヌ。

然シ支那側ノ見解トシテハ所謂上海開港場ノ地域ハ亦他ノ例ニ洩レズ原則トシテ租界內ニ限ラレ租界外居住營業ノ自由ハ專ラ約外融通ニ基クモノトサレテキル。更ニ一九一二年時ノ交涉員陳貽範ハ土地永租地域ヲ次表ノ如ク限定シテ了ツタ。其後條約國ハ之ニ對シ何等ノ抗議ヲナサズ右地域的制限ハ現在條約國側ニ默認セラレテキル。

上海ニ於ケル土地永租地域(三二四頁略圖參照)

一、共同租界

東區
- (上海境)二十二保——五十一圖(西南部)
- (上海境)二十三保
  - 一圖二圖(南部)十圖(南小部)十一圖(南半部)十二圖、十三圖(西南大部)
  - 西十三圖(南大部)十五圖(東南小部)

北部
- (上海境)二十五保——一圖二圖(北部)三圖(北部)

中央區——二十五保（上海境）——二圖（南部）三圖（南部）
　　——四圖（西北小部）

西　區——二十七保（上海境）——三圖（北部）八圖（北部）九圖、十圖（南部）南十二圖（西南部）北十二圖（東南部）十三圖（東部）

二、佛蘭西租界

二十五保（上海境）——四圖（東南部）五圖（北小部）六圖（北半部）七圖（北半部）九圖（西南大部）十三圖（西部）
二十七保（上海境）——二圖（北半部）三圖（南部）五圖、六圖、七圖、八圖（南部）
二十八保（上海境）——五六圖（東部）十二圖（東南小部）

三、租界外

吳淞境——鷹（吳淞區）——三十九圖、四十圖、四十一圖
　　——岡——三十二圖、三十三圖
　　——衣——三十六圖

殷行區——周（吳淞境）——十圖、十六圖、二十四圖、二十八圖
　　——衣——十三圖、十九圖、二十九圖
　　——岡——十四圖

江灣區——殷（寶山境）——四圖、五圖、六圖
　　——雨——二十五圖
　　——闕——三圖、五圖、十六圖、九三圖
　　——結——九二圖
　　——推——八圖

彭浦區——寶（寶山境）——金——二圖、二十三圖

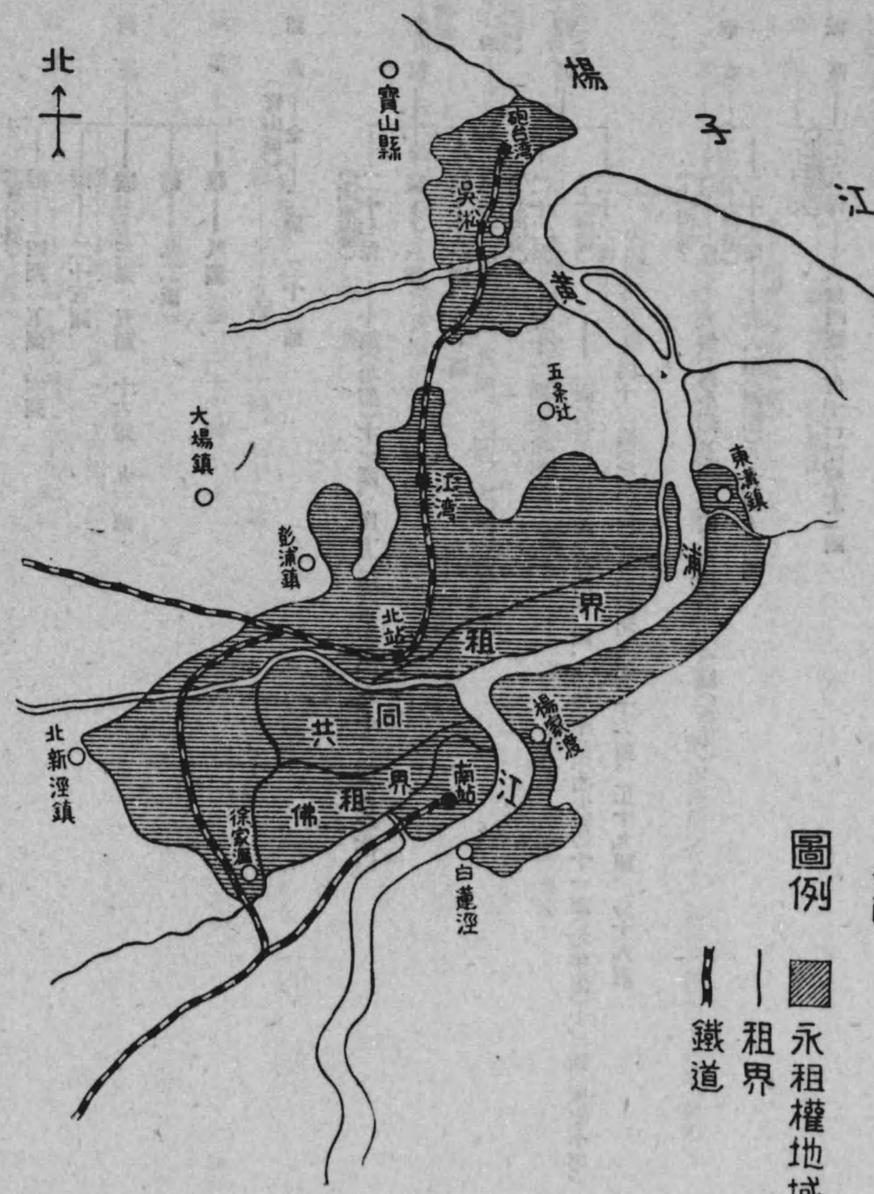
閘北區——二十七保（上海境）——十圖（北部）十一圖、南十二圖（東北部）北十二圖（西北部）
　　——闕——三圖
　　——結——一圖、九一圖

引翔區——二十二保（上海境）——五十一圖（東北部）
　　——二十三保（上海境）——二圖（北部）三五圖、六圖、八圖、九圖、十圖（北大部）十一圖（北半部）十三圖（東北小部）
　　——西十三圖（北小部）十五圖（北大部）十六圖、正十九圖、分十九圖

法華區——二十七保（上海境）——八圖（西小部）北十二圖（西南部）十三圖（西部）
　　——二十八保（上海境）——五六圖（西部）八九圖十二圖

蒲淞區——二十八保（上海境）——三圖四圖十併十一圖南十二圖

圖略域地權租永地土ルケ於ニ海上



滬南區——（上海境）二十五保——四圖（東南小部）九圖（東北小部）十圖、十三圖（東南大部）
（上海境）二十七保——二圖（南半部）四圖

塘橋區——（浦東境）二十四保——十四圖、正十五圖、副十五圖、二區十六圖

洋涇區——（浦東境）二十三保——十四圖
二十四保——十六圖二十一圖二十三圖二十四圖

陸行區——（浦東境）二十二保——四十三圖

高行區——（浦東境）二十一保——二十九圖、五九圖、五十三圖

四、上海港岸ノ埋立權

上海ニ於テハ黃浦滯浦局ナル機關アリテ港內沿岸地前水面ノ埋立工事其他水路ト直接關係アル一切ノ土木工事ヲ管轄シテ居ル。

滯浦局ハ一九一二年北京外交團ト支那政府トノ協定ニ成ル辨理滯浦局暫行章程ニ基キ創立セラレタモノデ支那ノ行政機關デアルガ其幹部ニハ條約國人ヲ以テシ事實上恰モ一ノ國際機關ノ觀ガアツタ。

其管轄區域ハ上海港即チ下ハ黃浦江ノ揚子江ニ注グ吳淞港外滯浦局築堤ヨリ上ハ江南造船所ニ到リ、河岸所有者ガ埋立シ得ルハ此港內河道兩側ニ線劃サレタ高水線、即チ（Normalline）迄デアル。滯浦局ノ認可ヲ受ケ埋立工事ヲ實施シ、沿岸地ノ所有者（永租權者）ガ新タナ地面ヲ得タ時ハ之ヲ「升科」シ支那側ヨリ權利ノ確認ヲ受ケネバ

ナラヌ。

(二)租界外土地永租權取得ノ沿革

一、總　說

一體租界外ニ條約國人土地ノ永租權ガ設定サレタノハ一八九四年ノコトデアルガ、支那側ノ見解ハ既述ノ樣ニ極テ制限的デアルカラ其後再三租界外ノ永租ハ支那政府ノ特許ニ基クモノデ決シテ條約上ノ効果デナイト聲明シ、更ニ一九一二年ニ時ノ交渉員ハ上海寶山兩縣ノ官民ニ意見ヲ徵シ一方的ニ地域ヲ限定シテ了イ、之ニ對シ條約國ガ何等抗議ヲ試ミズ結局默認セラレタルモノトナリ、現在ニ於テハ右限定地域內ニ於テノミ永租權ヲ取得シウルノデアル。

然ルニ支那側ハ一九三〇年公布ノ土地法ノ精神ニ依リ此地域內ニ於ケル永租權ノ設定ニ對シテハ其後拒否ノ方針ヲ採リ條約國トノ間ニ種々問題ヲ惹起シタ。

現國民政府トノ間ニ締結セラレタ日華基本條約ノ第七條ニハ

本條約ニ基ク日華新關係ノ發展ニ照應シ日本國政府ハ中華民國ニ於テ日本國ノ有スル治外法權ヲ撤廢シ及其ノ租界ヲ還付スベク中華民國政府ハ自國領域ヲ日本國民ノ居住營業ノ爲開放ス可シ

ト規定シテヰルガ故ニ將來本條項實施ノ場合日本人ハ支那ノ如何ナル地方ニ於テモ居住營業ノ自由承認セラレルルモノニテ家屋ヲ賃借又ハ賣買シ土地ヲ賃借シ得ルハ當然ノ効果ト言ハネバナラヌ。然シ土地ノ賃借ハ支那慣習法上ノ賃借即チ永借ニ非ズシテ支那土地法上ノ賃借、普通ノ觀念ニ於ケル土地賃貸借ト解スベキデアラウ。

二、閘北ニ於ケル土地永租權

閘北(Cha Pei)トハ舊寶山縣ノ南端ニ位スル現上海特別市政府管下ノ閘北區ヲ指稱スルモノデ共同租界北區虹口地方ニ隣接スル一帶ノ地區デアル。

現在兩租界外デアルガ日本人ノ居住營業スルモノ頗ル多ク(約三萬人)越界道路タル北四川路、狄思威路、寶樂安路、施高塔路、江灣路等ヲ中心ニ邦人ノ會社商店櫛立シ且ツ各學校、民團、興亞院華中連絡部、特務機關、陸戰隊本部、海軍武官府等ノ機關集中シテ恰モ日本租界タルカノ外觀ヲ呈シテヰル。

此地區ニ外國人ガ土地永租權ヲ取得シタノハ一八九四年(光緒二十年)ニ工部局ガ義勇隊ノ射擊場用地トシテ現在新公園ニ隣接スル射的場(寶山縣結九一圖)ノ廣大ナル土地ヲ買收シタルニ始マル。

三、吳淞ニ於ケル土地永租權

上海開港場ノ地域ハ經濟上、上海ト看做シ得ベキ一帶ノ地域ナリトスルモ吳淞ヲ以テ直チニ其圏內ニ入ルルハ經濟上カラ見ルモ亦地理的ニ見ルモ一般觀念(當時ノ)ノ許サヌ處デアラウ。果シテ然ラバ上海開港場ノ地域外ナル此吳淞ニ如何ナル理由ガアツテ支那側ハ外國人ノ土地永租權ヲ承認シタカ。之レ實ニ一八九八年(光緒二十四年)支那政府ガ自開商埠ノ勅諭ヲ公布シ開港シタルニヨルモノデアル。

吳淞開港問題ガ上海在留外人ニ論議セラルニ到ツタノハ光緒ノ中頃即チ一八九〇年頃ノ事デアル。當時吳淞港外ハ「デルタ」ガ横タハツテ外洋汽船ノ遡航ヲ阻害シ爲ニ上海向ノ貨物ハ多ク此所デ積換ヘネバナラズ頗ル不利不

便デアツタ。茲ニ於テ上海在留外人ハ吳淞ノ開港ヲ要求シテヤマズ、英國大使ハ之ヲ支那政府ニ提議シタガ支那側ノ顧ミル處トナラズ、此ヨリ後一八九七年ニ英國領事ハ吳淞口外碇泊ノ英國軍艦並組員ノ練兵場用地ヲ吳淞ニ求メントシテ借用ヲ申入レタガ支那側ハ之等ヲ租界獲得ノ隠謀ナリトノ見解ヲ採ツタ。

一八九八年三月上海駐在佛蘭西領事ハ道台ニ對シ租界擴張ノ要求書ヲ出シタガ其中ニ『吳淞一部分』モ指定シテキタ。

斯クテ支那側モ吳淞ヲ開港シテ諸外國ノ租界設置ノ口實ヲ無クスル必要ヲ悟ルニ至リ、時ノ道台蔡鈞ハ表面之等ノ申入レヲ拒絶シ、裏面南洋大臣劉坤一ヲ通ジ吳淞自開ノ適策ナル次第ヲ力說シ其裁可ヲ總理衙門ニ請訓シタ。之ニ對シ光緒二十四年(一八九八年)三月皇帝ノ勅許アリ、總理衙門ハ即時實行ヲ劉坤一ニ命シ劉總督ハ道台蔡鈞ヲ開埠督辦ニ任命シタ。此時ニ確定セラレタ開埠地域ハ

北ハ吳淞砲台ヨリ南ハ牛橋角ニ至ル、又北ハ泗涇河ヲ境トシ南ハ黃浦江ヲ離ル三支那里ニ至ル

ノ間トシ支那側ハ自カラ此地域ニ道路埠頭ヲ建設シ且警察權ヲ行使スル所謂內外雜居ノ自開商埠地ノ設定ヲ計畫シタ。

斯クテ先ヅ豫定地內ノ土地整理ノ必要ガ起リ、新ニ『吳淞埠租買地畝章程』ヲ制定シ、淸查灘地局ヲ設ケテ土地ノ測量ヲ行ハシメ、一方民有地ニハ夫々執業田單ヲ交附シ又民地官地ヲ問ハズ均シク內外人ノ買收ヲ許可シ、外國人ニハ上海租界章程ニ準ジテ地券ヲ交附スベキコトヲ定メタ。之レ實ニ吳淞地方ニ於ケル土地永租權取得ノ起源デアル。

然シ乍ラ北淸事變突發ノ結果北京政府ハ極度ノ財政難ニ陷リ、加フルニ開埠關係者ニ私利ヲ貪フントスル者等モ出テ遂ニ財源ノ見込立ズ折角ノ大計畫モ有耶無耶ニ葬リ去ラルル破目トナツタ。其後外交團ハ黃浦江改修案ヲ提起シ、遂ニ一九一二年ニ至リ之ヲ議定書中ニ規約セシメ、濬浦局ヲ組織シテ黃浦江ヲ浚渫スルニ至ツタノデ最早吳淞ヘ進出ノ必要ガナクナリ、遂ニハ一般在留外人ハ敢テ吳淞開港ヲ叫バナクナツタ。

然ルニ造船航海技術ノ進步ニ伴ヒ二萬噸三萬噸級ノ大汽船ガ上海ニ寄港スル時勢トナルヤ濬浦局ノ善良ナル管理經營下ニ於テモ上海港ノ諸設備ハ漸ク之ニ對應シ得ザルニ至リ二度吳淞ノ必要ガ論ゼラルルニ至ツタ。

蔣介石ノ國民政府南京ニ成立スルヤ上海租界ノ回收ヲ國民革命ノ一標語トシ激烈ナル民族運動ヲ展開スルト共ニ外交上ニモ着々之ヲ準備シタガ、列强殊ニ英國ハ上海租界ヲ斷然固守スルノ態度ヲ表明、且ツハ反擊シタノデ租界回收ノ政策ヲ一變シテ吳淞、江灣ヲ包轄スル所謂新上海ヲ建設シ以テ租界ノ繁榮ヲ奪取スルノ遠大ナル計畫ヲ樹立シテ道路ヲ整備シ、市廳舍、病院、圖書館、公園、競技場、住宅街、埠頭等ノ近代設備ヲ次第ニ完成シテ往時南洋大臣劉坤一ガ計畫セシ吳淞自開商埠地ヲ實現スルヤニ見ラレタルガ、支那事變ヲ招來シテ此地域ヲ激戰場タラシメ既設ノ設備ハ殆ド破壞シテ折角ノ大野望モ葬ラルルニ至ツタ。其後此地域ガ復興再建ノ時期ニ入ルヤ之ヲ擔任スル上海恒產公司ハ前者ニ數倍スル大計畫ヲ立テ且ツ吳淞港ノ完成ヲ企劃シタガ時局ノタメ暫時見合セノヤムナキニ至ツタ。

之ヲ要スルニ吳淞ハ敍上ノ如ク一八九八年勅諭ニ依リ支那ガ開放シタ自開商埠地デアルガ、未ダ具體的施設實行サレテキナイト云フノミデ前記ノ地域ハ既ニ外國人ノ爲ニ開放サレタ所謂自開商埠地デアル。

四、租界ノ內外ニ於ル土地永租權ノ地位

上海地方ニ於テ條約國人ハ租界ノ內外ヲ問ハズ一定ノ地域(前揭)ニ於テ永租權ヲ取得シタルガ、其公法的關係ニ至ツテハ租界ノ內外ニ依リ自ラ相異ルモノガアル。

卽チ租界內ニ在ル土地永租權ハ租界ノ憲法タル土地章程ニ制限セラルルガ故ニ租界行政ノ執行機關タル工部局(公董局)ノ定ムル處ニ從ヒ、或ハ地租(Tax)ヲ納入シ、或ハ道路建設等公益上ノ必要ニ基ク土地收用ニ應ゼネバナラヌ。

之ニ反シ租界外ノ永租權土地ハ其取得ノ手續ハ土地章程ニ據ルケレドモ原則トシテ全然支那ノ行政權下ニアル。支那官憲ハ相變ズ王土觀念ノ影響其他ヨリ道路ノ建設其他公益ノタメニハ補償金ヲ支拂フコトナク官憲ノ實力ヲ以テ之ヲ沒收セントスル場合ガ多イ。故ニ往々永租權者ニ對シテモ亦同一措置ニ出デントシ不當ニ權利ヲ侵害セラルルコトナシトセズ。然シ支那ニモ土地收用法ハ現存スルノミナラズ條約國人ノ既得權ハ濫リニ侵害スルヲ許サヌモノデアルカラ斯ル場合ハ自國官憲ヲ通ジ當然支那側ニ抗議シ得ベキモノデアル。

此意味ニ於テハ租界外土地永租權ハ支那人ノ業主權卽チ(所有權)ヨリ更ニ强力ナ權利デアルトモ云フコトガ出來ヤウ。

之レ支那人ガ土地ヲ條約國人ニ信託讓渡シ永租地券ニ書換フルヲ利益ナリトナス一原因デアル。

(三)土地永租權ノ取得ト其登記

一、土地永租權法律行爲ノ準據法

土地永租權ハ實質上條外國人ガ支那人ヨリ其土他所有權ヲ讓リ受クルコトニ依ツテ取得セラレ、更ニ條約國人間ニ於テ自由ニ移轉讓渡セラルルモノデアルカラ其法律關係ニハ自ラ涉外的要素ヲ含ム場合ガ多イ。故ニ國籍ヲ異ニスル私人間ノ法律行爲ノ方式、要件、効果ハ如何ナル法律ヲ以テ判定セラルベキヤノ問題ガ先ヅ決定セラレネバナラヌ。

租界ハ開港場ノ一部デアル、而シテ租界ト租界ナラザル開港場ノ部分ト區別セラル可キ要點ハ前者ニ於テハ租界章程ノ取極ニ依リ支那ノ行政權ガ排除サレ、後者ニ於テハ依然支那ノ法令ガ行ハルルヲ原則トスルニ在ルノミデ、共ニ支那ノ領土タル點ニハ變リナイ。

一般國際私法上ノ原則ハ不動産ノ得喪ニ關スル法律行爲ノ効力ハ其目的物ノ所在地ノ法律ニ依ル可シトサレテヰル。故ニ土地永租權法律行爲ノ準據法ハ原則トシテ所在地法タル支那土地法並ニ慣習法デナケレバナラヌ。然シ共同租界章程第三條第四條及第五條ノ規定ニ依リ現在支那慣習法上ノ地券主義及ビ支那土地法(民國十九年—一九三〇年六月公布、同二十五年—一九三六年施行)並ニ關係國領事館ノ登記制度ヲ以テ判定セラレネバナラヌ關係ニアル。

二、土地永租地權ノ取得

土地永租權ノ取得ニハ設定的取得ト移轉的取得トノ二者アリ。前者ハ支那人ノ土地所有權ニ對スル土地永租權ノ設定行爲、卽チ支那人ト條約國人間ノ土地賣買行爲デアリ、後者ハ條約國人間ニ於ケル土地永租權ノ移轉讓渡デ

アル。更ニ後者ハ國籍ヲ同一ニスル條約國人間ノ行爲ト國籍ヲ異ニスル條約國人間ノ行爲トニ分類サレル。

(イ)土地永租權ノ設定

土地永租權ノ形式的觀念ハ一ノ借地權デアル。故ニ條約國人ガ支那人カラ土地ヲ買收シ永租權ヲ取得スル行爲ハ一ノ設定行爲ト見ル可キデアル。然シ此ハ單ニ形式的觀念ニ於テノミ然ルノデ實質的ニ於テハ何等支那人間ノ土地賣買、卽チ土地所有權ノ移轉讓渡ノ關係ト異ナル處ハナイノデアル。

慣習法上支那人間ノ土地賣買行爲ハ絕賣契ナル賣買契約書（但シ地保ノ署名捺印ヲ要ス）ト方單等ノ地券ノ引渡シトニ依リ完全ニ物權的移轉ノ効果ヲ生ズルモノデアル。

民國二十五年施行ノ新土地法ハ登記制度ヲ採用シテヰルガ實際之ニ依リ登記サレタ土地ハ頗ル僅少デアツテ依然トシテ地券ノ引渡シニ依リ賣買セラレ其確認及ビ名義變更ノ爲ニ登記ヲナス。地券主義ト登記制度ガ併用セラレテヰル。

斯ノ如ク新舊、混同併存ハ現代支那ノ凡ユル部面ニ存在スル特質デアツテ、租界內補裝道路ノ附近ニ割石敷ノ舊式道路アリ、自動車トラツクノ疾走スル街上ニ依然一輪車（小車）ノヨタヨタト通リ行クガ如キモノデアル。支那政府ガ新制度、新法令ヲ觀念的ニ採用コスルトニヨリ益々複雜ト混亂ヲ誘起シテ新支那ノ確實ナル進步發展ヲ阻害スル一因デアル。

土地永租權ノ設定行爲ハ永遠出租契ナル契約書（地保ノ署名捺印ヲ要ス）ト地券（方單等）ノ引渡トヲ以テ物權的移轉ノ効果發生ノ絕對必要條件トサレテ居ル（租界章程第三條參照）。尙此外ニ地租領收證（支那側ノ）ノ授受ヲ必要トスル。之ハ右地租領收證ガ賣主ノ正當權者タルコト及ビ納稅義務ヲ履行シテ來タ事實ヲ證明スルニ足ルタメデアル。

敍上ノ如クシテ土地永租權設定者タル條約國人ガ自己ノ取得シタ永租權ヲ合法的ニ享受センガ爲ニハ共同租界土地章程ノ定ムル處ニ從ヒ自國領事館ニ永租地券（Title deed.）ノ發給ヲ受ケ之ヲ保有セネバナラヌ。

次ニ永租地券發給ノ手續ヲ述ベヤウ。

一、地券發給ノ申請

土地永租權設定者タル條約國人ハ方單等（支那地券）永遠出租契（賣買契約書）及ビ地租領收證ヲ添付シテ新地券下附願ヲ自國領事館ニ提出スル。

領事館ニ於テハ其合法ナルコトヲ認メタル時ハ備ヘ付ケ土地台帳ニ所要事項ヲ登錄シ、從前ニ於テハ同時ニ官印ヲ捺シタル地券（三通）ニ必要事項ヲ書キ入レ前記書類ト共ニ公文ヲ附シ上海特別市政府土地局ニ送附シタガ現在ハ地政局ニ於テ地券用紙ヲ備ヘテ其手續ヲナシテヰル。

上海特別市政府地政局ハ之ヲ適法ト認ムル時ハ所定ノ手續、卽チ公測ノ實施、公測地圖ノ作成、承認等（場合ニ依リ升科）ノ順序ヲ經テ地券ヲ完成シテ領事館ニ送付スル。

(1)公測ノ實施

土地永租權者、領事館員（但シ佛領事館ハ派員セズ）、工部局員（公董局）ト立會ノ上ニ永租土地ノ測量ヲ行フ。

(2)公測地圖（Official plan.）ノ作成

右公測終了後工部局(公董局)ニテ原圖ヲ作成之ヲ地地局ニ送ル、地政局之ヲ承認シタル時ハ地政局規定用紙ヲ用ヒ原圖ト同一ノ地圖四枚ヲ復成シ工部局(公董局)ニ廻送シテ其承認ヲ求ムル。承認ヲ受ケタル上ハ其中ノ一枚ハ工部局(公董局)保存シ、一枚ハ領事館ニ送ツテ永租權者ノ承認ヲ求ムル。承認濟地圖ノ返戻ニ接シタル時領事館ハ之ヲ保管シ且此旨ヲ地政局ニ通知スル。一枚ハ永租地券ニ添付シ、一枚ハ地政局ニ於テ保管ス。

右ハ從前ノ方法ニテ現在ハ土地ガ租界內ニ在ル場合ニ限リ此手續ニ據リ、租界外ノ場合ニハ工部局(公董局)員ノ立會並ニ公測圖ノ作成ハ支那側ノ排除スル處トナツテキル。若シ不承認ノ場合ニハ其理由ヲ附シテ該地圖ヲ地政局ニ返送シ其修正又ハ再測量ヲ求ム。

(3)升科

上海縣ノ方單ハ咸豐五年(一八五五年)以來ノモノデアリ、又寶山縣ハ一九〇六年頃ノ測量デアツテ共ニ正確ナラズ往々ニシテ方單面(舊式地券)ノ地積ト實測ノソレト相違スル事ガアル。

若シ公測地積ガ方單等(舊式地券)ノ面積ヨリ大ナル時ハ茲ニ所謂『升科』ナル問題ガ起リ、其增加部分ニ對シ一定ノ割合(該地市價ノ百分ノ五十)ヲ以テ『升科費』ト稱スル稅金ヲ地政局ニ納入シテ其權利ヲ確認シテ貰ハネバナラヌ。

二、地券ノ下附

地政局ハ斯ク所定ノ手續終了セバ新地券、即チ前述ノ領事館ヨリ送付ノ永租地券(Title deed)ニ捺印ノ上、關係書類(方單、賣買契約書其他)ト共ニ之(二通)ヲ領事館ニ返還スル。

領事館ハ右關係書類ヲ保管シ、地券(一通)ヲ永租權者ニ交付シ且ツ租界內ノ場合ハ此旨ヲ工部局(公董局)ニ通知スル。

工部局(公董局)ハ之ニ據リ土地台帳ニ登錄シ、又地租(Tax)賦課ノ手續ヲ採ル。

地券ハ三通(以前ハ上、中、下現在ハ正本、副本二部)ヲ作成シ、其中

一通(以前ハ日領事館ハ下券英〃ハ下券佛〃ハ上券現在ハ正本)ハ永租權者ニ渡ス

一通(以前ハ日領事館ハ上券英〃ハ上券佛〃ハ下券現在ハ第二副本)ハ領事館ニ保管ス。

一通(以前ハ中券現在ハ第一副本)ハ上海特別市政府地政局ニ於テ保存スル。

右三通ノ地券ハ權利ノ移轉變更ニ於テ常ニ同一ノ手續ヲ經ルハ勿論デアリ、又上、中、下券或ハ正本、第一副本第二副本共ニ夫々所持者ヲ區別確定セルモノデアル。

以上ハ條約國人ガ支那人ヨリ土地ヲ買收シタ場合ノ手續デアルガ、支那人間ニ廣ク行ハレテキル條約國人(主トシテ英、佛、米)ニ土地ヲ信託シ其名義ニテ土地永租權ヲ設定スル場合ニハ、次ノ如キ手續ガ採ラレテキル。

所有者(即チ信託者)支那人ハ必要關係書類ヲ揃ヘテ條約國人(即チ受託者)ニ土地永租權ノ設定ヲ依賴スル。

受託者ハ之ニ對シ預リ證一通ヲ交附シ、自己ノ名義ニテ前記ノ諸手續ヲナシ、永租地券ノ發給ヲ受ケテ前ノ預證ト引換ニ永租地券及ビ權柄單(信託證書)ヲ信託者即チ所有者支那人ニ交附スル。リ

而シテ信託者ハ登記手續費一切ヲ負担スル外受託者ニ手數料及ビ名義料(常年掛號費)ヲ支拂フ、以後毎年工部局(公董局)地租、支那政府ニ納入スル地租並ニ名義料(現在ハ一筆ニ付年額二百弗)ヲ受託者(名義人)條約國人ニ支拂フノデアル。

(ロ)土地永租權ノ移轉

一、異國籍人間ニ於ケル場合

永租地券ハ國籍主義ニ依リ權利者所屬國領事館ヲ通ジ、支那側ヨリ發給セラルルモノデアルカラ其移轉讓渡ニ於テハ讓受人ハ必ラズ其所屬領事館ヲ通ジ、地券書換ノ手續ヲ採ラネバナラヌ。蓋シ讓受人ガ他國領事館ニ登錄シアル地券ヲ其儘自己ノ名義ニ書キ換フルトモ他國領事館ハ讓受人ニ對シ何等ノ支配權ヲ有セザルト同時ニ亦其權利ヲ保護ス可キ何等ノ義務ヲ負ハナイカラデアル。其手續ハ次ノ通トス。

(1)讓渡人ノ手續

賣買契約完了ノ上ハ其所屬領事館ニ地券ヲ提出シ登記ノ抹消ヲ申請スル。之ヲ『トランスファー』ト稱ス。

右領事館ハ本國人某ヨリ何國人某ニ永租權ノ移轉讓渡アリタル旨ノ公文ニ讓渡人及ビ領事館保有ノ地券(計二通)ヲ添ヘテ讓受人所屬ノ領事館ニ送附スル。

(2)讓受人ノ手續

所屬領事館ニ新地券下附願ヲ申請スル。

右領事館ハ讓渡人ノ所屬領事館ヨリ公文及ビ關係書類ノ送附ヲ受ケ、前記永租權設定ノ場合ト同樣ノ手續ニヨリ支那側ヨリ地券ノ發給ヲ受ケテ之ヲ讓受人ニ交付スル。

賣買代金ハ多ク此『トランスファー』ノ手續終了ト同時ニ授受セラルルヲ常トスル。

尙支那人ガ信託セル條約國外人名義ノ永租土地ヲ讓リ受ケタル場合ニハ以上ノ手續ノ前ニ次ノ如キ手續ヲ採ラネバナラヌ。

(1)權柄單(信託證書)ノ名義變更

賣買契約書ヲ作成調印ノ上讓渡人ハ權柄單ノ名義變更ヲ受託者(條約國人)ニ請求スル(此手數料一筆三百弗)。

讓渡人ハ新權柄單ノ發給ヲ受ケタル時ハ永租地券ト共ニ之ヲ讓受人ニ交附スル。

(2)永租地券書換ノ請求

讓受人ハ新權柄單及ビ永租地券ヲ添ヘテ受託者ニ永租權書換手續方ヲ請求スル(此手數料一筆五百弗)。

受託者名義(外國人)ハ前記ノ(イ)讓渡人ノ手續ヲトル。

二、同一國籍人間ノ場合

永租地券ハ特定權利者ニ對シテ發給セラルルモノデアルカラ原則トシテハ同一國籍人間ノ場合ト雖モ『トランスファー』手續ト同樣ニ地券書換ノ手續ヲ採ラネバナラヌ。

乍然實際ハ便宜上單ニ地券面ノ名義ヲ變更スルニ過ギナイ。其手續ハ

(1)讓渡人及ビ讓受人ハ連名ノ上所屬領事館ニ地券名義變更願ヲ提出スル。

(2)右領事館ハ之ニ基キ土地台帳及ビ地券ノ名義ヲ書換ヘ並ニ地政局及ビ租界内ノ場合ニハ工部局(公董局)ニ

對シソノ旨ヲ通告スル。

(3)地政局及ビ工部局(公董局)ハ之ニヨリ土地台帳上ノ名義ヲ變更スル。

(ハ)土地永租權ノ分割移轉

元來地券ハ一筆ノ土地ヲ包括的ニ表示スルモノデアルカラ該土地ガ分割讓渡セラルル場合ニハ夫々分割部分ニ對スル地券數通ニ書換ヘラレナケレバナラヌ。

一、異國籍人間ニ於ケル場合

前記ノ異國籍人間ニ於ケル永租權移轉ノ手續ニ準ジ、讓渡人ハ分割讓渡ノ部分ヲ『トランスファー』スル。此場合ニハ分割讓渡部分ノ圖面ヲ添付ス。

領事館(讓渡人所屬)ハ此場合ニハ地券ソノモノヲ其儘讓受人ノ所屬領事館ニ送附スルハ不可能デアルカラ分割一部讓渡ノアリタル旨ヲ讓受人ノ所屬領事館ニ通知スルト共ニ、舊地券ニ分割情況ヲ明示シタ圖面ヲ添付シテ地政局ニ送附スル。

領事館(讓受人所屬)ハ讓受人ヨリ新地券下附願ノ申請ヲ受理シ前記ノ手續(永租權設定)ヲ採ル。工部局(公董局)ハ領事館ノ通知ニ依リ其土地台帳ノ訂正ヲナス。

尙支那人ガ信託セル外人名義ノ永租土地ノ場合ニハ以上ノ手續ノ外ニ次ノ如キ手續ヲ採ラネバナラヌ。

讓渡人(支那人)ハ必要書類(永租地券及ビ分割部分ノ地圖)ヲ添付シテ受託者(名義人)ニ手續ヲ請求スル。

受託者(名義人)ハ前記(イ)ト同樣ノ手續ヲ採リ、永租地券訂正後ニ舊權柄單ヲ新權單ニ取換ヘテ舊權柄單(訂正濟)ト共ニ信託者(支那人)ニ交付スル。

二、同一國籍人間ノ場合

此場合ノ手續ハ極メテ簡單デ兩當事者連名ノ土地一部讓渡願ニ永租地券及ビ分割情況ヲ明示シタ地圖ヲ添ヘ之ヲ所屬ノ領事館ニ提出スル。

領事館ハ土地台帳ノ訂正ヲナスト共ニ地政局ニ讓渡部分ニ對シテ新地券發給ヲ、舊地券ニ對シテハ讓渡部分抹消ノ手續ヲ採ル。

工部局(公董局)ハ領事館ノ通知(土地ガ租界內ニ在ル場合)ニ依リ其土地台帳ノ訂正ヲナス。

又支那人ガ信託セル條約國人名義ノ永租土地デアル時ニハ(イ)分割移轉後モ同一名義人ニ信託スル場合ニハ賣買契約成立後讓渡人ハ必要書類ヲ提出シテ分割移轉ヲ委託スル。受託者(名義貸條約國人)ハ前項(ロ)ノ手續ヲナシ分筆ノ上權柄單二通ヲ作成シ地券ト共ニ讓渡人及讓受人(新信託者)ニ夫々交附スル。(ロ)分割讓渡ヲ受ケタル讓受人ガ讓渡人ト異ナル但シ同一國籍ノ條約國人ニ新信託セントスル場合ニハ賣買契約成立後讓渡人讓受人ハ夫々ノ受託者(A・B)ニ分割移轉ノ手續ヲ依賴スル。

依賴ヲ受ケタル受託者(A・B)ハ連名ノ上前記同一國籍人間ニ於ケル分割移轉ノ手續ヲ採リ地券ノ發給ヲ受ケテ權柄單ト共ニ夫々ノ信託者ニ交附スル。

三、抵當權設定ノ方法

土地ノ賣買讓渡ト土地ヲ債務ノ擔保ニ供スルトハ同一デナイ。賣買讓渡ハ土地所有權(永租權)ノ全部移讓デアツ

テ讓渡人ト讓受人トノ關係ハ斷絶スルモノデアル。

而シテ擔保ニ供シタ場合(抵當權設定)ニハ一定期限內ニ債務ヲ辦濟スレバ土地所有權(永租權)ヲ回復シ得ルモノデアル。

此方法モ亦同一國籍人間及ビ異國籍人間ノ場合ニヨリ自ラ手續ヲ異ニシテヰル。

一、同一國籍人間ノ場合

日本人間ノ場合ニハ永租權登記ノ効力ハ我不動產登記法ニ準ジテ判定セラレ、日本人間ノ抵當權設定ハ單ニ登記主義ニ基キ領事館土地台帳ニ登記スルヲ以テ十分デアルトモ解セラルルガ、若シ抵當權設定者ガ其儘地券ヲ所持スルナラバ、或ハ之ヲ第三者ニ讓渡シ或ハ亦入質スルコトガ出來テ善良ナル抵當權者ノ利益ヲ侵害スルコトナシトセヌ。故ニ抵當權者ハ斯ル危險ヲ未然ニ防止スル爲ニ抵當權設定ノ登記ト共ニ地券ヲ占有スル方法ヲ採ツテヰル。乍然地券ノ所有ノミデハ未ダ債權確保ノ實効ヲ完全ニ收ムル事ハ出來ナイ。卽チ地券ノ名義書換ノ手續ヲ完了シテ置カネバ自ラ之ヲ處分シテ辦濟ニ充當スルヲ得ナイカラデアル。依テ更ニ確實ナ方法トシテハ永租地券名義ヲ債權者ニ變更スル所謂賣渡抵當ノ方法ガ實行サレテヰル。外國人間ニ於テモ略同樣デアル。而シテ此手續ハ形式上全然賣買讓渡ノ場合ニ於ケルト同一デアル。

二、異國籍人間ノ場合

理論上前項ノ場合ト同樣デアルガ、實際ニハ右賣渡抵當ノ方法ニ依リ債務者ノ地券ヲ債權者名義ニ『トランスファー』スル方法ヲ採ルヲ常トシテヰル。

但シ支那人トノ場合ニハ外國人ガ債權者支那人ガ債務者ナル時方單等(支那地券)ノ土地ヲ擔保ニ入ルルニハ所謂賣渡抵當ノ方法ニ依リ債權者名義ノ永租權ヲ設定スル。

支那人ガ外國人名義自己所有ノ永租土地ヲ擔保ニ入レル場合ニハ前述(イ)ノ場合ト同一デアルガ、權柄單ノ三ニヨル賣渡抵當ノ方法モ行ハレテヰル。

以上ノ如ク賣渡抵當ノ場合ニハ債權者ハ擔保契約書ニ於テ一定期限內ニ債務辦濟ヲ受ケタル時ハ地券名義ヲ債務者ニ變更ス可キ義務ヲ負擔シ居ルニ過ギナイ。故ニ若シ債權者ガ地券ヲ善意ノ第三者ニ讓渡シタトセバ其契約ハ完全ニ效力ヲ生ジ、第三者ハ其權利ヲ合法的ニ取得シ、債務者ハ直接第三者ニ對シ自己ノ權利ヲ主張スルコトハ出來ナイ。

四、土地永租權ノ登記

土地永租權ノ取得及ビ讓渡ハ支那慣習法上ノ原則タル地券主義ニ依ツテ判定セラルルガ、亦民國二十五年來支那ハ登記制度ヲ實施シテヰル上(但シ前述ノ如ク登記濟ハ僅少デアル)租界章程ハ第四條及第五條ニ領事館登記ヲ規定シテヰルカラ之ニ依ツテモ規定セラレネバナラヌ。

然シ地券ノ存在ヲ無視スルニ於テハ慣習法上ノ地券主義ト相容レズ延イテハ租界章程ノ規定ニ違反スル結果ニモナルデアラウ。

故ニ永租權ノ得喪變更ニヨリ名義ノ變更其他ヲ必要トスル時ハ單ニ登記ノミナラズ地券モ亦之ニ應ジテ同樣ノ手續ヲ要スル。卽チ地券ト登記トハ手續上常ニ相關聯シテ不可分ノ關係ニアリ、兩々相俟ツニアラザレバ土地永租

權ノ法律關係ヲ確定及其維持ヲ全クスルコトガ出來ナイノデアル。

又前述ノ如ク登記ノ効力ハ自國人以外ニ及バヌカラ異國籍人間ノ時ハ登記ヲ抹消シ、權利者所屬ノ領事館ニ移轉セネバナラヌ。之レ亦永租地券ノ國籍主義ト相俟ツテ『トランスファー』ノ手續ヲ採ラネバナラヌ他ノ理由ヲナシテキル。

二、敵國不動產ニ關スル布告

（一月九日陸海軍最高指揮官）

一、敵國（米合衆國、英帝國）ノ公私有ニ係ル在上海地方不動產ニ關スル諸權利ニ關シ、

本日以降ニ於ケル移讓、變更ハ敵產タル性質ヨリ生ズベキ結果ヲ免レムガ爲行ハレタルモノニ非ザルコトヲ立證スル場合ヲ除ク外之ヲ無効トス。

本日以前ニ行ハレタル移轉變更ト雖モ善意合法ナルコトヲ立證シ得ザル限リ之ヲ無効トス。

七月二十六日以降ニ於ケル移讓、變更ニ關シテハ關係當事者ニ於テ本日ヨリ七日間以內ニ右移讓、變更ニ關スル信憑書類ヲ日本國總領事館ニ提出スベク右期間內ニ信憑書類提出ナキ移讓、變更ハ無効ナリト看做ス。

（註）第三項ノ信憑書類ハ原文ノホカ寫シ五通ヲ添ヘ日本總領事館經濟部ニ屆出ルコト。

三、敵國不動產ニ關スル權利ノ移讓變更禁止

（十一月十日陸海軍最高指揮官布告）

帝國陸海軍ハ上海地方ニ於ケル不動產ニシテ敵國領事館ニ登記セラレアル一切ノモノ及其ノ他ノ領事館ニ敵國人名義ニヨリ登記セラレアル一切ノモノニツキ其ノ眞正權利者ノ如何ニ拘ラズ敵產處分ノ解除セラレザル限リ之ヲ敵產トシテ處置スルモノナルヲ以テ之ニ關スル一切ノ權利ノ移讓、變更ヲ禁止ス。

右ニ違反シタルモノハ軍律ニヨリ處斷スベシ

右ニ關シ敵國人ニ非ザル眞正權利者ハ本日以降三個月以內ニ自己ノ權利ヲ立證スベキ證憑書類ヲ新敵產管理委員會ニ提出シ敵產處分ノ解除ヲ申請スベシ

眞正權利者ニシテ前項ノ申請ヲ怠リタル場合ハ其ノ權利ヲ認メズ

右布告ス

第三項　公共事業ニ關スル措置要領(案)

(昭和十七年八月二十一日提出)

公共事業ニ關スル措置要領

(一)方　針

上海ヲ大東亞戰爭完遂竝ニ大東亞共榮圈確立ノ爲ニ其ノ重要基地ノ一トシテ活用セントスルニ際シ公共事業ガ有スル社會公共的意義ノ重要性ト其ノ產業上ニ占ムル地位ノ重大性トニ鑑ミ爰ニ上海ノ公共事業ニ對シテ採ラルベキ措置ノ根本方針トシテハ

(一)從來ノ米英的性格ヲ拂拭シテ我ガ方ノ完全ナル經營ニ移スノミナラズ

(二)平和克復後ト雖モ我ガ方把握ヲ喪失セザルヤウ終局的處理ノ方法ヲ講ズルト共ニ

(三)上海地區ヲ一單位トシテ業種別ニ經營一體化ヲ確立シ計畫性アル且能率的ナル運營ヲ計リ、併セテ

(四)其ノ本來ノ生命トスル公益的使命ヲ發揚シテ民心ヲ我ガ大東亞共榮圏建設ノ大精神ニ包擁シ以テ我ガ指導下ニ於ケル總力戰態勢ノ强化ニ資セシメンコトヲ期スルモノトス。

(二)措置要領(全般的)

一、企業ニ關スル措置

上海共同租界及其ノ周邊地域内ニ在ル米英系公共事業ハ之ヲ政府ニ移管シタル上或ハ其ノ過渡的便法トシテ軍管理ノ儘、政府又ハ軍之ヲ

(第一案)

既存ノ中支那振興株式會社ニ現物出資又ハ敵産信託ヲ行ヒ中支那振興株式會社ハ政府ノ出資財産又ハ軍ノ信託財産ノ出資又ハ信託ヲ受ケタル後之ヲ業種別ニ分チテ夫レ夫レ華中電氣通信、華中水電、大上海瓦斯、華中都市公共汽車等ニ對シ現物出資ヲ行フ。

(第二案)

既存ノ中支那振興株式會社ニ現物出資又ハ敵産信託ヲ行ヒ、中支那振興株式會社ハ政府ノ出資財産又ハ軍ノ信託財産ノ出資又ハ信託ヲ受ケタル後之ヲ業種別ニ分チテ夫レ夫レ現物出資シ新タニ上海電話株式會社、上海電力株式會社、上海瓦斯株式會社、上海水道株式會社、上海交通株式會社等ノ日本法人ヲ設立ス。

(第三案)

上海振興株式會社(假稱)又ハ上海信託投資株式會社(假稱)ヲ新設シ之ニ現物出資又ハ敵産信託ヲ行ヒ、上海振興株式會社又ハ上海信託投資株式會社ハ政府ノ出資財産又ハ軍ノ信託財産ノ出資又ハ信託ヲ受ケタル後之ヲ業種別ニ分チテ夫レ夫レ現物出資シ新タニ上海電話株式會社、上海電力株式會社、上海瓦斯株式會社、上海水道株式會社、上海交通株式會社等ノ日本法人ヲ設立ス。

二、經營ニ關スル措置

上海共同租界及ビ上海特別市政府管下區域竝ニ能フベクンバ佛租界ヲモ含メ上海地區ノ經營一體化ニヨル計畫的且能率的運營ヲ行フコトトシ、右ノ爲

(第一案)

華中水電、華中都市公共汽車ハ法商電車電燈自來水公司ト技術的連繫ノ協定ヲ行フ(電話及瓦斯ハ共同佛共租界ヲ通ジ共通、以下再記セズ)。

(第二案及第三案)

上海電話、上海電力、上海瓦斯、上海水道、上海交通等ノ新設諸會社ハ夫レ夫レ華中電氣通信、華中水電、大上海瓦斯、華中都市公共汽車等ト技術的聯繫ノ協定ヲ行フカ、又ハ其ノ經營ノ委任ヲ引受クルカ、若クハ新會社ノ設立ニ際シ其ノ上海地區内ノ設備ノ現物出資ヲ求ム。上海電力、上海水道、上海交通ハ法商電車電燈自來水公司ト技術的聯繫ノ協定ヲ行フ。

(註)上海電話、上海電力、上海瓦斯、上海水道、上海交通等ノ新設ニ際シテハ其ノ首腦部ノ構成ハ能フ限リ華中電氣

通信、華中水電、大上海斯瓦、華中都市公共汽車等ノ邦人首腦部ヲ充當シ、人的構成ノ共通重複ニヨリ經營一元化ニ便ナラシムルコトヲ要ス。

三、資本ニ關スル措置

舊上海電話公司、舊上海電力公司、舊滬西電力公司、舊上海瓦斯公司、舊上海水道公司、舊上海電車公司、舊中國公共汽車公司等ノ株式ノ一部ヲ工部局、公董局、特別市政府及ビ中國人竝ニ樞軸國、中立國人ノ所有スル場合アルニ鑑ミ我ガ方ハ敵國人ノ持分ノミヲ肩代リスル建前トシ、後日事情吟味ノ上、

（第一案）

華中電氣通信、華中水電、大上海瓦斯、華中都市公共汽車等ノ增資株ヲ交付シ引替ニ舊株券ヲ回收ス。

（第二案及第三案）

政府ハ在支事業法（假稱）ヲ制定シ、上海電話、上海電力、上海瓦斯、上海水道、上海交通等ノ新設會社ヲ同法ニ據リテ設立セシム。以上ノ諸社ハ在支事業法ニヨリ有議決權株（甲種）ト無議決權株（乙種）トヲ發行シ、前者ハ日本人（前記特持會社ヲ含ム）ノミ之ヲ所有シ且其ノ讓渡質入等ニ制限ヲ附シ、後者ハ國籍ノ如何ニ拘ラズ之ヲ開放シ且其ノ自由賣買ヲ認ム。

工部局、公董局、特別市政府及ビ中國人竝ニ樞軸國、中立國人ノ舊株所有者ニ對シ右乙種株ヲ交付シ引替ニ舊株券ヲ回收ス。

（註）乙種株ハ舊株券ノ整理ノ爲ノミナラズ將來必要ナル場合ハ民族資本吸引ノ手段トシテ利用スル含ミヲ有ス。從ツテ上海衆業公所ヲ改組再開シテ速カニ右乙種株ノ上場取引ヲ行フヲ要ス。

四、特許契約ニ關スル措置

上海共同租界工部局、佛租界公董局竝特別市政府ニ對シテハ、第一案、第二案、第三案ノ何レニヨル舊事業繼承者タルヲ問ハズ、從來ノ契約ヲ參酌シ新特許契約ヲ締結シ以テ其ノ合法的經營ヲ行フ。

五、業務運營ニ關スル措置

差當リハ上海ノ生產增强ニ寄與シ且民生ノ安定ニ資セシメンガ爲、極力

（一）料金ノ統一

（二）料金ノ低下

（三）サーヴィスノ改善

ヲ考慮シ、從來ノ米英企業ノ資本的搾取ノ態度ヲ一擲シテ專ラ公益的職分ノ達成ニ努ムルト共ニ、將來ニ於ケル大東亞共榮圈ノ重要據點トシテノ上海ニ照應スル公共事業運營ノ準備ニ着手シ、コレニ必要ナル

（四）資材設備ノ維持擴張ノ計畫化

ヲ計ルモノトス。

（三）措置要領（業種別）

一、電氣通信事業ニ關スル措置

一、通信基地ノ建設及補強

東亞共榮圈ノ發展ニ伴ヒ海、陸、空運、繁榮、產業交易ノ增進ハ期シテ俟ツベキモノアリ。此ノ時ニ當リ立地的優越性ヲ有スル上海ノ重要性ハ益々增加セラルベシ。仍テ上海ヲシテ東亞ニ於ケル通信網ノ中心タラシムルト共ニ通信建設工作ニ於ケル各般ノ基地タラシムル爲、米英ノ豐富ナル經濟的遺產ヲ利用且補強シ以テ之等產業施設ノ育成ニ資スルモノトス。

(一)通信網ノ基地建設

上海ハ對外無線電信ノ基地タルニ適スル地理的條件ヲ備フル爲、事變前ヨリ支那ニ於ケル對外通信ノ中心タリ。又海底線ニ於テモ東亞ニ於ケル有數ノ根據地ナリシガ、今後ハ更ニ南方共榮圈ニ對スル通信ノ中樞タラシムル要アリ。仍テ有線、無線、電信、電話ノ各方面ニ亘リ通信網ヲ整備充實スル態勢ヲ整ヘ、中支經濟ト北方及南方經濟トノ聯關提携ニ資スル共ニ、日本、北支、滿蒙ト南方トノ間ノ連絡地點トシテ十分ナル能力ヲ發揮セシムルコトヲ期シ、且將來平和克復後ニ於テ大陸ト世界各國トノ間ノ通信放射線ノ再建擴張ニ備フルモノトス。

尙現在迄餘リ振ハザリシ中支船舶ノ上海無線通信ハ共榮圈ノ發展ト輸送ノ活潑化ニ依リ將來飛躍的ニ增加スルモノト思ハルルヲ以テ、中支船舶無線ノ整備統合ヲ圖リ圓滑ナル海上通信ヲ行ハシメ以テ海上交通ノ安全及活躍ニ寄與スルモノトス。

(二)通信技術者養成機關ノ設置

中支及南方ノ通信發達ニ伴ヒ通信事業ニ從事スル技能者ノ需要ハ益々旺盛トナルベク、其ノ際上層指導階級ハ主トシテ日本人ヲ充ツルモ、中堅及下級技術者ノ全部ヲ日本ヨリ供給スルコトハ不可能ナルノミナラズ不經濟ナルヲ以テ、現地住民又ハ華僑ヲ利用スルヲ要スベシ。而シテ支那人ハ通信技術ニ於テ比較的優良ナル適性ヲ有シ、上海ニハ多クノ普通及高等教育機關アリテ之ヲ卒業シタル知識層ノ豐富ナル人的資源ヲ包藏スルヲ以テ之等華人青年ノ育成訓練機關ヲ設クルトキハ一ハ以テ大陸通信事業ノ要請ニ應ヘ他ハ以テ南方圈ニ對スル要請ニ應ヘ得ベシ。

(三)通信機器及線條製造工業ノ振興

通信機器及線條ハ銅、鐵、錫、鉛、ゴム等南方圈產出ノ資源ニ負フ所多キ處、熱帶地ニ於テ不適當トスル製造工業ヲ上海ニ興ストキハ資材ノ運搬ニ製品ノ配給將又技術ノ供給時間及勞力ヲ消費スルコト少ク且急ヲ要スル修理ニ便シ大陸及南方共榮圈ニ於ケル通信建設及保持ノ能率ヲ高ムルコトヲ得ベシ。尙之ガ設置ニハ相當ノ技術者ヲ要スルヲ以テ前段技術者養成ト竝行的ニ企劃スルヲ便トスベシ。

二、上海地區ノ通信組織ノ合理化

上海及中支ト東亞共榮圈諸地域トノ通信網ノ整備ノ問題ニ比スレバ上海地區內部ノ通信組織ノ合理化ノ問題ハ小ナルニ似タレドモ、上海再編成ノ視角ヨリスレバ又別個ノ問題無キ能ハズ。即チ上海ノ一體的發達ニ便シ且從來ノ人口及產業ノ跛行的中央集中ヲ防ギ優秀ナル郊外產業地帶ノ發達ニ資セシムルコトヲ目的トシテ左ノ如ク措置スルモノトス。

(一)上海地區ノ經營一體化

上海地區ニ於テ二個以上ノ系統ヲ異ニスル電話事業ヲ有スルハ甚シキ變態ニシテ、之ガ爲電話交換接續ヲ複雜ナラシメ、資本ノ二重投下ヲ來シ、當該事業者ハ固ヨリ利用者大衆ノ蒙ル不利不便尠カラザルモノアリ。上海ニ於ケル此ノ變態ハ租界ナル特異ノ行政機構ト其ノ間ヲ縫フテ便宜主義ヲ以テ進出シタル外國權益ノ特質ニ基クモノナルヲ以テ東亞新秩序建設ノ進行ト共ニ此ノ種舊體制ヲ揚棄シ實際ノ都市發展ニ順應シタル綜合的普遍的電話組織ヲ編成スルノ要アリ。之ニ依ル利益ノ主ナルモノヲ擧グレバ

(イ)租界ト租界外トノ通話交換ヲ單純且迅速化シ得ルコト

(ロ)租界ノ行政區域ニ制約セラレズ實際ノ都市發展ニ應ジテ加入區域ヲ擴張シ得ルコト、

(ハ)施設ノ重複、經營ノ合理化、料金ノ適正均衡ヲ圖リ得ルコト、

(ニ)市外通話、外國通話等ノ取扱ヲ簡易迅速ナラシメ得ルコト、

等ニ指ヲ屈スベシ。

(二)將來ノ擴張計畫

上海ニ於ケル電話ノ普及率ヲ東亞ニ於ケル他ノ主要都市ト比較スレバ人口百人當リ電話機數ハ神戸大阪ハ固ヨリ香港又ハ**マニラ**ニ比スルモ尙低位ニ在リ(**註一**)。此ノ割合ハ現在ニ於テモ大體同樣ト認メラルル處、之ヲ大阪程度ノ普及率ニ高ムルニハ尙二倍半ニ增設スルヲ要ス。

尙電話普及上ノ重要ナル要素トナルベキ電話料金ニ就テ見ルニ差シテ高率ナリトハ認メ難シ(**註二**)。

又ニ上海ニ於ケル電話機ノ增加狀況ハ平常時ニアリテハ概ネ一割乃至二割ナリ(**註三**)。上海ヲ將來大東亞通商ノ據點トシテ活動セシムル爲ニハ其ノ都市活動力ノ發展ニ應ジ通信機關ノ整備ヲ圖ルノ要アルベク之ガ爲ニハ尠クトモ每年一割乃至二割ノ增設ハ必要ト認メラル。

然レドモ現在ノ上海電話會社ノ設備ハ永ク右增設ニ應ジ得ザルベク、且華中電氣通信側設備トノ統合ノ行ハルルニ於テハ當然ノ結果トシテ

(イ)電話局ヲ增設スルコト

(ロ)六數字單位ノ番號トスルコト

等機器ノ根本的改修ニ着手スルコト必要トナルモノトス。

(註一)　主要都市電話普及率比較表(一九三九年度末現在)

	人口概數	電話機數	人口百人當電話機數
東京	六、四五八千人	二九〇千個	四・五〇
大阪	三、三二一〃	一七六〃	五・三一
神戸	九八九〃	四六〃	四・六八
上海	三、七五〇〃	七九〃	二・一二
香港	八五〇〃	二二〃	二・六六
マニラ	八五〇〃	二二〃	二・六六

（註二）　主要都市電話料金比較表

	基本料	度數料	備考
大阪	年額　五五圓	五錢	
神戸	同　四五〃	四〃	
上海（營業用）	同　五六〃	三・三〃	儲備券額ヲ軍票ニ換算

（註三）　上海電話會社電話機增加狀況（上海電話公司營業報告書ニ依ル）

年次	電話機數	前年ニ比シ增加率
一九三〇年	三五、四三二	九％
一九三一年	三八、四八二	一六％
一九三二年	四四、六〇五	一〇％
一九三三年	四九、四〇一	二三％
一九三四年	五四、八六一	（一）五％
一九三五年	五一、一九〇	八％
一九三六年	五六、〇二〇	（一）一九％
一九三七年	四五、四九五	三八％
一九三八年	六三、三五五	二六％
一九三九年	七九、五五四	一二％
一九四〇年	八八、七六〇	六％
一九四一年	九三、九六九	

（三）機材ノ供給並ニ修理設備

電話擴張ニ要スル機材ハ差向キ之ヲ日本ニ期待スルノ外ナキモ、電話用機材ハ大東亞共榮圏ノ發展ニ伴ヒ其ノ需要增加スベク、潤澤ナル供給ヲ期待スルコトヲ得ザルヲ以テ、電話架設ニ付テモ重點主義ヲ採用シ、上海再編成上必要缺クベカラザルモノヨリ順次架設スル建前トシ、擴張計畫ヲ策定シ右計畫ニ基キ必要缺クベカラザル機材ハ物動計畫ニ於テ重點的ニ配當ヲ與フル樣考慮スルノ必要アリ。尙上海ニ電話機製造工場ヲ起ス場合ハ尠クトモ上海及中支全體竝ニ能フベクンバ南支及南方ニ對スル供給力ヲ有セシムル規模ノモノタラシムルヲ要ス。

電話機等ノ修理施設トシテハ現ニ華中電氣通信ノ受託經營ニ系ル中國電氣公司ノ工場ヲ或程度擴充スルコトニ依リ當座ノ需要ヲ充足スルモノトス。

（四）料金ノ統一

現在上海地區ニ於ケル電話料金ハ上海電話公司及華中電氣通信雙方ニ依リ左ノ如ク相異ルモノヲ採用シ居レリ。

	基本料月額 營業用	基本料月額 住宅用	度數料	備考
上海電話公司	二六・〇元	一七・〇元	一八仙	
華中電氣通信	五五・五元	四四・四元	ナシ	儲備券ニ換算額

右料金ノ差異ハ營業機構ノ相違及料金制度ノ差ヨリ來ルモノニシテ、經營ノ一體化ニ依リ容易ニ統一スルコトヲ得ルモノト考ヘラル。

右料金額ヲ日本圓ニ換算シ日本內地主要都市ニ於ケル料金ト比較(前出)スルトキハ大體近似ノ價値ヲ示シ居ルモ、軍票ノ購買力ト內地圓ノ購買力即チ物價ヲ考慮スルトキハ必シモ改訂ノ餘地ナキニ非ザルベシ。

尙上海地區ニ於ケル電話料金ヲ決定スルニ當リテハ單ニ同地區ノ經營採算ノミヲ目標トセズ、廣ク中支全般ノ電氣通信事業運營トノ關係ヲモ參酌スルノ要アルベシ。電氣通信ノ如ク其ノ施設ノ普及ヲ發達ノ要件トシ而モ都會地ニ於ケル採算特ニ有利ナルモノニ在リテハ、都會地ト地方トガ別個ノ經營ニ屬スル場合ニ於テ此ノ點ニ付特ニ深甚ナル考慮ヲ拂フ要アリ。然ラザレバ都會地ニ於ケル料金ヲ不當ニ低廉ナラシムル反面、地方ニ於ケル通信施設ノ普及ヲ阻害シ都會ト地方トノ間ニ跛行的經濟發達ヲ誘致シ、建全ナル共榮興亞ノ理想ニ背反スル結果ヲ招來スル虞ナシトセズ。卽チ其ノ料金政策ハ一國全般ノ文化行政的見地ニ立チ綜合的調整ヲ加ヘタルモノナルコトヲ要ス。

二、電氣事業ニ關スル措置

電氣事業ハ獨占性ト公益性ヲ多分ニ有スルノミナラズ凡百產業ノ原動力ヲナシ且ツ國防上將タ治安維持上不可缺ノモノナルヲ以テ上海ヲ大東亞戰爭完遂及大東亞圈確立ノ重要基地トシテ利用センガ爲左ノ如ク措置スルモノトス。

一、發電計畫

現在ノ負荷狀態ヨリ考慮セバ當分ハ最モ優秀設備ニシテ能率ヨキ上海電力發電所一八三、五〇〇WKヲ專ラ運轉シテ可及的低廉且ツ良質ノ電氣ヲ供給スベク企圖シ華中水電及法商電車發電所八〇、八二〇KWハ豫備化スルヲ妥當トス。

而シテ大上海ノ再編成セラレ更ラニ一三〇、〇〇〇KW增加シテ三〇〇、〇〇〇KWノ負荷ヲ目標トセバ華中水電五〇、五〇〇KW設備ハ舊ク充分ナル運轉ニ堪エズ、又法商電車三〇、三二〇KWノ汽力發電ナル現狀ニ鑑ミ少クトモ一〇〇、〇〇〇KW程度ノ火力發電所ノ增設ヲ必要トスベシ。此ノ場合上海電力ニ於テ工事半バノ一五、〇〇〇KW程度ノ竣工ヲ急グハ勿論、別ニ地點ヲ選ビ新發電所ヲ建設セラザル可ラズ。

新發電所ノ位置ヲ何レニ選ブカハ再編成後ノ大對海都市計畫ト對應シテ定ムベキモ國防上ノ見地ヨリ又將來工業地帶トシテ有望ナル地域ヲ選定スベキハ勿論ナリトス。

(註)地區ノ電氣需用ガ將來幾何ノ割合ヲ以テ增加スルカハ目下再編成ノ緖ニ着キタル上海トシテ豫測甚ダ困難ナリ。然シ現下大東亞戰完遂途上ニ在ル我國並ニ東亞共榮圈內ノ物資或ハ資金事情ヲ考量スルトキハ再編成ノ形態ガ一應整ヒタル曉ニ於テ大體支那事變前ノ需用ニ復活シ之ヲ基礎トシテ漸增スルモノト想定セバ可ナラン。事變前ノ電氣最高負荷左ノ如シ。

華中水電區域	四九、八〇〇K・W	
上海電力	一六〇、〇〇〇〃	(含滬西電力)
法商電車電燈	二〇、〇〇〇〃	
計	二二九、八〇〇〃	

即チ近キ將來二三〇、〇〇〇KWノ最高負荷ヲ豫想セラレ、爾後年八%程度ノ增加ヲ豫定セバ十ヶ年後ニ於テハ三〇〇、〇〇〇KWノ電力需用ヲ豫想セサル可ラズ。尙ホ支那事變前ノ增加率ハ年四%程度ノ低キニアルモ之ハ消費都市上海ノ行詰リヲ示セルモノニシテ再編成後ノ需用豫想ニハ適用シ得ズ。

二、送配電計畫

發電計畫ニ伴ヒ中心發電所タルベキ上海電力發電所ト華中水電及法商電車間並ニ新設發電所間ノ連絡送電線ヲ建設スルヲ要ス。此ノ中前二者間ハ現下ノ緊急ナル必要上既ニ線路建設計畫成リタル如キモ之ヲ急速ニ實現スルト共ニ將來ノ需要狀況ヲ案ジテ根本的ノ送電網ヲ計畫スルヲ要ス。

配電線ハ右送電計畫ト需用密度ヲ基礎トシテ考慮スベク現在ノ越界路地區周邊ノ錯綜セル線路網ハ速カニ整理シテ投資ノ重復ヲ規正スベク、又佛租界ト他地域ニ於ル配電電壓ノ相違ハ研究ノ上統一スルヲ要ス。

三、燃料ノ確保

地理上上海ハ水力發電不可能ニシテ專ラ火力ニ依ラザル可ラズ。從テ燃料ノ確保ハ事業ノ安定ト、豐富低廉ナル電氣ノ供給ヲ企圖スル上ニ絕對ニ必要ノ事項ナリ。

中支需用炭ハ現在ハ勿論將來ニ於テモ大體ニ於テ北支及中支產炭ニ依存セザルヲ得ズ。而シテ此ノ北支及中支炭ハ殆ンド悉ク聖戰ノ結果我ガ方ノ手中ニ在ルヲ以テ、近キ將來ニ於テ中國又ハ第三國ニ移讓スル如キコトハ無カルベシ。故ニ電氣事業トシテハ之ヲ優先的ニ確保スル措置ヲ講ズルコト緊要ナリ。而シテ前記產炭ハ各種アリ、必ズシモ現在ノ發電設備ニ適當ナリト云ヒ得ザルヲ以テ、各炭ノ燃燒性ヲ充分ニ研究スルト共ニ又現在ノ設備ヲ以テ各炭ヲヨリ經濟的ニ消化シ得ル如ク改善スルコト必要ナルベシ。

四、電氣消費規正ノ問題

現在特ニ租界ノ電氣使用ハ自由主義經濟時代其ノ儘ノ狀態ナルヲ以テ之ヲ我國ノ要望スル所ニ據テ消費規制スルヲ要ス。規制ハ單ニ燃料事情ニノミ依ルベキニ非ラズ。我國ノ意志ニ遵據スル再編成大上海ノ重要主義ニヨリ考慮セラルルハ勿論ナルモ、需用大衆ノ大部分ガ華人ナル點ヨリ見テ民生方面ノ需用ヲモ重要視シ、全上海住民ノ生活ヲ安定セシムルコト肝要ナリ。

五、電力料金ノ統一

現在ノ四事業者ハ左表ノ如ク異ル料金ヲ徵收ス(昭和十七年六月分)

種別		華中水電	上海電力	法商電車
電燈		〇・三六圓	一・四九元	一・四九元
電熱		〇・一五	〇・八四	〇・八四
電力	小口	〇・一五	〇・六四	〇・七三
	大口	〇・一一	〇・五四	——

(註)(イ)本表ハ基準一キロワット時料金ナリ。

(ロ)大口電力ハ契約容量二〇〇KW同負荷率五〇%ノ場合ナリ。

但シ外ニ準備料金七・五〇元ヲ徵收ス(上電)。

各事業者ハ創設ニ夫レ夫レノ特殊事情アリ、電力原價及需要狀態ノ異ルニ從テ斯ク異ル料金ヲ設定シタルモ全區域ガ一ノ統制會社經營下ニ入ル曉ハ當然全區域ヲ一單位トシテ公正、妥當ナル料金ニ統一スルヲ要ス。此ノ場合事業ノ公共性ニ鑑ミ可及的低廉ニ且ツ社會政策的意味ヲ多分ニ考慮スベキハ勿論ナリ。

三、瓦斯事業ニ關スル措置

瓦斯事業ハ從來家庭燃料並ニ輕工業熱源トシテ發達シ來リタルモ、近年ハ一般化學工業並ニ軍需工業ノ發展ニ伴ヒ、コレガ基礎材料ノ生產ニ不可分ノ地位ヲ有スルニ至レリ。然ルニ上海ニ於ル瓦斯事業ハ大衆ニ於ル斯種事業トシテハ普及率極メテ不良ニシテ其ノ公共使命スラモ充分發揮シ居ラズ、此ノ部面ニ於テモ需要增大ノ餘地多分ニアリ。況ンヤ再編成上海ノ生產活動ガ展開セラレ諸生產ノ增强ヲ期待スルニ於テハ將來益々需要向上ノ趨勢ニアリ。右ノ事態ニ對處スルタメ左ノ如ク措置スルモノトス。

一、供給設備ノ連繫

上海瓦斯會社ノ瓦斯供給量ハ原料ノ關係ヨリ全需要量ノ八五%ヲ漸ク充シ得ル實狀ニテ冬季需要增加期ニ於テハ供給不足ヲ惹起スベキ緊迫狀態ニアリ。然ルニ大上海瓦斯公司ハ新都市建設ノ諸事情ニ因リ產出量ノ七七%ヲ占ムル余剩瓦斯ヲ自家用ニ供シ、事業ノ重點ヲ**コークス**生產ニ置カザルヲ得ザル變態的運營ヲ爲シ來レリ。仍テ茲ニ兩社ノ保有遊休並ニ貯發資材ヲ動員シ供給本管ノ連結ヲ爲スニ於テハ、前記余剩瓦斯量ヲ以テ上海瓦斯會社ノ現在供給量ノ約一割相當量ヲ補給シ得ルコトトナリ、戰時下重要資源ノ有效適切ナル活用ノ實ヲ擧ケ得ベシ。

二、設備ノ擴充

上海ニ於ル瓦斯需要狀況ハ

業種	昭和十五年	十六年	十七年(一—六月)
家庭用	七一%	七四%	八六%
工業用	二九%	二六%	一四%

ニシテ、家庭用ニアリテハ遂年增加ヲ示シ今後共益々增大ノ一途ヲ辿ルモノト推斷セラルルモ、一方工業用ニアリテハ一應著減セリ。然シ大東亞共榮圈ノ重要據點トシテ發足スベキ立地條件ヲ具有スル當地ニ於テ近キ將來需要ノ激增スベキハ豫想ニ難カラズ。從ツテ設備ノ擴充ヲ必要トスベシ。現在一ケ年間ノ瓦斯供給能力及昭和十六年度瓦斯供給量實績左ノ如シ。

事業者	需要戶數	瓦斯供給量(百萬立方呎)	瓦斯供給能力(百萬立方呎) 重油併用	瓦斯供給能力(百萬立方呎) 石炭使用
上海瓦斯	一八、〇〇〇	一、一四九	一、四六〇	一、〇九五
大上海瓦斯	一、〇〇〇	一三	一二九	一二九
合計	一九、〇〇〇	一、一六二	一、五八九	一、二二四

(註)(一)上海瓦斯需要者ノ內譯ハ日本人四〇%、第三國人四四%、華人一六%ナリ。大上海瓦斯需要者ハ全部日本人ナリ。

(二)日本ノ大都市ハ何レモ數十萬ノ瓦斯需要者ヲ擁シ、殊ニ東京市ハ百萬戶ヲ突破セリ。又工業用瓦斯用量ハ常

ニ家庭用ヲ凌駕スル勢ニアリ。コレニ對シ上海ノ工業用瓦斯使用量ハ支那事變直前ニ於テ全使用量ノ三分ノ一强、現在約七分ノ一ナリ。

(三)事變前上海ニ於ル瓦斯需要趨勢ヲ見ルニ工業用ニ於テ年々漸增シ、就中大口供給ハ年三〇%以上增加セリ。然ルニ事變ノ影響ヲ蒙リテ一時低下シタルモ、昭和十五年ニ至リ漸ク其ノ量ニ於テノミ前ノ水準ニ恢復セリ。一方家庭用ハ事變後ニ於テモ年々增加シ、大東亞戰爭後ノ半ヶ年間ニ於テモ工業用ガ前年同期ノ半ニ減ジタルニ反シ依然上昇傾向ヲ辿レリ。

約四百萬ノ厖大ナル人口ヲ有スル上海ガ現在瓦斯使用實績ノ少クモ十倍ヲ費消スベキコトヲ豫想シテ、現在ハ資材ノ關係上不可能ナルモ將來ハコレニ必要ナル設備ヲ擴張シ低廉且便利ニ瓦斯ヲ供給スルヲ要ス。

三、供給條件ノ統一

兩社現行瓦斯料金・供給熱量等供給條件ハ略々相似タレ共、同一公共事業ガ同一都市ニ於テ相異レル供給條件ヲ採用スルハ不合理尠カラザルニ依リ之ヲ統一スル必要アリ。又公共事業ハ其ノ性質上獨占的ナル爲誤ツテサービスノ徹底ニ遺憾ナシトセズ、剩ヘ米英的個人主義經營方針ハ屢々需用家ノ利害ト相對立セル例アリタルヲ以テ修正ヲ要スベシ。

(註)

事業者	容量單位	供給熱量
上海瓦斯	立方呎	三、八〇〇瓩カロリー
大上海瓦斯	立方米	四、〇〇〇瓩カロリー

四、工場設備ノ共用及副生物コークスノ統制

上海瓦斯工場ハベンゾール、クレオソート、ナフタリン、ピッチ等ノ回收設備ヲ有シ、大上海瓦斯ニテ生產スル粗タールヲ精製シ軍需資源ノ回收ヲ計リ得ベシ。殊ニ低溫乾溜工業ハ軍需充足ノ觀點ヨリ瓦斯工場ニ於テモ將來生產設備ノ擴充セラルルニ當リテハ再編成上海ノ性格ニ即應シ計畫ヲ樹立スベキモノト思料ス。

次ニ大上海瓦斯ハ創立以來當局ノ物動計畫ニ基キ其ノ產出ニ係ル工業用コークスノ配給統制ヲ上海其他中支都市ニ對シ實施シ來リ、上海瓦斯ノ生產瓦斯コークスモ亦大東亞戰爭後ハ我ガ方物動計畫ノ枠內ニ包括セラルルコトトナリタリ。然レドモ瓦斯コークスノ用途ハ輕工業用燃料、家庭用燃料並ニ其ノ原料トシテ民生ト重大關ヲ有スル外、非鐵金屬鑄解用燃料トシテ大上海瓦斯コークスノ需要ト競合スル處レナシトセザルヲ以テ、コレガ統制ノ强化ヲ必要トスベシ。

仍テ兩社ヲ中心トシテ小生產業者ヲ結合シ强力ナル統制組織ヲ結成シタル上、業種別、用途別ニ嚴密ナル需要ノ調査ヲ爲シ、再編成上海ノ要請ト睨合セツツ重點主義ニ則リ配給ノ統制ヲ行ヒ、以テ需給ノ均衡、價格ノ適正ヲ期スルコト緊急事ナルベシ。

四、水道事業ニ對スル措置

水道ハ市民保健衞生上不可缺ナルノミナラズ工業用水トシテモ重要ナルヲ以テ再編成大上海ノ重要性ニ鑑ミ將來益々發達普及セシムベキ緊要ノ事業ナリ。

然ルニ現在ハ華人ノ衞生思想低級ナルニ因リ寒心スベキ普及狀態ニ在リ。將來ハ必ズ法的ニ强制使用ニ迄徹底セシムル要アリト思料セラルルガ故ニ現在ノ施設狀態ヲ利用シテ一段ト普及促進ヲ計ルト共ニ左ノ如ク措置スルヲ

妥當ト認ム。

一、水道計畫

現在ノ各水道設備配水能力ノ區域綜合ハ一日七三〇、〇〇〇立方米ニシテ其ノ配水實績ハ一日平均四〇〇、〇〇〇立方米ナリ(註)。故ニ區域全體ヲ平均セバ四五%程度ノ設備餘裕アルヲ知ル。

(註)　配水能力ト配水實績

事業者名	日配水能力	日平均配水量	配水余力割合
華中水電	二三五、〇〇〇立方米	六四、一〇〇立方米	七三%
上海水道	三九五、〇〇〇〃	二四八、八〇〇〃	三七〃
法商電車	一〇〇、〇〇〇〃	八九、〇〇〇〃	一一〃
計	七三〇、〇〇〇〃	三九九、九〇〇〃	四五〃

右設備餘裕ニ對シ今後ノ需用增加ヲ豫想(註)スルニ、大體十年後ニハ一日平均配水量五五一、五〇〇立方米トナリ、現在ノ事業者別設備ニ分チテ考フルニ華中水電ニ於テハ五七%、上海水道ニ於テハ一六%程度ノ配水余力アルモ、法商電車ニ於テハ二〇%程度ノ不足トナリ設備增大ノ必要ニ迫ラル。

(註)事變前ノ上海(專ラ消費都市トシテ發展シタル關係上水道ノ需用增加率極メテ少ク、事變後地方民ノ上海逃避盛ニシテ兩租界ノ人口激增シタル期間ニ於テサヘ年四%程度ナリ。

再編成後ノ大上海ガ現存ノ生產設備ヲ基礎トシテ發展スルモノトセバ需用家ノ大宗ヲ占ムル華人ノ衛生思想ガ向上セザル限リ飛躍的ニ需用增加ヲ期待スルコトハ困難ニシテ兩租界三%、周邊地區五%程度ノ增加率ト推定セバ大過ナカラン。十年後ノ配水量豫想ト設備能力トノ關係左ノ如シ。

區域	一日配水能力	十年後豫想一日平均配水量	配水余力割合
華中水電	二三五、〇〇〇立方米	一〇〇、四〇〇立方米	五七%
上海水道	三九五、〇〇〇〃	三三一、五〇〇〃	一六〃
法商電車	一〇〇、〇〇〇〃	一一九、六〇〇〃	不足二〇〃
計	七三〇、〇〇〇〃	五五一、五〇〇〃	二四〃

從テッ緊急ノ問題トシテハ現在ノ三事業者施設配水管(送水管ヲ含ム)ノ連絡實施ナリ。次デ現在設備ノ擴張又ハ新水廠建設ニ着手セザルベカラズ。

新水廠ヲ建設スル場合何レノ地點ヲ選ブベキカ。其ノ際水量ノ豐富ノミニ重點ヲ置クベキニ非ラズ。原水ノ良質ヲ第一條件トシ次ニ一朝有事ノ際ニ備ヘテ水廠分散ヲ賢明トナス。現在ノ三事業者水廠ハ共ニ黃浦江ニ取水セルガ黃浦江ハ濁度少キモ沿岸ヨリノ汚染多ク特ニ病源菌ノ多キ實情ニ在ルヲ以テ將來建設セラルベキ水廠ハ揚子江水ニ選定スルヲ適當トスベシ。

二、水道使用ノ法的强制實施

大上海市民ヲ大多數ヲ占ムル華人ノ衛生思想、就中水道ニ對スル思想ハ驚クベキ低位ニアリ。每年傳染病其他惡疫ノ流行ヲ來スハ周知ノ事實ニシテ文化都市トシテ實ニ寒心スベキ實情ニ在リ。而シテ華人ノ衛生思想ヲ一朝ニシテ先進國ノ水準ニ迄上昇セシムルコトハ現在ノ施策特ニ支那側ノ夫レヲ以テシテハ百年河清ヲ待ツニ等シキモノアルヲ以テ、此ノ際我ガ方トシテハ工部局及市政府ヲ動カシテ水道ヲ法的ニ强制使用セシメ、井水又ハ河水ノ使用ニ强度ノ制限ヲ加フルコトハ急務中ノ急務ナリ。

勿論此ノ場合現在ノ水道施設費及ビ水道料金ヲ以テシテハ單獨ニ使用シ得ザル向多數ナルベシト思料セラルル

ヲ以テ、供給事業者トシテハ共同水道栓ノ普及或ハ賣水施設ノ增加ヲ徹底シ、公共事業タルノ本質ヲ發揮スルコト緊要ナリ。

三、水道料金ノ統一

需用大衆ニ最モ關係アル供給料金ハ次表ノ通リナリ。

事業者	家庭用	營業用
華中水電	○・二三圓	○・二三圓
上海水道	○・三七元	○・四八元
法商電車	○・五二元	○・五二元

（註）本表ハ消費量最低段階ノ一立方米料金ナリ。
上海水道ハ家庭用家賃五〇元、營業用一〇〇元ノ場合トス。

各社經營事情ヲ異ニシ、斯ク異ル料金ヲ實施セルルモ、新會社ハ事業ノ公共性ト保健衞生上ノ見地ヨリ可及的低廉ノ料金ニ之ヲ統一スルヲ要ス。

五、交通事業ニ關スル措置

上海ニ於ル都市交通事業會社ハ從來市政府管下、共同租界、佛租界等行政地域別ニ、又電車、バス等交通機關ノ種類別ニ夫々亂脈ナル企業型態ヲ存續シタリシガ、戰爭ヲ契機トシテ市政府管下及共同租界內ニ於ケル交通事業ノ經營一元化ハ之ヲ實現セシメ得タリ。然レ共現狀ハ未ダ其ノ形式ガ一應整備セラレタルニ過ギズ、進ンデ佛租界ノ電車・バスヲモ打ツテ一丸トスル一元的交通統制ヲ完成シ、交通輸送ノ圓滑化ト簡易化ヲ實現スルト共ニ、更ニ上海再編成ニ伴フ新都市計畫ノ樹立ニ併行シ高速度交通機關施設ノ計畫ニ邁進スベキモノトス。

一、交通事業ノ一元的經營

上海ニ於ル交通機關ノ現狀ハ決シテ滿足スベキモノニ非ズ。只緊急止ムヲ得ザル最少限度ノ輸送能力ヲ保持スルニ過ギズ。近キ將來ニ於テ我ガ方施策ニ依リテ敵性企業施設ノ全的活動ノ再開センカ、上海ノ工業都市トシテノ勞働力需要俄然旺盛トナリ、人口ノ增加ハ必然的ニ交通量ノ增加ヲ招來スベシ。斯テ現狀ノ如キ舊態依然タル交通網ヲ以テシテハ到底滿足ナル交通需要ノ充足ヲ爲シ得ザルニ至ルハ瞭カナリ。

是レニ對處センガ爲ニハ交通事業ノ一元的經營ノ實現最モ必要ニシテ之ニヨリテノミ將來ノ交通對策ニ最モ適切ナル計畫性ト實行性トヲ與ヘ、且其ノ建設資材ノ確保、供給ニ關シ充分ノ考慮ヲ拂ヒ得ベシ。今交通事業ノ一元的經營ニ依ル利益ヲ列擧スレバ左ノ如シ。

（一）配車計畫ノ統制ニ依ル輸送ノ能率化
（イ）諸系統ノ統合改廢
（ロ）直通運輸
（ハ）始發終發運轉間隔ノ調整
（ニ）右ニ依ル經營費ノ低下
（二）工場施設ノ單一化

(三)料金ノ合理化

二、交通事業整備擴充ノ具體的計畫

現在ニ於ル上海ノ交通機關ハ僅カニ共同租界ニ於ル電車及無軌道電車、佛租界ニ於ル電車、**バス**及虹口側ニ於ル電車、**バス**ヲ數フルノミナリ(**註一、二**)。而シテ、其ノ中共同租界ニ於ル**バス**ハ其ノ燃料補給ノ道ナキ爲遺憾乍ラ全部休止ノ狀態ニアリ。佛租界ニ於ル**バス**モ燃料保有ニ限度アルヲ以テ(**註三**)何レ間モナク休止ノ運命ニ至ルハ瞭カナリ。之等租界ノ**バス**車輛ハ何レモ重油ヲ燃料トスル**ディーゼル**機關車ナルガ故ニ之等ハ代用燃料化ノ方途ナク、當分ハ重油ノ入手ヲ待ツ以外ニ使用ノ途ナシ。然レ共之等ノ車輛ガ現在尙相當ノ使用價値ヲ有シ、後日油ノ入手可能トナリ共ノ輸送開始ノ曉ハ相當量ノ交通需要ヲ充足シ得ルコト瞭ナルヲ以テ、之等機關ノ維持補修、殊ニソノ車體、機關ノ修理、組立工場ノ機械設備ノ維持ニツキテハ充分考慮ヲ拂フ必要アリ。

次ニ虹口側ノ**バス**車輛ハ全車輛代燃計畫ヲ樹立、既ニ其半ヲ完了シタルヲ以テ(**註四**)今後ハ單ニ虹口地區ニ止ラズ充分租界交通機關トシテノ使命ヲ果サシメ得ベシ。

次ニ電車ノ擴充ハ其軌道、車輛ノ資材ガ大部分軍需物資ニシテ、之ヲ近キ將來ニ入手シ得ルコトニハ疑問アリ、恐ラク容易ニ之ヲ充足シ得ルノ途ナキハ瞭ナリ。然レ共上海再編成ノ計畫ト併行シ、交通機關ノ積極的充實ヲ計畫セサルハ恰モ龍ヲ畫キテ眼ヲ點セザルニ等シカルベク、又將來產業勞働力ノ確保ノ意味ヨリ言フモ、高度工業都市ノ建設ニ伴ヒ高速度交通機關ノ必要ハ必至タルコトト睨ミ合セ、可能ナル限リ之ガ整備擴充ヲ計ルヲ要ス。

(**註一**) 現在上海ニハ左ノ四交通事業會社アリ。

事業者名	資本系統	業務	地區	拂込資本金
華中**バス**	日華	**バス**	閘北・南市・虹口	二、二六三、七五〇圓
				(內中國側出資一三、七五〇圓)
中國**バス**	英	**バス**	共租・滬西	二、〇〇〇、〇〇〇兩
上海電車	同	有・無軌電車	同　同	六七〇、〇〇〇磅
法商電車	佛	**バス**・電車	佛租	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇法

(**註二**) 四社ノ昭和十六年末現在車輛數並ニ同年度ニ於ル走行粁數及乘車客員數左ノ如シ。

社名	車輛數 **バス**	車輛數 電車	走行粁數	乘車員數 一ヶ年	乘車員數 一日平均
華中**バス**	一六九	—	六、三二一、四五八	二六、八三五、五〇八	七三、四九四
中國**バス**	一九五	—	一一、二八九、〇〇八	八九、〇〇一、八〇〇	二五五、〇〇〇
上海電車	— (無軌)	一〇七 一三四	一六〇、〇三五、一五六	一五〇、三二三、四六五	四一一、八四五
法商電車	五七 (無軌)	五〇 (**バス**) 三四 (電車)	四、〇九六、二五九	二九、一〇六、六三二	七九、七四四
合計	四二一 (無軌)	一五七 (**バス**)二一、七〇七、七二五 一六八 (電車)二三、七一一、九九四		一〇六、九七九、九七〇 一四四、九四三、九四〇 二五七、三〇三、四三五	二九三、〇九六 四一八、二三八 七〇四、九四一

(備考)有軌電車車輛數ハ電車及附隨車一組ヲ以テ一輛ニ計上セリ。

(**註三**) 法商**バス**ハ現在殺電用重油ヲ轉用シテ辛ウジテ其ノ運轉ヲ繼行セリ。

（註四）華中バスニ於ル代燃化計畫ハ着々進捗シ、六月末現在車輛數一七五輛中、既ニ九〇輛ノ代燃化ヲ完了セリ。

三、料金ノ統一

六月五日以降共同租界蘇州河以南地區ト虹口地區トノ間ニ電車直通運轉實施セラレ（註）、其ノ料金モ一元化セラレタルガ、法商電車ニ於テハ左ノ如ク異ル料金（區間最低料金）ヲ徵收セリ。

	一等	三等	無等
華中バス	―	―	〇・〇五圓
法商バス電車	〇・五〇元	〇・二〇元	〇・五〇元
上海電車	〇・三〇元	〇・一五元	―

將來一交通統制會社ニヨリ經營セラルルニ於テハ當然料金ノ單一化ヲ計ルベク、ソノ際可及的低廉ナル料金制度ヲ樹立スベキコトハ勿論ナリ。

（註）大東亞戰爭ノ勃發ニヨリ一時中斷セラレタル第一八號線及第二四號線ハ本年九月一日以降前ノ如ク共同租界ニ亘リ直通運轉ヲ再開セリ。

第五款　文化

第一項　上海文化問題ニ對スル意見書

（昭和十七年一月六日第八委員會起案）

序

十二月八日上海ニ起ツタ變化ハ、單ニ我ガ軍ノ租界進駐トイフ事實ヲ以ツテ評量シテハナラナイ。世界ノ歴史ガ、コノ日ヲ以ツテ新シイ時代ニ入ツタノデアル。上海ニ在ツテ、上海ノ問題ヲ考ヘル我々モ、從來トハ異ツタ、謂ハバ大東亞ノ立場ニ立チ、雄大ナ構想ト翹望トヲ以ツテ、此ノ問題ヲ檢討シ直スノ必要ニ迫ラレテキルノデアル。

第一ニ大東亞文化圏ニ於ケル上海ノ地位ヲ考ヘ直シテ見ナケレバナラナイ。上海ハ恐ラク今後大イニ變ルデアラウ。投機業者ノ、又ハ獵奇家ノ樂天地トシテノ上海ハ再ビ永久ニ歸ツテ來ナイコト議論ノ餘地ハナイ。併シ廣大ナ大陸ヲ背後ニ持チ、ソレヲ貫ク長江ノ河口ヲ扼スル上海ノ地位ニ變化ハナイ。太平洋ノ港トシテノ上海ノ地位モ變ル筈ハナイ。而シテ上海百年ノ歴史ハ、ソレノ作リ出シタ今日ノ上海ノ特殊ナ社會的環境ト共ニ、一ツノ文化的中心トシテノ上海ノ地位ヲ愈々重大ナモノトスル。上海ノ大東亞文化圏内ニ於ケル將來性ハ洵ニ大キイト云

ハナケレバナラナイ。日本ノ立場カラ見テ、上海ハ大東亞文化戰ノ戰略據點トシテ、重大ナ役割ヲ果スコトニナルデアラウ。上海ノ文化問題ハ、全テ以上ノ點ヲ明確ニ意識シタ上デ討議サレナケレバナラナイ。

第二ニ、我々ハ、大東亞建設ニ於ケル日華兩國民ノ役割ヲ考ヘテ見ナケレバナラナイ。將來ノ運命ヲ左右スルモノハ誰ヨリモ先ヅ日本人デアル。然シテ日本ト共ニ大東亞建設ノ責任ヲ最モ有力ニ分擔シ得ルモノハ中國デナケレバナラナイ。日華兩國ノ役割ハ實ニ大キイ。兩國關係ヲ健全ナル基礎ノ上ニ再建シ發展セシメ得ルカ否カニ、大東亞ノ將來ハ懸ツテキルト見テモヨイ。コノ意味ニ於ケル日華兩國文化交流ノ道場トシテノ上海ノ地位ハ改メテ檢討セラレルニ値スルノデアル。十二月八日ヲ契機トシテ起リツツアル各方面ノ變化ハ中國人ノ間ニ幾ツカノ重大ナ心理的轉換ヲ誘致シツツアル。日華兩國間ノ新事態ハ現ニ我々ノ面前ニ起リツツアルノデアル。我々ハ遠キ將來ニ思ヲ致スコトノ深クアレバアル丈ケ、今日ノ對策如何ニツキ愼重ヲ期セザルヲ得ナイノデアル。

左ニ掲ゲル上海文化問題ニ關スル本委員會ノ觀察並ニ試案ハ、以上ノ諸點ヲ基礎トシテ行ツタ意見交換ノ收穫ノ一部デアル。遠イ將來ニ關スル提案ト共ニ、目前ノ措置ニツイテノ若干ノ試案ガ併セテ擧ゲラレテキルノハ、コノ二ツノ事柄ガ分離シテ考ヘラレナイカラニ他ナラナイ。

一、日本文化機關進出ノ必要

文化工作ハソノ背後ニ一定ノ高サノ文化在ツテ始メテ可能デアル。過去ノ歷史ニ鑑ミルニ、思想、科學、醫術、何レノ分野ニ於イテモ質ノ高ク、而モ相手方ノ吸收シ得ル方式ニ順應シテ作用シタモノガ廣ク深ク滲透シテキル。

上海ヲ中心トシテ日本ガ大東亞的規模ニ於イテ一ツノ文化工作ヲ行ハントスルナラバ、何ヨリモ先ヅ、此處ニ一ツノ文化的據點ヲ造リ上ゲナケレバナラナイ。我ガ文化水準ヲ正シク反映セシメタ歷タル文化施設ヲ此ノ土地ニ持タズシテ、日本文化ノ高サヲ說明シテモ徒勞デアル。陸戰ニ於イテモ海戰ニ於イテモ最モ優秀ナ新鋭部隊ガ第一線ニ突進シテキル時、文化部面ノ機關丈ケガ大東亞戰爭ノ今日ナホ、東京ヤ京都ニ蹲踞シテ居テヨイトハ考ヘラレナイ。日本ハソノ文化ニ於イテ最モ世界ニ誇ルニ足ルト自信シ、最モ大東亞建設ニ寄與シ得ルト自信スルモノヲ提ゲテ、大東東ノ眞只中ニ進出シテ來ナケレバナラナイ。大東亞ノ領導者タラントスルナラバ、コレハ不可缺ノ要件ナノデアル。

過去ニ於イテ上海ヲ通シテ表現サレタ日本文化ハ決シテ世界ニ誇ル日本文化ノ高サヲ正シク反映シタルモノデハナカツタ。コレハ一面ニハ上海現地文化界ノ問題デハアルケレ共、更ニ多ク日本自體ノ文化面ノ退嬰的書齋趣味ノ責任デアル。戰鬪場裡ニ如何ニ華々シイ勝利アラウトモ、文化面ニ於ケル進出ナクシテハ大東亞ノ建設ハ不可能デアル。日本ノ對外文化工作ハ此ノ際、須ラクソノ基地ヲ上海ニ進メルベキデアラウ。上海ハカカル基地トシテ十二分ニ利用サルベキ充分ナ潛在力ヲ持ツテ居ルト言ヘル。

二、上海ニ於ケル日本文化界ノ强化

日本文化機關ノ上海進出ノ急務ナルコト前述ノ如クデアル。併シ當面ノ問題トシテハ現在與ヘラレタ條件ノ下ニ於ケル上海日本文化ノ昂揚强化コソ望マシイ。上海ノ地位ハ、從ツテソノ責任ハ、十二月八日ヲ以ツテ一變シタ。上海日本文化界ハ新シイ矜持ヲ以ツテ上海ニ於ケル日本文化ノ昂揚コソ大東亞建設ノ上ノ重要ナ礎石デアル

トノ自覺ノ下ニ現狀ヲ檢討シ再出發ヲシナケレバナラライ。質ニ於テモ組織ニ於テモ、且又氣魄ニ於イテモ今日コソ一大飛躍ノ時デアル。日支文化ノ交流モコレアツテ始メテ意義ガアル。戰場ニ於テハ兵力ノ少キヲ訟ヘルコトハ許サレナイ。上海文化界ハソノ無力デアレバアル丈ケ、一層ソノ力ヲ協セ、互ニ相援ケテ、ソレニ課セラレタ任務ニ從ハネバナラナイ。內ニ力ガ充實シ蓄ヘラレタル時、ハジメテ他ヲ率キツケル力ヲ持ツトスルナラバ上海ヲ中心トシテノ大東亞文化戰ハ、先ヅ我ガ陣營ノ統整ニハジマラネバナラナイ。

中國側トノ接觸ノ促進、コレガ大東亞文化戰體制ヘノ領導、コレ等ノ問題ハ、右ノ根本問題ガ正當ニ取上ゲラレ、解決セラレルコトナクシテハ期待スルコトガ出來ナイ。

三、日本側文化關係當局ノ問題

文化關係當局ノ間ニ充分ナル相互聯絡ノ存スルコトハ、日本トシテノ一貫セル方針ヲ持ツ上ニ絕對ニ必要デアル。

問題ノ性質上、政治、經濟工作ニ比シ遙ニ捕捉シ難ク、又ソレノ遂行ニモ長年月ヲ要ス文化工作ハ、本來官廳ノ仕事トシテ適シテヰナイ。併シコレガ方針ニツイテハ、當然、日本トシテノ一貫シタモノガ有ツテ然ルベキデアリ、又公ケノ機關カラノ庇護支持アツテハジメテソノ目的ノ貫徹ヲ期シ得ルノデアル。此ノ點歐米諸國ガ對支文化工作ニ當リ採ツタ方法ハ多クノ示唆ヲ與ヘル。

文化問題ハ食糧問題ノ如ク差迫ツタ問題トシテ表現サレナイ。從ツテ非常時ニ於イテハ動モスレバ第二義的ノ事項トシテ處理サレ、又ハ忘レ去ラレテシマフ虞レガアル。併シ差迫ツタ目前ノ問題ガソノ意味ニ於イテ常ニ最モ重大ナモノデアルトハ限ラナイノデアル。日本ノ對支文化工作ハ今日大キナ轉換期ニ立ツテヰル。民間人ガコノ問題ニ獻身スルト同ジク、當局ガコレノ重要性ヲ充分認識シテ百年ノ計ヲ正シク樹立スルコトハ最モ望マシイノデアル。

更ニ又刻下ノ問題トシテモ中國側各文化機關ガ再編成時代ニ入リツツアル今日、日本側ニ於テ、日本ヲ代表シ充分ナル權威ヲ以ツテ、コレニ理解アル忠言指導ヲ與ヘ得ル明確ナ機關ノ存在ハ喫緊事ト考ヘルノデアル。

四、中國側知識階級ノ獲得

事變ヨリ大東亞戰爭ヘノ轉回ヲ契機トシテ上海ニ於ケル中國知識人ノ對日心理ニ大キナ變化ノ起リツツアルコトハ顯著ナル事實デアル。一方ニ國民政府强化ヲ國策トシ、而モ他方現實ノ問題トシテ上海ヲ通シテヨリ廣イ範圍ニ亘ル中國民心ヲ把握セントシツツアル日本ニトツテ、コノ問題ノ處理ハ相當微妙纖細ナル配慮ヲ必要トスル。併シ實際ニ於イテハ中國民心ノ把握ト國民政府ノ强化育成トハ、決シテ矛盾セルモノデハナク、何レモ同ジ線ニ沿フモノデアリ、結局問題ノ歸スル所ハ方法トコレヲ行フ場合ノ速度如何ニアル。形式乃至名目ニ拘泥スルコトナク愼重ニ事ニ當ルナラバ決シテ困難ナ事柄デハナイ。

文化工作一般トシテモ、日華文化ノ交流ノ問題トシテモ、工作ノ相手方ナリ、交流ノ相手方ナクシテハ考ヘラレナイ。從ツテ今日上海ニ存在スル中國知識人ヲ失望セシメ、又ハ再ビ抗日陣營ニ追ヒヤルコトハ尤モ警戒ヲ要スル。

五、中國側教育機關ノ問題

從來上海ニ殘存シ而モ國民政府管轄外ニアツテ經營サレ來ツタ中國側教育機關ニ對スル處置ハ前述知識階級對策ト相關聯スル。大學ヨリ中學ニ至ル教育機關ハ文化工作ノ對象トシテ最モ働キカケニ容易ナル知識階級ノ集團デアルコトヲ想起スルナラバ、コレヲソノ儘引キツケルコトハ將來ノ中國ノ中堅層ヲ獲得スル上ノ大キナ前提トナルデアラウ。コノ場合ニ於イテモ效果ヲ急グコトハ大イニ警戒スベキデアル。今日ノ所ハ將來大ナル效果ヲ擧ゲル爲メノ着實ナ基礎工作時代ト考ヘネバナラナイ。

殊ニ又一搬ノ國民政府ニ對スル氣持ノ上ニ今日ナホハツキリシナイモノガアルコトヲ以ツテ直チニ反日的ト見ルコトハ危險デアル。日本ハ、寧ロ日本ヲ通ジテ彼等ヲ和平陣營ニ吸收スルノ方針ニ出デ彼等ヲ先ヅ我ガ陣營ニ收容スルノ態度ヲトリ、適當ナル寛容ト說得トヲ以ツテ、全的ニコレヲ和平陣營ニ獲得スルコトガ得策デアルト考ヘル。

教育問題ヲ政治問題ノ一部トシテ目前ノ折衝ヤ妥協ノ具トシテ利用スルコトニモ充分警戒セネバナラナイ。

從來重慶側カラ財政的援助ヲ受ケテ來タ諸學校ニツイテハ早晩經費ノ問題ガ切實化シテ來ルモノト考ヘルガ、一應從來ノ經營者ガ如何ニ問題ヲ調整スルカヲ寧ロ傍觀スルヲ賢明ト考ヘル。學校ノ存立ヲ脅威シナイ限リ彼等ハ彼等ノ間ニ於テ一應立直リノ方策ヲ案出スルト考ヘル。教育方針、殊ニ教科書ノ問題ノ如キモ、寧ロ强制ヲ用ヒズシテ彼等ノ側ヨリ何等カノ提案アルヲ持ツヲ賢明トスル。日本側トシテハソノ機會ヲ捕ヘテ我ガ方針ヲ一歩々々諒解セシメ、推シ進メテ行クコトガ必ズシモ簡單デハナイガ究局ニ於テ最モ無駄ノナイ、效果ノアル方法デハナイカト考ヘル。

六、既存研究機關並ニ資料保存

今回ノ租界進駐ニヨリ日本側ノ手ニ歸シタ、乃至ハ、管理下ニ置カレタ研究機關並ニ資料ハ決シテ少シトシナイ。コレ等ハ將來ノ上海文化建設ノ上ニ極メテ重要ナル基礎的資材デアル。從ツテ日本ハ日本ノ爲メニ、而シテ上海、大東亞ノ爲メニ、コレ等ノ資材ノ散佚ヲ防止シ、極力コレガ保存ニ努力スベキデアル。

國內ニ蟄居シテ机ノ上デ大陸問題ヲ調査シタリ論ジタ時代ハ遠ク過ギ去ツタ。而モ從來我々トシテソノ希望ヲ抱キ乍ラ而モ實體ニ手ヲ觸レテ研究スルノ機會ノナカツタ幾ツカノ資料モ、今日デハ直接利用シ得ルニ至ツタ。日本トシテ、大陸研究機關、研究者ヲ少クトモ上海迄進出セシメルコトハ刻下ノ急務デアリ、又情勢ハカカル結果ヲ齎スト考ヘラレル。總テノ資料ハ、ソレノ造ラレタ還境內ニ在ツテ始メテ正シク理解セラレ、本來ノ面目ヲ發揮シ得ル。從ツテ上海ニ現存スル資料ハ努メテ上海ノ土地ニ止メ、一時ノ便宜ノ爲メニコレヲ散逸セシメルコトナキヲ期サネバナラナイ。

將來ノ問題トシテハ接收サレタ資料ヲ統合シ大東亞研究機關ノ基本的資料タラシメルコトモ考ヘラレル。コレガ爲メニハ各界ヲ網羅セル委員會ノ下ニ、一應資料ノ管理ヲ行フ必要ガアラウ。曾ツテ南京占領後行ハレタ資料整理ハ、ソノ資料ガ當然中華民國ニ所屬スルモノタルガ爲メ、資料ハ既ニ國民政府ニ返還セラレ、整理事業モ一段落ヲ告グルニ至ツタ。併シ今回接收セル資料ハ性質ニ於テ異リ、從ツテソノ處置ニ於テモ異ル。日本ハ遠大ナル計畫ノ下ニコレヲ大東亞ノ爲メニ最モ有效ニ利用スベキデアル。コレガ又、日本ノ爲メニ最モ有効ナル利用方法デモアルト考ヘルノデアル。

第二項　上海ニ於ケル放送事業ノ再編成措置(案)

(昭和十七年七月一日提出)

(一)放送現態ノ檢討

一、現地放送事業ノ意義

上海ニ於ケル放送事業ガ、我ガ方ノ管理乃至ハ指導下ニ置カレテヰルノハ、恐ラク次ノ二點ニ基クモノデアラウ。即チ、ヨリ直接的ニハ作戰目的達成ノタメノ諸放送ヲ障碍ナク遂行センガタメデアリ、從ツテ、之ヲ裏返シニシテ見レバ、我ガ方ノ作戰ヲ妨害スルガ如キ敵性乃至第三國ノ諸放送ヲ制御シナクテハナラナイカラデアル。而シテ、直接作戰目的ニ出ルモノデハナイガ、宣撫的乃至建設的意圖ヲ以テナサレル謂ハヾ日常的諸放送デアリ、之ヲ別言スレバ凡ユル放送手段ニ我ガ方ノ聖戰目的ヲ反映セシメルコトニヨツテ、華人並ビニ第三國人、敵國人等ハ勿論、海外在留ノ日本人ノ間ニ協力的雰圍氣ヲ醸成シ、以テ國是ノ實現ヲ期セントスルモノニ他ナラナイ。作戰的意義ヲ擔フ諸放送ニツイテハココデ論ズベキデハナイ。ココデハ專ラ、後者ノ一般日常的放送ニツイテ檢

討シテ見タイ。上海ニ於テ我ガ方ガ統制シ管理シ指導シツツアル放送事業ハ、言フマデモナク、我對外文化政策ノ一環トシテ自ラヲ位置スルモノデアル。從ツテ、**ラジオ**放送ヲ媒介トシテ、我ガ政治ヲ實現スルコトコソ、一切ノ放送計畫ノ指導理念デアラネバナラナイ。放送事業ソノモノハ一個ノ文化事業デアルガ、我々ガコレヲ對外文化政策ノ視角カラ採リ上ゲル限リ、上述ノ指導理念ヲ外ニシテハ考ヘラレナイ。カウシタ角度カラ、現下ノ上海ニ於ケル放送事業ノ態樣ヲミルトキ、再考參思スベキ點ガ尠クナイ。放送技術ソノ他ノ專問ニ亘ル點ハ今ハ一應問題ノ外ニ置キ、唯問題ノ所在ヲ指摘スルニ止メ、茲デハ放送用語（當該用語ノ擔フ民族文化諸形象ヲモ含メテ）ノ問題ヲ中心トシテ、極メテ一般的ナ放送指導トソノ再編成方針ヲ、現態分析ノ中カラ引出シテ見タイト思フ。

二、放送事業ノ現況

今日、當市ニ在ツテハ六ツノ放送局ガ存在シテキルガ、ソノ國籍、使用波長並ニ用語等ヲ一覽スレバ左列ノ如クデアル。但シ、第三國系ノモノニツイテハ調査不充分デアツテ正確ナモノトハ言ヒ難イ。

フランス電台（**フランス**籍）
短波及ビ中波
用語　**フランス**語、英語

ソ聯電台（**ソ聯**籍）
短波及ビ中波
用語　ロシア語、英語、**ドイツ**語、北京語

ドイツ電台（**ドイツ**籍）
短波及ビ中波
用語、**ドイツ**語、ロシア語、**フランス**語、英語、北京語

XMHC（大東亞戰爭後再開セルモノ）
中波
用語　英語

XMHA（東亞電台）（大東亞戰爭後再開セルモノ）
短波及ビ中波
用語　英語

上海放送局（中國籍）
短波及ビ二種類ノ中波
短波ハ對敵放送ニ使用、中波ノ第一放送ハ支那人向ニテ用語ハ、北京語、上海語、廣東語、英語
中波ノ第二放送ハ、所謂『大東放送局』ニシテ日本人向、用語ハ大部分日本語、英語**ニュース**、上海語**ニュース**ヲモ含ム。

三、大東亞戰前トノ比較